京都市内遺跡試掘立会調査概報

平成２年度

京　都　市　文　化　観　光　局

序

京都市は、古来豊かな自然と人に恵まれ、平安京建都以来、日本文化のふるさととして多くの人々に親しまれています。

しかし、今日、歴史・文化遺産から醸しだされる古都の環境には誠に厳しいものがありますが、「保存と開発の調和のとれた活力あるまちづくり」、「国際性豊かな教育・文化のまちづくり」等を進めなければならないと考えています。

また、「京都市健康都市構想」や「新京都市基本計画」を策定し、建都以来の歴史・文化遺産の上に立った新たな文化を創造し、発展させ、京都のまちを、環境を、私たちの子孫に引き継いでいく重要な使命があると考えています。

この報告書は、京都市が平成２年度に文化庁国庫補助を得て実施いたしました京都市内埋蔵文化財の調査報告であります。本書が少しでも京都の歴史を知るための資料として学術研究はもとより、文化財の保護・普及のため広く一般の方々に活用されることを望んでおります。

終わりに、発掘調査に御協力いただいた市民の皆様をはじめとし、この事業を進めるにあたり御指導・助言をいただいた文化庁記念物課・京都府文化財保護課並びに関係各位にお礼を申し上げるとともに、発掘調査を担当していただいた財団法人京都市埋蔵文化財研究所に謝意を表します。

平成３年３月

京都市文化観光局

例　　言

1．本書は京都市文化観光局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助に伴う平成２年度の京都市内遺跡試掘立会調査概要報告である。

2．本書の執筆分担は次の通りである。

Ⅰ　本弥八郎　Ⅱ　百瀬正恒　Ⅲの１・２（遺構）家崎孝治　Ⅲの２（遺物）・３　吉村正親　Ⅲの2（瓦類）吉本健吾　Ⅳ・Ⅴ　久世康博　Ⅳの３　木下保明　Ⅴの３（瓦）吉本　Ⅵの1（ＨＬ123）　尾藤徳行　（ＨＬ10）梅川光隆　Ⅵの２吉本　Ⅵの3　尾藤

3．写真は遺構の一部を除き村井伸也が担当した。

4．測量は辻純一、宮原健吾が担当した。

5．本書に使用した遺跡、遺構の記号は奈良国立文化財研究所の使用例に従った。

6．位置の記載は平面直角座標系Ⅵによる。京都市遺跡測量基準点を使用し、記載した数値はＸ、Ｙともｍ単位で、水準はＴ．Ｐである。

7．本書作成に当たっては、本弥八郎、久世康博が担当し、上記の執筆者の他に出水みゆき、川村雅章、北川和子、幸明綾子、近藤章子、多田清治、田中利津子、中村敦、布川豊治、端美和子、本田次男、松尾武彦、南孝雄、村上勉、竜子正彦が参加した。

8．本書に掲載した地図は、京都市長の承認を得て同市発行の都市計画基本図1／2500と京都国立博物館蔵の1／1000の地図を使用して、以下のごとく調整したものです。

平安宮跡　図版２　8000分の１（京都市都市計画局発行　聚楽廻、壬生）

平安京跡　図版３～12　10000分の１（同上、花園、聚楽廻、御所、山ノ内、壬生、三条大橋、西京極、島原、五条大橋、中河原、梅小路、京都駅）

植物園北遺跡、中臣遺跡、白河街区、岡崎遺跡　図版13　10000分の１（同上、植物園、山科、勧修寺、御所、吉田、三条大橋、岡崎）

鳥羽離宮跡、下鳥羽遺跡　図版14　10000分の１（同上、城南宮、竹田、下鳥羽、中書島）

伏見城跡　図版15　10000分の１（同上、下鳥羽、丹波橋、桃山、横大路、中書島）

平安宮朝堂院跡　図１　2000分の１　（京都国立博物館発行　聚楽廻、二条城）

平安宮朝堂院復原図　図13　2000分の１　（京都国立博物館発行　聚楽廻、二条城）

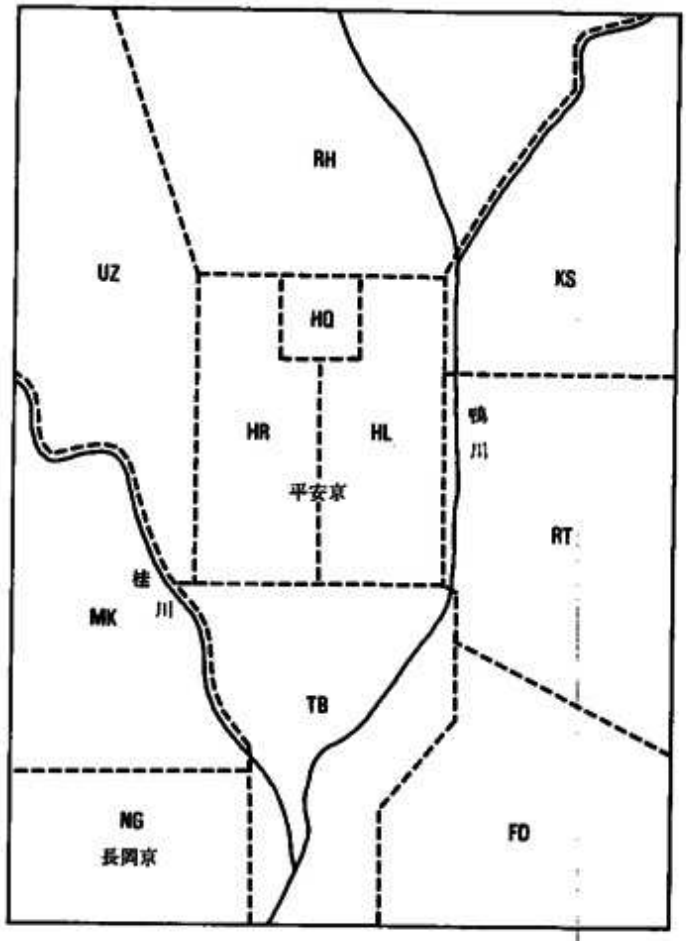
平安宮内裏跡　図8　2000分の１　（同上、智恵光院）

穀塚古墳　図15　5000分の１　（京都市都市計画局発行　松尾、山田）

淀城跡　図20　5000分の１　（同上、淀）

淀城復原図　図23　5000分の１　（同上、淀）

地区設定図



目　次

I　調査概要……1
II　平安宮朝堂院跡(HQ25)……4
　1　調査経過……4
　2　遺　構……5
　3　遺　物……10
　4　まとめ……21
III　平安宮内裏跡(元年度HQ73)…28
　1　調査経過……28
　2　遺構・遺物……29
　3　まとめ……38
IV　穀塚古墳（元年度MK11）……39
　1　調査経過……39
　2　遺　構……40
　3　遺　物……42
　4　まとめ……44
V　淀城跡（TB29）……46
　1　調査経過……46
　2　遺　構……47
　3　遺　物……49
　4　まとめ……51
VI　主要な出土遺物……55
　1　土器類……55
　2　瓦　類……57
　3　金属器類……63

図版目次

図版1　平安京図葉分割図
図版2　平安宮
図版3　右京　北辺・一・二・三条　三・四坊
図版4　右京　北辺・一・二・三条　一・二坊
図版5　左京　北辺・一・二・三条　一・二坊
図版6　左京　北辺・一・二・三条　三・四坊
図版7　右京　四・五・六・七条　三・四坊
図版8　右京　四・五・六・七条　一・二坊
図版9　左京　四・五・六・七条　一・二坊
図版10　左京　四・五・六・七条　三・四坊

図版11　右京　八・九条　三・四坊　左京　八・九条　一・二坊

図版12　右京　八・九条　一・二坊　左京　八・九条　三・四坊

図版13　植物園北遺跡　中臣遺跡　白河街区　岡崎遺跡

図版14　鳥羽離宮跡　下鳥羽遺跡

図版15　伏見城跡

図版16　遺跡　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版17　遺跡　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版18　遺跡　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版19　遺跡　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版20　遺跡　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版21　遺跡　穀塚古墳（元年度MK11）

図版22　遺跡　淀城跡（TB29）

図版23　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版24　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版25　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版26　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版27　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版28　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

図版29　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版30　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版31　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版32　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版33　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版34　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

図版35　遺物　穀塚古墳（元年度MK11）

図版36　遺物　淀城跡（TB29）

図版37　遺物　平安京・平安京外出土瓦

図版38　遺物　平安京・平安京外出土瓦

図版39　遺物　平安京・平安京外

図版40　遺物　平安京（HL44）

挿 図 目 次

図1　調査位置図……4
図2　調査別トレンチ配置図……5
図3　ＳＤ10実測図……6
図4　遺構実測図……7
図5　ＳＤ10(東溝)瓦出土状況実測図、
　　軒瓦の出土位置図……8
図6　SD10出土軒丸瓦拓影・実測図 …12
図7　SD10出土軒平瓦拓影・実測図 …13
図8　SD10、その他の遺構出土軒丸・
　　軒平瓦拓影・実測図……14
図9　SD10、SE17出土軒丸・軒平瓦拓影…15
図10　刻印・線刻の丸・平瓦拓影……17
図11　刻印・線刻の丸・平瓦拓影……18
図12　SD10、SD36、SK25出土土器実測図 …20
図13　平安宮朝堂院復原図……25
図14　調査位置図……28
図15　遺構実測図……29
図16　土器実測図……31
図17　土器実測図……32
図18　土器実測図……33
図19　軒瓦拓影・実測図……36
図20　軒瓦拓影・実測図……37
図21　調査位置図……39
図22　遺構断面図……40
図23　調査地点・復原図……41
図24　遺物拓影・実測図……43
図25　遺物実測図……44
図26　調査位置図……46
図27　遺構実測図・断面図……48
図28　遺物実測図、軒瓦拓影・実測図…50
図29　淀城復原案……53
図30　土器実測図……55
図31　土器実測図……56
図32　軒瓦拓影・実測図……58
図33　軒瓦拓影・実測図……59
図34　軒瓦拓影・実測図……60

表 目 次

表1　昭和56年～平成2年の10年間の試掘・立会調査件数 ……3
表2　淀城跡周辺調査一覧表 ……54
調査一覧表……64

Ⅰ　調査の概要

本報告は、京都市文化観光局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助による平成２年度の京都市内遺跡の試掘・立会調査概要報告である。本書では、平成２年１月４日より平成２年12月28日までの間に実施した試掘立会調査の概要を報告する。

調査件数は、試掘調査135件　立会調査479件の計614件である。その内訳は、平安宮地区（ＨＱ）103（内試掘22）件、平安京右京地区（ＨＲ）114（同27）件、平安京左京地区（ＨＬ）88（同35）件、太秦地区（ＵＺ）５（同２）件、洛北地区（ＲＨ）29（同５）件、北白川地区（ＫＳ）20（同５）件、洛東地区（ＲＴ）47（同６）件、伏見･醍醐地区（ＦＤ）32（同６）件、鳥羽地区（ＴＢ）38（同14）件、南・桂地区（ＭＫ）12（同２）件、長岡京地区（ＮＧ）26（同11）件である。以上の内、特に遺構の残存状態の良好な35件については発掘調査に切りかえた。ここでは本年度の調査において知り得た新たな成果について以下その概略を述べる。

平安宮・京域地区

平安宮域の朝堂院跡（ＨＱ25）の試掘では、北縁回廊に推定できる段状遺構や溝状遺構を検出したので、朝堂院の回廊位置をさらに明確にするため発掘調査に切りかえ、貴重な成果を得た。詳細は本書で報告している。内裏跡（元年度ＨＱ73）の試掘調査では、２基の土壙から平安時代の土器類が多量に一括出土した。これらの遺物も本書で報告している。中務省跡（ＨＱ２）の試掘では、瓦を組み合せた暗渠状遺構を検出した。陰陽寮跡（ＨＱ50)の試掘では、同寮の東限遺構である幅３ｍ、深さ0.3mの南北溝を検出した。後の立会でも同じ溝を再確認している。正親司推定地の西側（ＨＱ72）の試掘では、西大宮大路東側溝を検出した。平安宮の西限にあたる西大宮大路の東側溝は、後に２回実施した右近衛府跡の試掘（ＨＱ16）・（ＨＱ39）でも検出しており、この２件は発掘調査に切りかえて成果をあげている。

平安京域では条坊関連遺構を多く確認している。まず右京域では、五条二坊十五町（ＨＲ64）の試掘で道祖大路の東側溝を、六条四坊九町（ＨＲ18）の試掘では五条大路南側溝を検出した。七条一坊六町（ＨＲ140）の立会では町の中央を画する南北溝を、八条三坊八町（ＨＲ141）の立会では七条大路南側溝を検出した。

左京域では、北辺三坊四町（ＨＬ120）の試掘では一条大路の路面を２面確認した。二条

二坊十四町（ＨＬ102）の試掘では油小路東側溝を検出した。二条三坊十三町（ＨＬ168）の立会では二条大路の路面を、二条四坊三町（ＨＬ85）の立会では高倉小路推定地に路面を検出した。二条四坊十四町（ＨＬ45）・（ＨＬ113）の立会では東京極大路の路面を３面確認した。三条四坊十一町（ＨＬ６）の立会では三条大路路面を確認した。四条三坊十三町（ＨＬ18）の試掘では四条大路の北側溝を検出した。四条四坊十六町（ＨＬ67）の試掘では東京極大路の路面を５面確認した。五条一坊二町（ＨＬ49）の調査では朱雀大路の東側溝を、五条二坊十町（ＨＬ189）の試掘では東堀川小路の東築地に伴う側溝を検出した　六条三坊七町（ＨＬ72）の試掘では六条坊門小路の路面や多くの遺構を検出した為発掘調査に切りかえた。七条一坊三町（ＨＬ73）の立会では七条坊門小路路面を検出した。八条三坊十六町（ＨＬ19）の試掘では七条大路の路面を含む室町時代から古墳時代までの遺構が認められた為、発掘調査に切りかえた。九条一坊六町（ＨＬ36）の立会では皇嘉門大路の路面を検出した。

条坊遺構以外のものとしては、右京では、五条三坊五町（ＨＲ79）の試掘で平安時代前期～後期の柱穴、溝、土壙、池状の堆積などを確認し、発掘調査に切りかえた。六条三坊十四町（ＨＲ20）の試掘では弥生時代後期の溝遺構を検出した。七条二坊十町（ＨＲ15）では平安時代前期の建物跡を２棟以上検出した。

左京域では二条三坊十町（ＨＬ122）の試掘では、江戸時代から弥生時代までの良好な遺構面や包含層を確認した。五条三坊八町（ＨＬ75）の試掘では、平安時代～室町時代の遺構の他に弥生・古墳時代の溝遺構などを検出し、発掘調査に切りかえた。六条一坊十五町（ＨＬ47）の試掘では、鎌倉時代末期～室町時代前期を主体とした良好な遺構群を検出したため、発掘調査に切りかえた。

平安京域外の地区

仁和寺院家跡（ＵＺ12）の試掘では、平安時代後期から鎌倉時代にかけての柱穴・土壙・溝を検出した。植物園北遺跡（ＲＨ１）の試掘では、５箇所のトレンチで弥生時代末期～古墳時代前期の遺物包含層と竪穴住居跡を１棟、（ＲＨ12）の試掘でも古墳時代前期の竪穴住居跡を５棟分を確認し、いずれも発掘調査に切りかえた。北野遺跡（ＲＨ25）の試掘では、平安時代前期の柱穴、幅４ｍの南北溝を検出した。北白川廃寺（ＫＳ４）・（ＫＳ７）の試掘では縄文土器や北白川廃寺に関係すると考えられる遺構・遺物を検出し、発掘調査に切りかえた。六波羅政庁跡（ＲＴ46）の試掘では、同政庁に関係する12世紀末～13世紀の柱穴・溝・土壙・石敷遺構などを検出した。法住寺殿跡（ＲＴ35）の調査では、平安時代末

～鎌倉時代にかけての石敷の池汀部分を検出し、庭園遺構の存在を明らかにした。下鳥羽遺跡（ＴＢ17）の試掘では、古墳時代の包含層及び平安時代の流路を検出した。上鳥羽遺跡（ＴＢ３）の試掘では、湿地状堆積から弥生式土器、縄文式土器を検出した。鳥羽離宮跡（ＴＢ５）の試掘では、弥生～江戸時代の包含層と鳥羽離宮期の土壙などを検出し、発掘調査に切りかえた。淀城跡（ＴＢ29）の試掘では、淀城の堀状遺構検出した為試掘調査を延長した。調査成果は本書に掲載している。長岡京跡（ＮＧ２）の試掘では、長岡京期の堀立柱建物、一条第一小路北側溝、弥生～古墳時代の住居跡４棟などを検出した為発掘調査に切りかえた。長岡京跡（ＮＧ16）の試掘では、東四坊第二小路の東西側溝を検出した。中久世遺跡（ＭＫ７）の試掘では、弥生時代の溝、柱根を検出した。殻塚古墳（ＭＫ11）の立会では、３地点で古墳の周濠を確認し、埴輪、須恵器を検出している。この調査で新たな知見が得られたため本書で報告している。

以上が本年度の試掘、立会調査の主要な成果の概要である。毎年述べられる事ではあるが、都市開発は激しくなる一方で、とどまる気配を見せない。単に、ここ10年来の試掘、立会調査の総件数を年度毎に見るなら、昭和60年をピークにやや減りつつある。しかし実際には、調査の網にかからなくなった小規模な開発・現調査体制では対処しかねるような大規模開発、周知の遺跡以外の地域での開発などは数的に増えつつあるのが現状である。

このような状況のなかで試掘・立会調査の重要性が増しており、同時に遺跡保存と調査体制の在り方が重大な問題として浮かび上がってきている。今後とも日々の調査、研究のなかでそれら諸問題についても真剣に取り組んで行かねばならない。

表１　昭和56年～平成２年の10年間の試掘・立会調査件数

年度/地区	平安宮	右　京	左　京	他地区	試掘計	立会計	計	内発掘
昭和56	676				104	572	676	12
57	788				117	671	788	13
58	415			230	101	544	645	10
59	94	195	318	291	127	771	898	14
60	99	215	336	341	145	846	991	16
61	83	205	306	339	91	842	933	13
62	82	191	310	305	124	764	888	31
63	101	182	241	294	163	655	818	36
平成元	84	154	204	248	142	547	690	35
2	103	114	188	209	135	479	614	35

II　平安宮朝堂院跡（HQ25）

1　調査経過

京都市上京区丸太町通土屋町西入ル中務町491−44他で、店舗兼用マンション建設の計画があり、1990年6月11日に試掘調査(HQ25-1)を行った。調査で空地に幅1.3m、長さ10mの南北方向のトレンチを設定し遺構の精査をしたところ、東西方向の溝状遺構が検出され、周辺の調査成果から、平安宮朝堂院北回廊に関係する遺構の一部と推定された。

試掘で朝堂院に関係した遺構の存在が確認され、また、試掘調査区の東部には朝堂院の東北コーナー部も推定されることから、京都市埋蔵文化財調査センターの指導で関係者と協議を行い、原因者負担で発掘調査を実施することになり、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が調査を担当した。調査(90HK-DP)の実施にあたっては、朝堂院回廊のコーナー部に

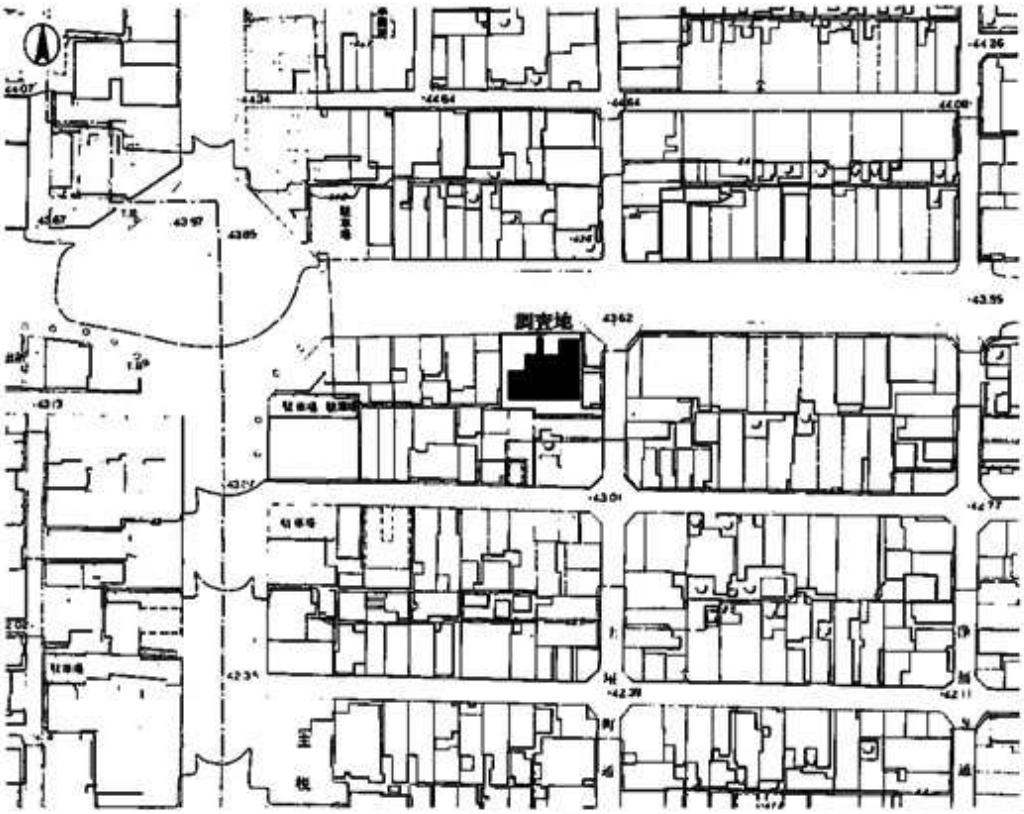


図1　調査位置図（1/2,000）

関係する地点を中心にトレンチを設定すべく計画したが、関係者の納得が得られなかったので、工事計画予定地の約262.54㎡の内、隣接する民家との安全対策を講じた上で、約186㎡を8月6日から9月14日まで調査した。

この調査の過程で朝堂院東回廊の遺構が検出され、試掘調査の成果から敷地内に朝堂院東回廊と北回廊のコーナー部の存在が確実視された。平安宮の定点を押さえるためにもコーナー部を含めた遺構の調査の必要性がでてきた。しかし、該当部分は開発にかからないことから、平安京の試掘立会調査に関連した国庫補助事業で調査を行うことになり、試掘調査区の拡張部として20㎡を調査(HQ25-2)した。

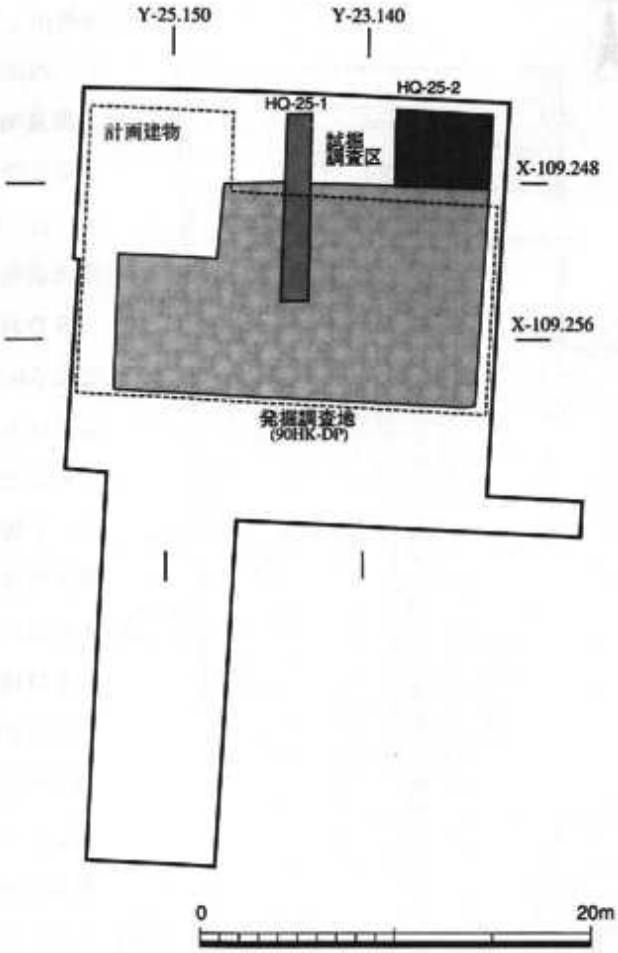


図2　調査別トレンチ配置図 (1/400)

以下、本報告では試掘調査区(HQ25-1)、試掘調査区拡張部(HQ25-2)、発掘調査区(90HK-DP)の関連する3箇所の報告をまとめて行う。試掘調査2回と発掘調査を合わせた調査面積は約210㎡になる。なお、調査終了後、試掘調査で検出した朝堂院回廊のコーナー部は、砂で埋め戻し遺構の保存を図った。

2　遺　構

調査地点は通常この地域でみられる土取り穴などの大規模な攪乱が比較的少なく、遺構面は安定していた。近代の土層を重機で除去した後、遺構の検出を行い、平安時代の遺構

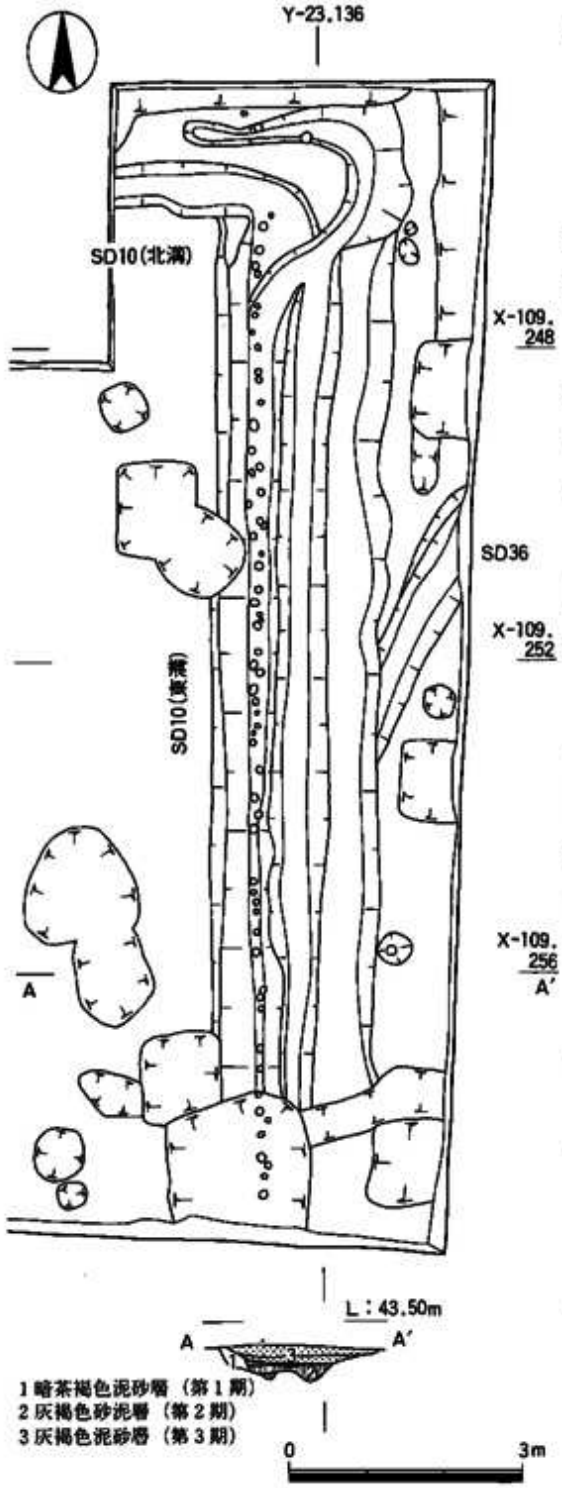


図3　SD10実測図（1/100）

を検出した。遺構は東北部が約0.15m高く、西南に下がる地形をしていた。

奈良時代から平安時代の遺構

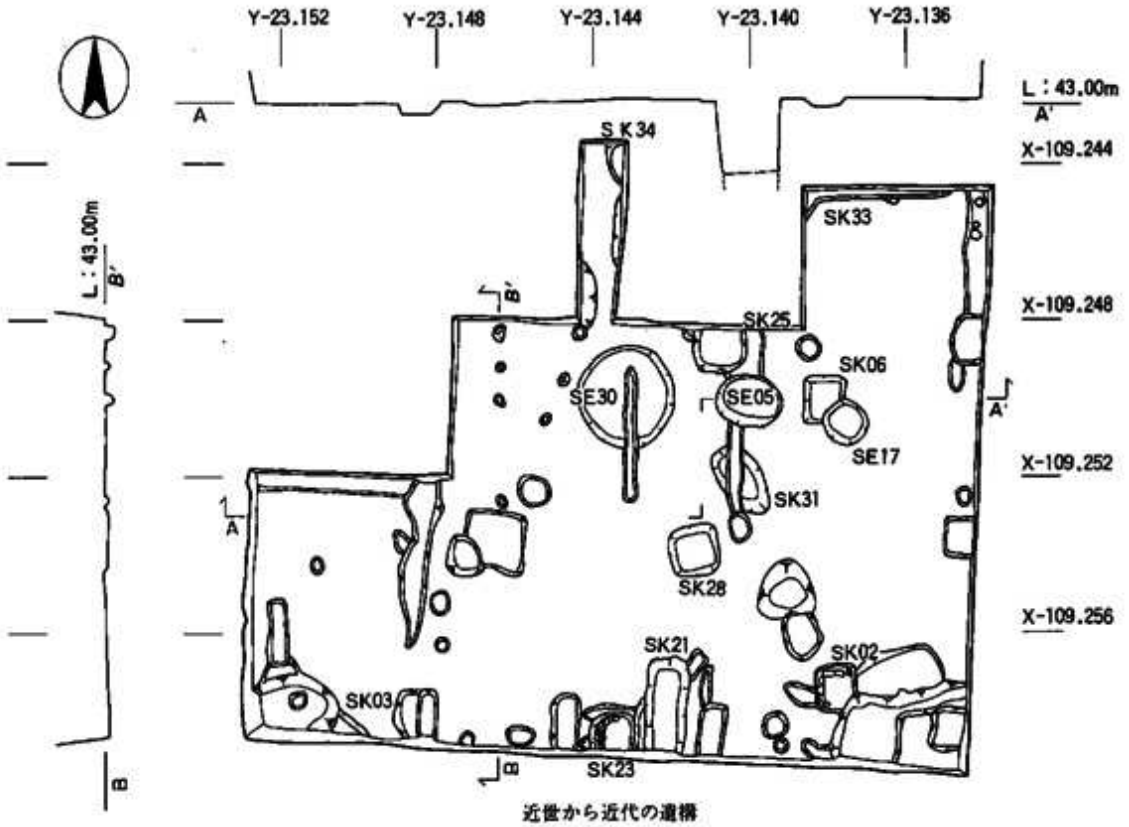
奈良時代の遺構には溝、平安時代の遺構には、朝堂院東回廊・北回廊の雨落溝、溝状遺構がある。

ＳＤ36　幅0.6m、深さ0.2～0.35mで延長６m検出した。北部はトレンチ外で、南部はＳＤ10に切られる。方向は北で東に約27度傾いている。溝の埋土は３層あり、上層は灰色礫混じり砂泥層、中層は暗茶褐色泥砂層、下層は茶褐色泥砂層で、水が流れた痕跡がある。

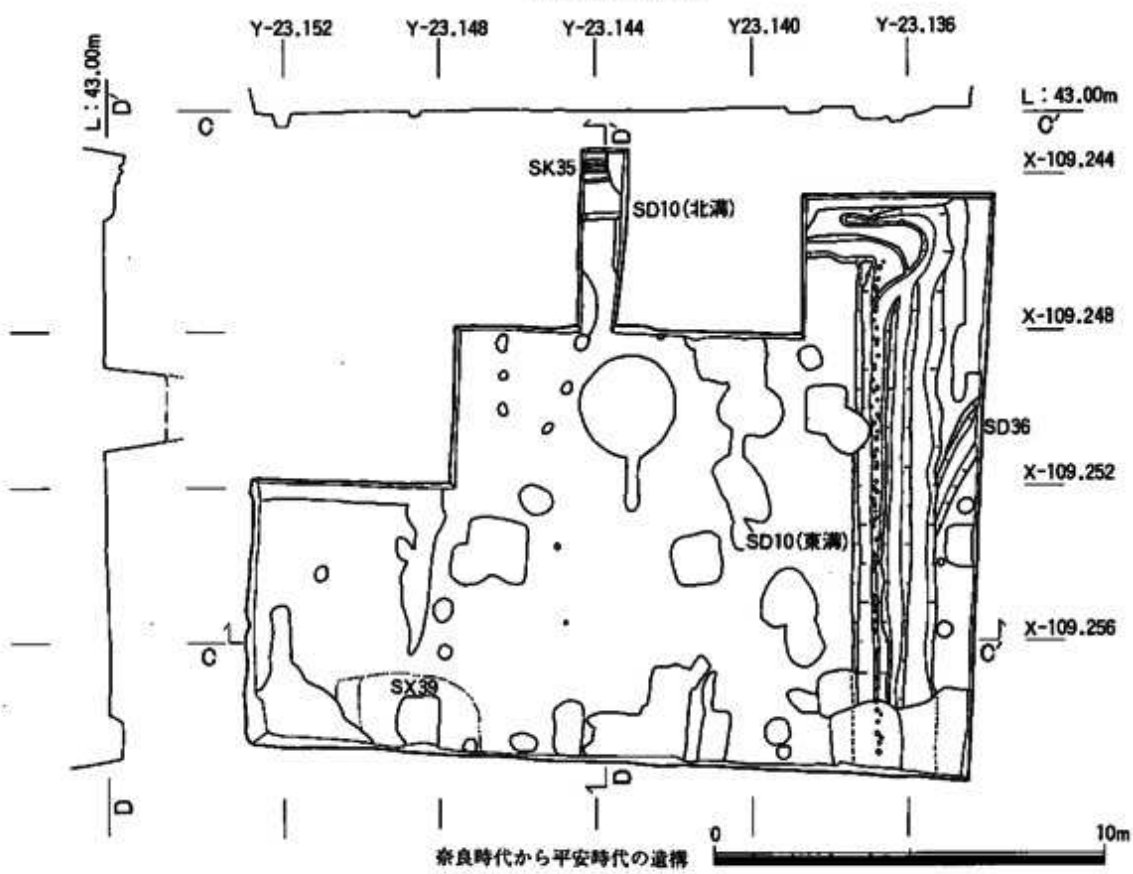
ＳＤ10（東溝）　Ｙ136mラインで近代の土層を重機で排土したところ、南北方向に細長く瓦が堆積していた。これを精査したところ南部は攪乱されていたが、南北方向の幅約2.0mの溝になった。溝は大きく３期の変遷をたどることができる。

１期は溝の西肩部に暗茶褐色泥砂層の堆積層が残っていた。幅は0.5m前後確認したが、東肩は２期の溝に削平され、全体の規模は不明である。

２期は幅１m前後、深さが0.2mあり、西肩部には杭跡がある。杭跡は径５～10cm、深さ５cm前後で60数個出土した。杭穴の間隔は10～20cmで、東溝と北溝のコーナー部で止まり、北溝部には伸びていない。第２期は灰褐色砂泥層が堆積し、細片の土師器・瓦が出土した。



近世から近代の遺構



奈良時代から平安時代の遺構

図4　遺構実測図（1/200）

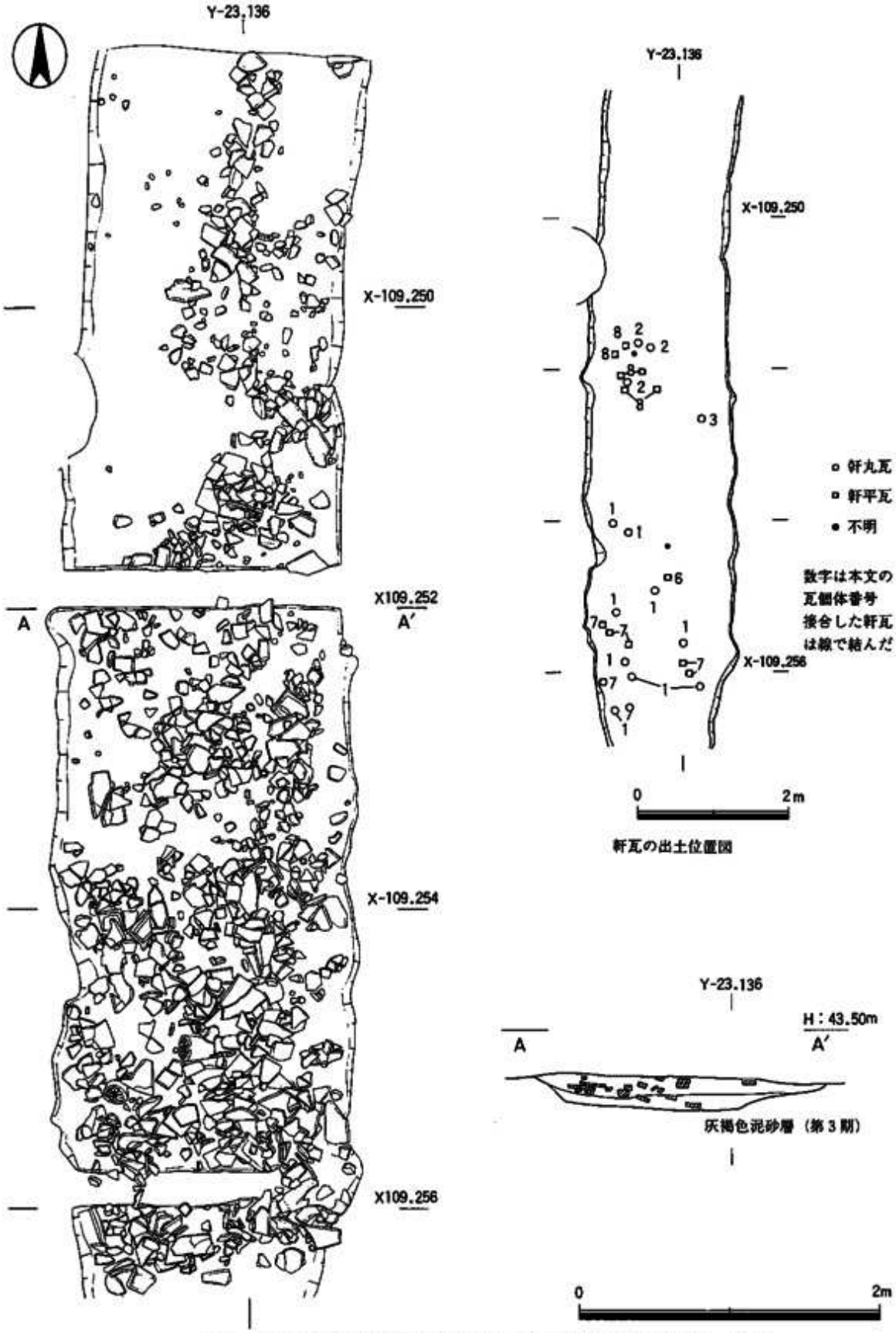


図5　SD10(東溝)瓦出土状況実測図，軒瓦の出土位置図（1/40・1/80）

3期は幅1.8～2.0m前後、深さは南部が深く0.3m、北部は浅く0.1m、2期の溝を東に約0.6m広げている。灰褐色泥砂層が堆積し、低い南部からは軒瓦、丸・平瓦と焼土が多量に出土した。

SD10（北溝） 試掘調査区で検出した東西溝。コーナー部の南肩とでは約1.0mの出入りがあり、コーナー部の方が南にでていた。さらに、底のレベルも試掘トレンチの方が約0.3m深い。

SD10の堆積層は東溝の第3期の埋土と同じであった。東溝と北溝のコーナー部の座標はX-109,246.3m、Y-26,137.2mで、朱雀大路の中心から103m東に位置し、ガス立会調査[1]で検出した朝堂院東回廊基壇とは西に対し約0度15分振れ、平安京条坊の振れ、0度14分13秒に近い値である。SD10は検出位置、方位の振れ、規模から延石の据え付け痕とするには大きく、また、凝灰岩の粉などは出土せず、瓦が多量に出土したことから、朝堂院東・北回廊に伴う雨落溝と考えられる。

SX39 Y147～151m、X257～259mの範囲で暗灰褐色泥砂層を検出した。回廊の内側コーナー部に推定される位置であるため精査したが、基壇の据え付け痕跡などは検出できず、回廊の整地と判断した。

SK35 SD10に先行する土壙ないし溝状の遺構。掘形は箱型で垂直である。東部は近世の土壙で切られ、部分的な検出で性格は不明である。堆積土は暗灰茶色砂泥層で出土遺物はなかった。

近世から近代の遺構

検出した遺構の大半は近世から近代のものであるが、近世の遺構と平安時代の瓦が出土した近代の遺構を中心に記述する。

SK02 南北1.2m、東西1.0m、深さ0.6mの長方形の土壙、南東コーナー部を攪乱で破壊されている。西・北辺を石と瓦で方形に組んでいるが、南・東辺には石組がない。

SK03 トレンチ南西部で検出した土壙。西肩は攪乱で破壊され、大半がトレンチ外にで規模は不明である。暗茶褐色が上層に、下層には暗茶褐色泥砂層が堆積していた。

SK06 SE17に切られる一辺1m前後で方形の浅い土壙。上層には灰色泥砂層が底には灰が堆積していた。

SK21 東西幅1.1m、南北幅2.3m検出したが、南辺はトレンチ外で、規模は不明である。

SK23 東西幅1.1m、南北は1.0m検出したが、東肩は土壙に切られ、南肩はトレンチ外にで規模は不明である。内側に方形に石を組んでいるが西辺だけが残る。

ＳＫ25　南北2.5m、東西１mの規模であるが、ＳＥ５、攪乱などで大きく破壊されている。17世紀前半の遺物が出土した。

ＳＫ28　一辺1.3m、深さ0.6mの方形の土壙。近世の土器・瓦などが出土した。

ＳＫ31　長辺2.0m、短辺1.0m、深さ0.7mの長方形の土壙。近世の遺物に混じって平安時代の瓦が多量に出土した。

ＳＫ33　朝堂院回廊のコーナー部を検出するために設定したトレンチで南肩の一部を検出した。大部分がトレンチ外で規模・性格などは不明である。近世の遺物と平安時代の瓦が少量出土した。

ＳＫ34　試掘トレンチで、南北1.1m、東西0.4mの小規模な土壙を検出したが、トレンチが狭く全体は不明である。

ＳＥ05　径1.7mの井戸、石組・木枠などの構造物は遺存していなかった。近世の遺物が多量に出土した。

ＳＥ17　径1.2mの円形井戸。ＳＥ05と同様構造物はなかった。近代の井戸である。

ＳＥ30　径2.5mの比較的大きな規模の円形井戸であるが、構造物はない。

これら近世の各井戸は、いずれも検出面から1.8mほど掘り下げたが、深いことが予想されたため、底までの掘削は行わなかった。

3　遺　　物

瓦、土師器、黒色土器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、国産陶器、国産磁器、輸入陶磁器、金属製品、石製品などが、各遺構・包含層から整理箱で合計100箱出土した。その内訳は、試掘調査区で３箱、試掘調査区拡張部で11箱、発掘調査区で86箱である。内容別では、平安時代瓦91箱、近世瓦１箱、近世土器・陶磁器４箱、平安時代土器２箱、近世の金属製品・石製品２箱であった。

瓦類はＳＤ10から多量に出土し、その他の近世の遺構などからも少量出土した。軒丸瓦・軒平瓦、丸・平瓦、鬼瓦、塼などがあり、大半が無釉であるが軒丸瓦と丸瓦の一部に緑釉瓦がある。瓦当は平安初期のものが大半で、平安時代中期のものが数点あり、室町時代の軒平瓦が１点ある。

軒瓦の笵については以下のように区別した。笵ごとに１・２と数字で区別し、その同文異笵はＡ・Ｂで分け、また同笵で特徴点を示すために複数掲載したものはａ・ｂとした。

土器類は古墳時代後期の須恵器、奈良時代前期の須恵器・土師器、平安時代前期から中

期の土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器、輸入陶磁器、近世の土師器・国産陶磁器などがあり、量的には大半が近世の土器で平安時代の土器は少なく、古墳時代・奈良時代のそれは10点前後である。

瓦　塼　類

瓦は朝堂院の東・北回廊の東雨落溝(ＳＤ10)から多量に出土したが、近世の井戸、土壙からも平安時代の瓦当、丸・平瓦が出土した。

ＳＤ10出土の軒瓦

1A　複弁８葉蓮華文軒丸瓦　弁は細く、珠文も小さく1Bに比べ彫りが深く、古い笵の形態をとどめている。『平安京古瓦図録』の36・37と同文[2]であるが、同笵例は確認していない。胎土は砂質で灰黒茶色をし、焼成は甘い。胎土・調整から大阪府吹田市の吉志部瓦窯跡の製品であるが、現在同笵は窯跡からは出土していない。１点出土した。

1B　1Aと同文の複弁８様蓮華文軒丸瓦　複弁の線が内側の界線に接しており、同笵が吉志部瓦窯跡[3]にある。完形に近いものが６点、破片が２点出土した。

2a　単弁16葉蓮華文軒丸瓦　複弁が単弁化した文様で、弁は平坦。胎土は粘質で、色調は灰黒色である。ＳＤ10から５点、ＳＫ21から１点出土した。西賀茂角社東・西両群瓦窯跡、醍醐の森瓦窯跡から同笵[4]が出土している。

2b　複弁８葉蓮華文軒丸瓦　2aに比べ弁が盛り上がる。

2c　複弁８葉蓮華文軒丸瓦　瓦当部の下半部の小片であるが、裏面に長さ４cmのＶ字形の溝を刻んでいる。

3a　単弁16葉「官」銘蓮華文軒丸瓦　瓦当部の下半を欠き、残りが悪い。胎土は淡灰褐色で粘質、砂粒を少量含む。「官」銘が逆転し、笵が180度ずれている。西賀茂角社西群瓦窯跡から同笵[5]が出土している。２点出土した。

3b　3aと同笵、中房の「官」銘が明確である。胎土は灰褐色で大粒の砂を少量含む。

4　複弁８葉蓮華文軒丸瓦　複弁で弁間文があり、裏面はへら削りし、平坦である。瓦当部は薄く、文様は中期の瓦当文に似る。胎土は西賀茂瓦窯跡群の製品に似ており、豊楽院に同笵例[6]がある。１点出土した。

5　単弁16葉蓮華文軒丸瓦　弁区の小破片で、同笵を確認できない。胎土は灰色で砂粒を含むが粘質で、焼成は甘い。１点出土した。

6　均整唐草文軒平瓦　下顎の一部を欠くが他は完存している。中心飾りが「小」字形で、左右に３転する唐草文で、小さな珠文を上下の周縁に14個と脇区に１個配す。瓦当面

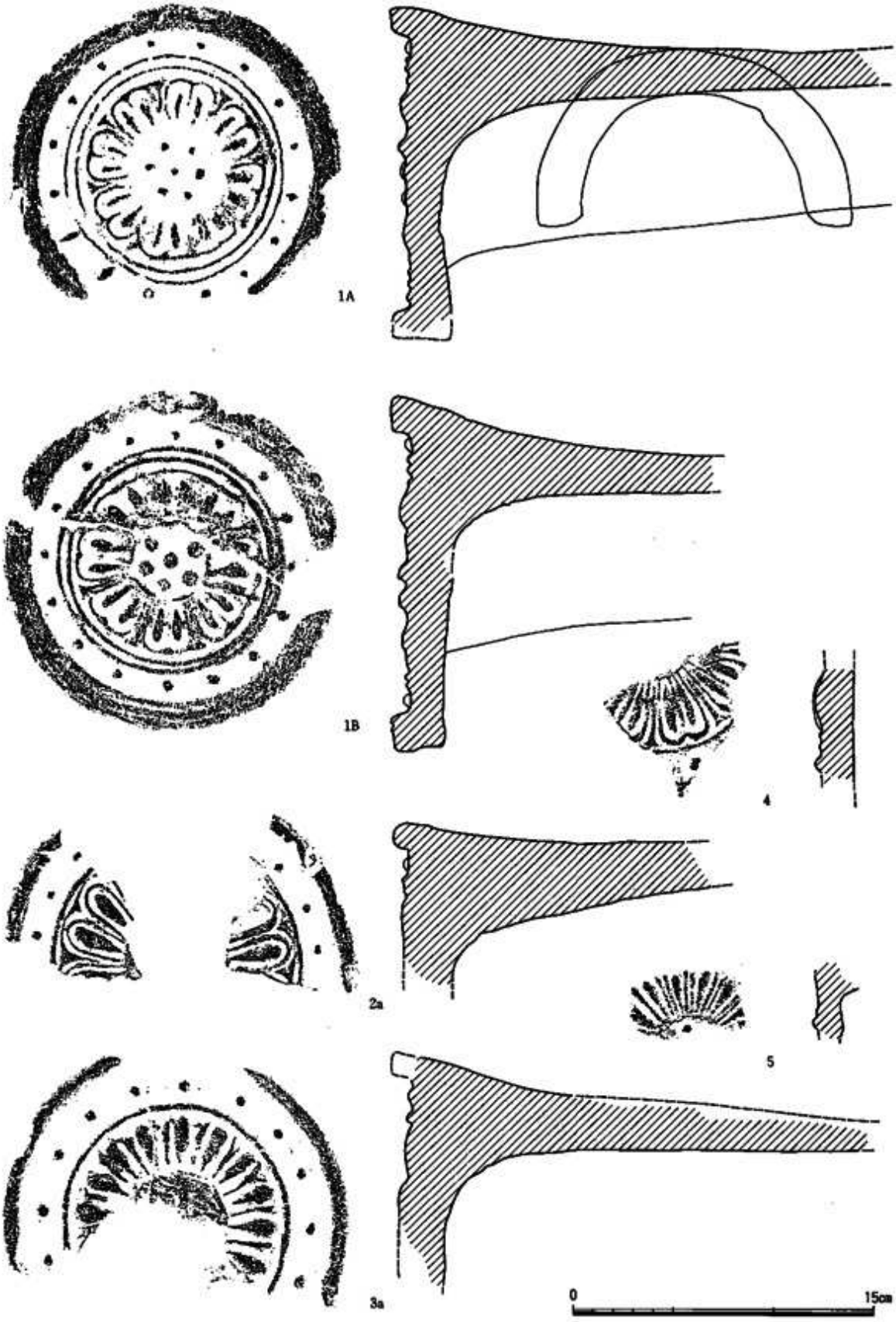


図6　SD10出土軒丸瓦拓影・実測図 (1/3)

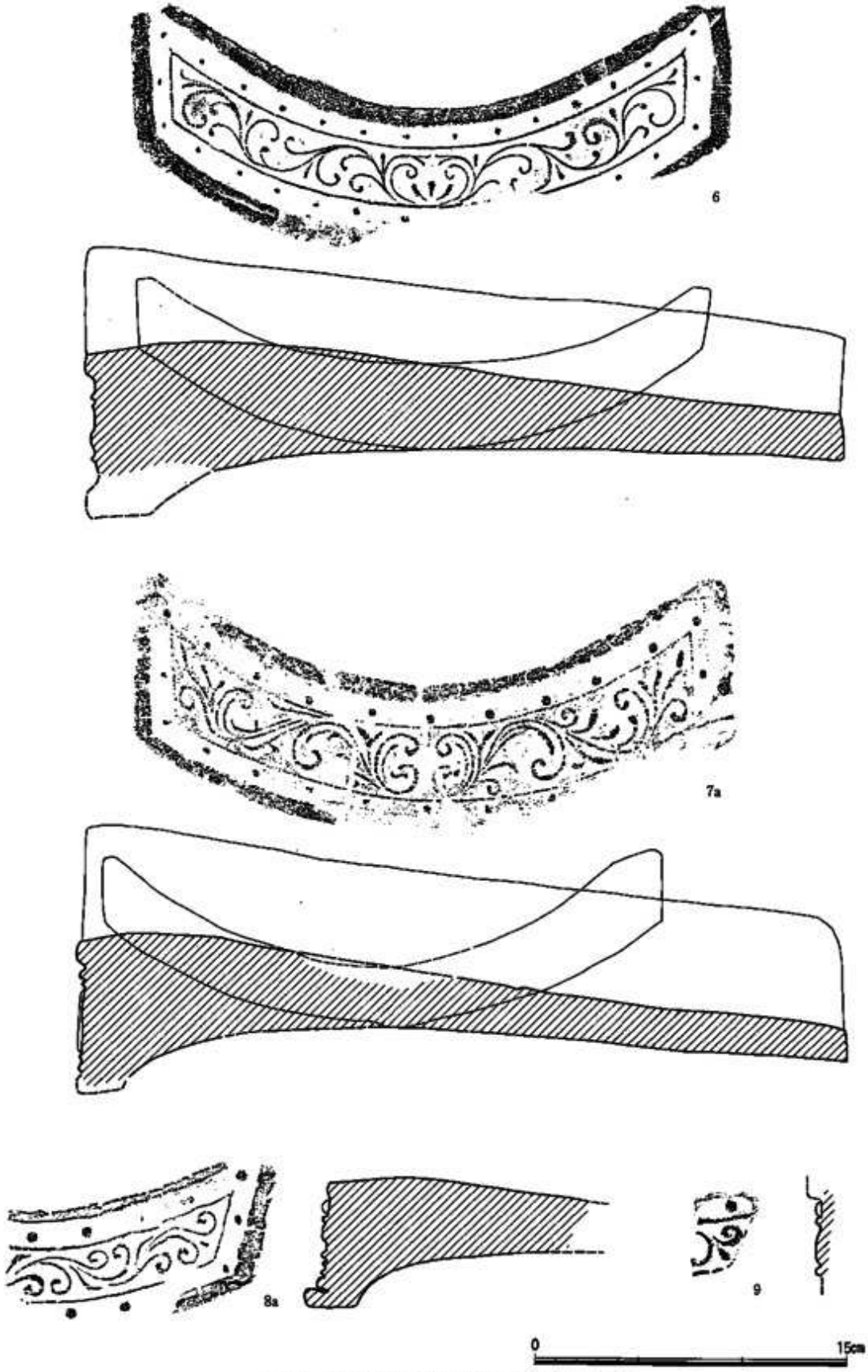


図7　SD10出土軒平瓦拓影・実測図（1/3）

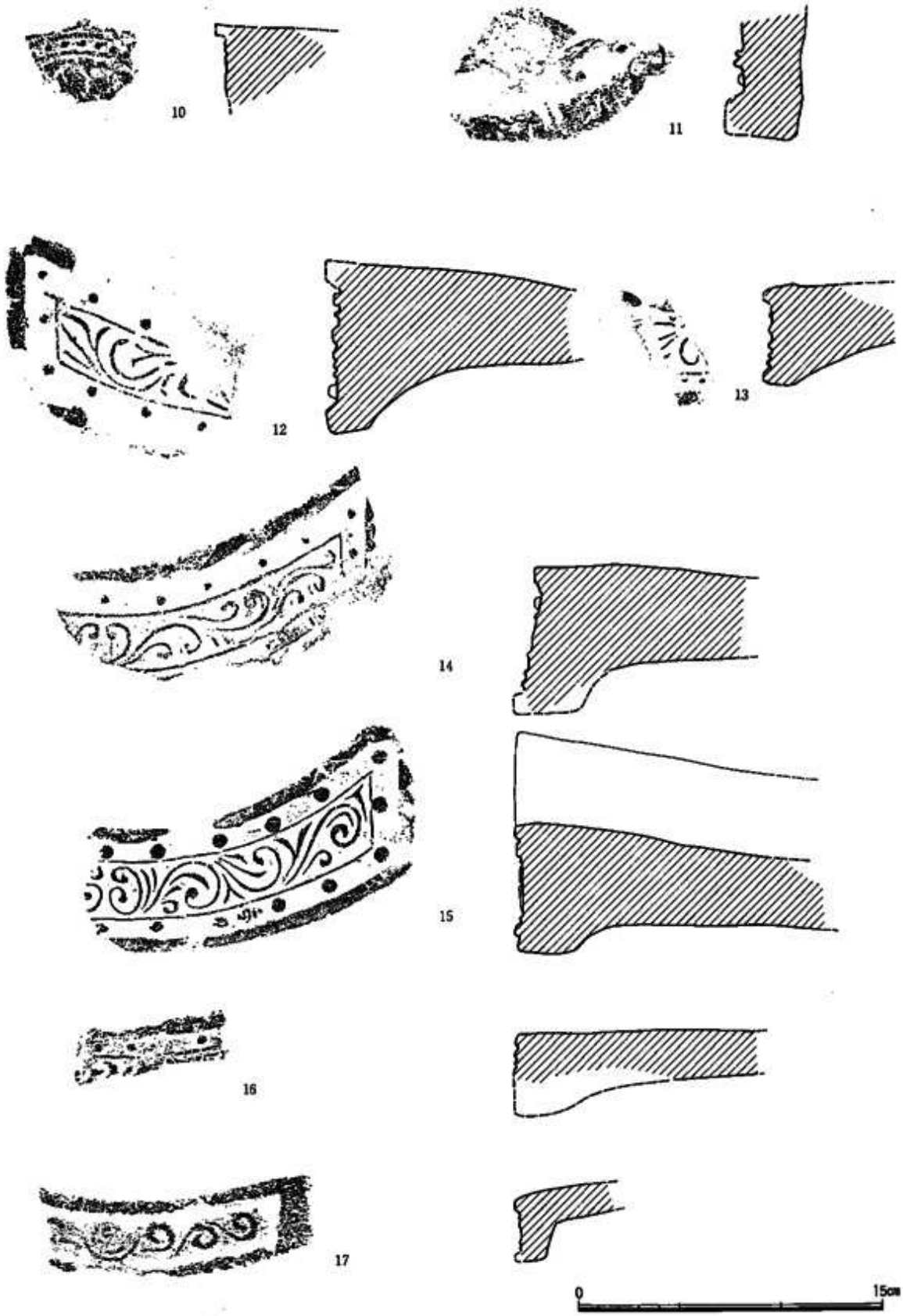


図8　SD10、その他の遺構出土軒丸・軒平瓦拓影・実測図（1/3）

には布目がつく。胎土は細砂を含み、色調は灰黒茶色をしている。吉志部瓦窯の製品[7]である。1点出土した。

7a 均整唐草文軒平瓦　中心飾りは対向の「C」字形で、左右に3転する唐草文を配す。6と同じく平瓦部を丁寧にへらで削り、この個体は平瓦部の中心に径0.8mmの釘穴がある。5点出土したがいずれも平瓦部も含め、完形に近い。胎土は灰黒色で、細砂を含む。吉志部瓦窯の製品[8]である。

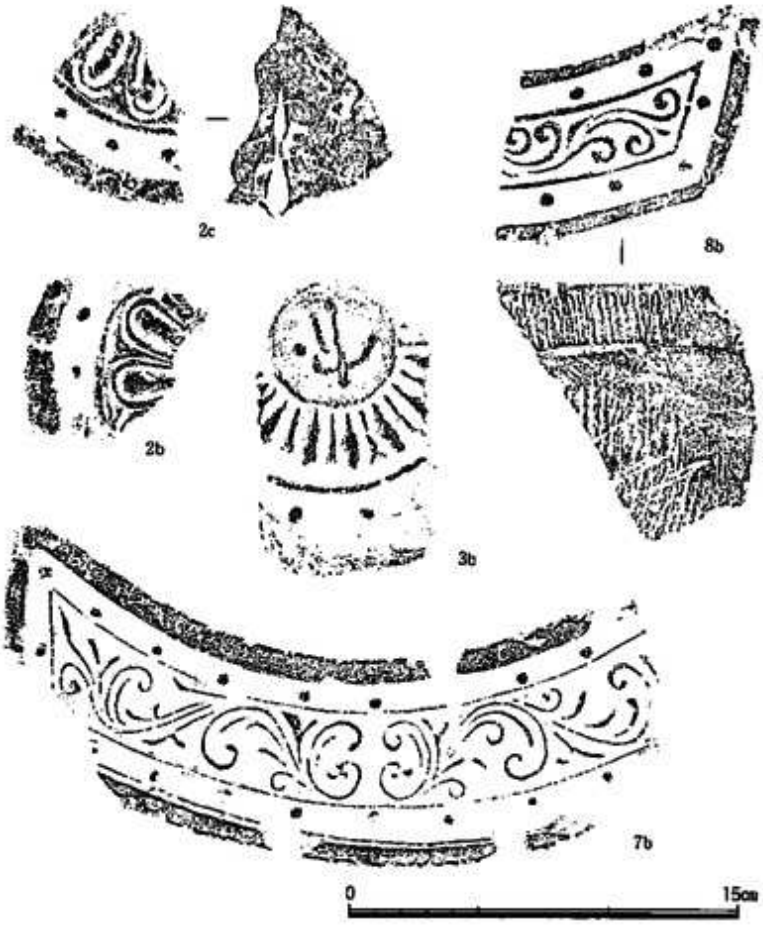


図9　SD10、SE17出土軒丸・軒平瓦拓影（1/3）

7b 均整唐草文軒平瓦　7aと同笵、瓦当面の文様・成形痕の残りがよい。右辺を葺用のため打ち欠いている。胎土・調整は7aに同じである。

8a 均整唐草文軒平瓦　中心飾りは対向の「C」字形で、左右に4転する唐草文。上周縁をへら削りし、瓦当面より低くしている。平瓦部の凸面は縦方向の縄叩き調整を行う。瓦当部は小さな粘土塊を集めて作り、細かく砕けているものがある。胎土は粘質で、焼成は堅く、灰青色をしている。西賀茂角社西群瓦窯跡で同笵[9]が出土している。SD10から3点、SE17から1点の合計4点出土した。

8b 均整唐草文軒平瓦　8aと同笵。顎部と凹面に縦方向の縄叩きを行う。大粒の砂粒を含み、青灰色で硬質である。

9　均整唐草文軒平瓦　右辺の小破片で、胎土は砂質、灰黒色をし、焼成は甘い。西賀茂角社西群瓦窯跡から同范[10]が出土している。1点出土した。

その他の遺構出土の軒瓦

10　軒丸瓦　珠文は粒が小さく数が多い。『平安京古瓦図録』の140などと文様が共通する。胎土は灰色で、粘質である。ＳＫ31から出土した。

11　緑釉単弁８葉蓮華文軒丸瓦　胎土は灰褐色で細砂を含む。釉は明緑色である。『平安京古瓦図録』の49・50と同范である。ＳＥ17から出土した。

12　均整唐草文軒平瓦　左辺の破片、豊楽院や深草廃寺から出土した同范品[11]によると、中心飾りは対向の「Ｃ」字形で、左右に３転する唐草文を配するが、左右対称ではない。胎土は粘質、焼成は甘い。撹乱層から出土した。

13　均整唐草文軒平瓦　右辺の少片、唐草文は細い線で表現する。胎土は粘質で、色調は灰色である。平城宮6721Ｃと同范[12]、撹乱層から出土した。

14　均整唐草文軒平瓦　中心飾りは対向の「Ｃ」字形の中に「井」字形が入る。長岡京の7757D形式[13]である。色調は灰色で、細砂を含む。ＳＥ05から出土した。

15　均整唐草文軒平瓦　右辺上部の破片、中心飾りは対向の「Ｃ」字形で左右に３転する。下の右側の珠文帯に「西」銘がある。撹乱層から出土した。『平安京古瓦図録』の305と同范である

16　唐草文軒平瓦　右辺の小破片。『平安京古瓦図録』の374･375と同范である。ＳＥ17から出土した。

17　水波文軒平瓦　室町時代の軒平瓦。中心には宝珠文、左右には水波文を配する。胎土は砂粒を多量に含む。ＳＥ17から出土した。

ＳＤ10、その他の遺構出土の刻印、線刻の丸・平瓦

平瓦や丸瓦の端面や凸・凹面に刻印や線刻をもつものがかなりある。ＳＤ10出土のものやその他の遺構出土品を一括して報告する。18～22・26～38はＳＤ10から、23・25はＳＫ33、24はＳＥ17から出土した。生産地は吉志部瓦窯産は、18・19・21・22・25・36、西賀茂瓦窯産は、20・26～29・31・33・34・37・38である[14]。

18　丸瓦の玉縁に刻印する。刻印は方形で横線が４本で中心に縦線が入る。印は台形で上辺の幅0.9cm、下辺の幅1.2cm、長さ1.6cmである。

19　丸瓦の玉縁に刻印する。范の彫りが浅く銘は判然としない。范は天地1.4cm、左右1.2cmの隅丸方形である

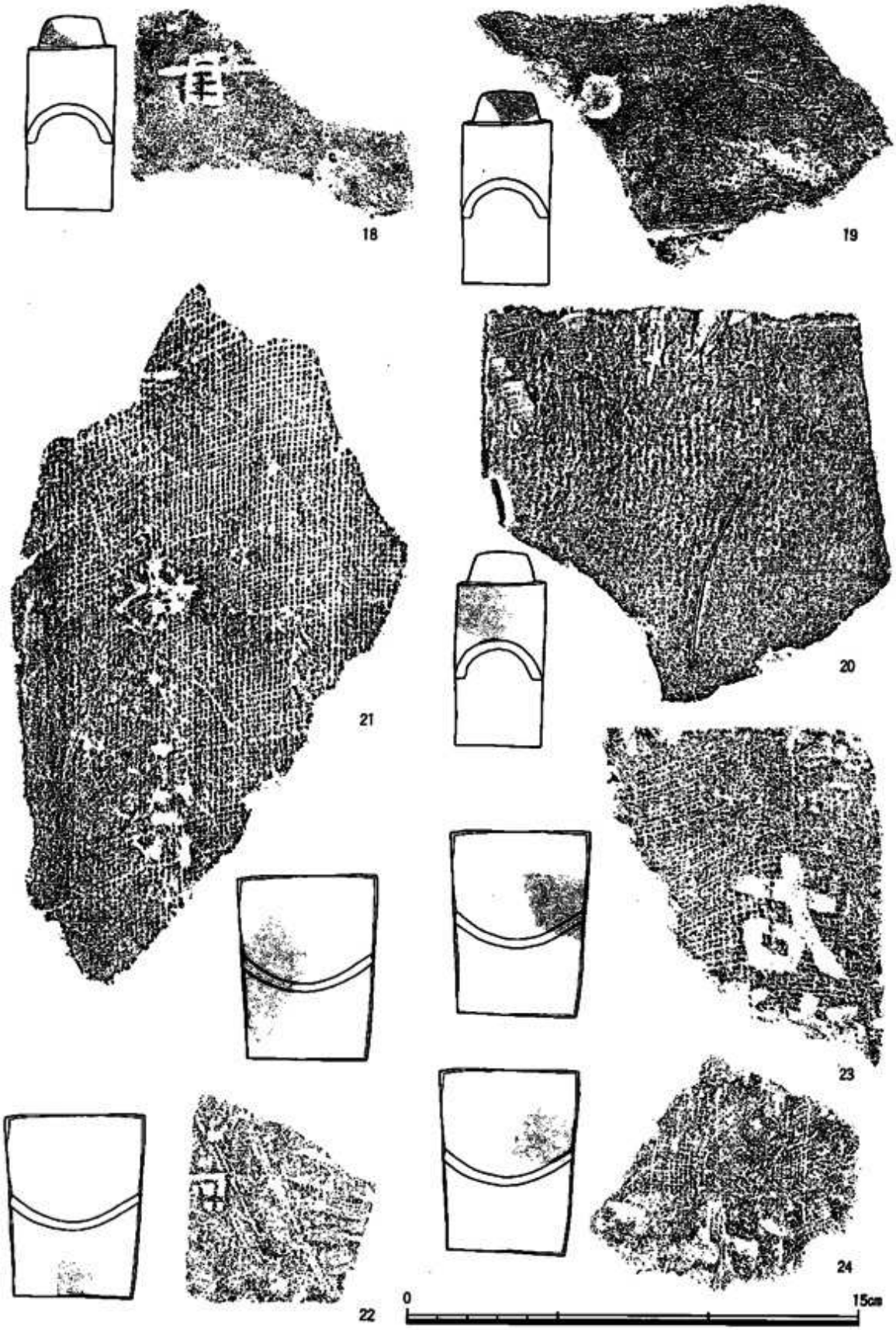


図10　刻印・線刻の丸・平瓦拓影 (1/2)

図11　刻印・線刻の丸・平瓦拓影（1/2）

20　丸瓦の凸面に筒部端面の方向から弧状の長さ6cmの線を引く。色調は灰色でやや硬質である。

21　平瓦凸面の左側面近くに3文字を間隔を開け刻むが、工具は鋭利ではない。上の「一」以外は判読できない。

22　平瓦の凸面に「田」字状の刻印がある。瓦は二次的に焼け灰褐色をする。石英粒を少量含む。

23・24　「右」銘平瓦　平瓦の凹面に左右逆字の「右」銘を陽刻する。文字は2字確認できるが下の字は欠けて不明。今熊野瓦窯出土の同笵例[15]から「右坊常」と推定できる。24も23と同様、平瓦の凹面に「右」の刻印がある。23に比べ笵の押しが弱く明確でないが、23と同笵の可能性がある。23は灰黒色で砂粒を少し含み、ＳＫ33から出土。24は灰色で金雲母・石英などを含み、ＳＥ17から出土した。

25　平瓦の凸面に幅2mm前後の線を7本引く。線刻は瓦の割れ面にもおよび、破片に線刻したものである。

26　平瓦の凸面に線刻をする。横線の細い線が先に引かれ、縦の太い線は後で引いている。青灰色で硬質、離れ砂を使用している。

27　丸瓦の端面に「○」印を押印する、平瓦にも同様の印がある。胎土は砂質で、色調は青灰色である

28　丸瓦の端面にへらで1本線を引く。色調は青灰色で硬質である。

29・30　平瓦の端面にへらで1本線を刻む、色調は灰青色で硬質。30は線が太い。

31　平瓦の残存部の中央にへらで線刻をする。右側の線刻状のものは乾燥時の傷跡である。色調は青灰色で、硬質である。

32　平瓦の端面の中央に2本線を刻むが、左辺が割れており数は不明。灰青色で硬質。

33　平瓦の右側端面に3本の線を刻む、中央の線は太い。灰青色で硬質、砂を少量含む。

34　平瓦の端面に径1.2cmの「人」字状刻印を押す。『平安京古瓦図録』の739と同笵。

35　平瓦の右端面に「糸」字状の刻印を押す、笵が浅く判読できない。灰色の色調をし、粘質である。

36　平瓦の端面に文字様の刻印を押すが、右側が欠け判読できない。灰茶色で、硬質、砂粒を多く含む。

37・38　丸瓦の端面に「○」印を押印する。押印の位置は端面の右と左の両方がある。

鬼瓦・塼

鬼瓦　小さな破片が近世の遺構、ＳＥ17とＳＫ28から１点ずつ出土している。共に胎土は粘質で硬質に焼いている。

塼　小さな破片がＳＫ03から２点、ＳＫ31から１点出土した。

土　器

整理箱で６箱の遺物が出土した。時代的には平安時代前期から中期、近世後期から近代のものが大半で、中世の遺物は竜泉窯の青磁碗が１点出土した。平安時代の土器は、ＳＤ10から出土した９世紀後半から10世紀にかけての細片の土師器が主体で、実測可能な破片は少ない。

ＳＤ10出土の土器

ＳＤ10からは、土師器杯Ａ・杯Ｂ・高杯・甕、黒色土器椀、白色土器小壺、須恵器杯Ａ・杯Ｂ・蓋・壺・瓶子・甕、緑釉陶器は蛇の目高台と円板高台の皿・椀、灰釉陶器の椀・壺、白磁玉縁碗などが出土した。

１・２　土師器皿　内面と外面の口縁部の上半部をなでて仕上げ、口縁部は強い横なでで屈曲する。１は推定口径13.2cm、器高1.6cm。２は推定口径13.6cm、器高2.8cm。

３　土師器杯　内面と口縁部の外面をなでて仕上げ、口縁部は横なでで屈曲する。推定口径14.6cm、推定器高2.1cm。

４　須恵器杯　底部からやや内湾して立ち上がり端部は丸く肥厚する。胎土は砂粒を含み焼成は瓦質である。推定口径14.4cm、推定器高4.5cm。

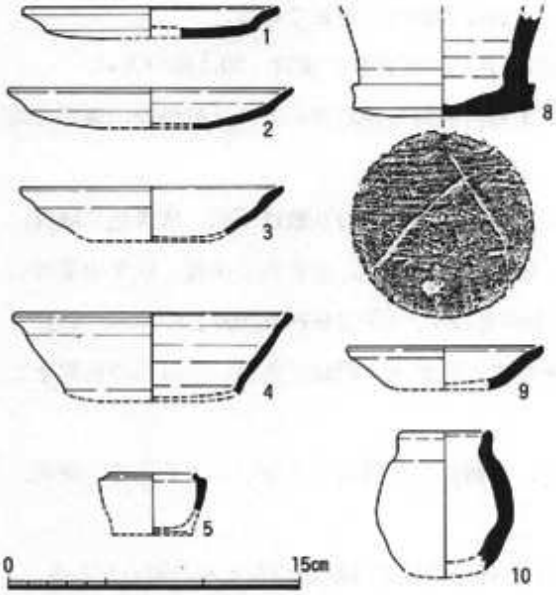


図12　SD10、SD36、SK25出土土器実測図（1/4）

５　白色土器小壺　推定口径4.4cm、器高３cm前後の壺。内面はロクロなで調整し、外面はへら削りする。残りが悪く判然としないが赤色顔料を掛けている可能性がある。胎土は粘質で均一、色調は灰白色をする。

６　白磁碗　小さな玉縁口縁の碗、端部は小さく外側に折り返して作る。釉は灰白色、素地は白色で精良である。

ＳＤ36出土の土器

ＳＤ36からは土師器甕、須恵器杯

壺・鉢・甕が出土した。

7　須恵器杯蓋　頂部の中心をロクロへら削りし、外縁はロクロなでのままにする。

8　須恵器鉢　へら削りし、×状の線刻をした厚い円盤形の底部から、体部が斜上方に伸びる。このタイプの鉢には通常、底部外面に指突痕がある例が多いが、これにはない。

その他の遺構、包含層出土の土器

ＳＫ25から出土した土器、包含層から出土した古墳時代の土器や平安時代前期の製塩土器のうち、主要なものを取り上げる

9　土師器皿　浅く、口径の小さい皿、内面と口縁の上半部をなでる。推定口径10.2cm、推定器高2.2cm。

10　土師器塩壺　丸い卵型の体部と、短く垂直に伸びる口縁部をもつ。灰褐色をし胎土は粘質である推定口径4.4cm、推定器高7.5cm。

11　須恵器杯身　口径が小さく受け部の立ち上がりは低い。外面はロクロ箆削りし、内面はロクロなでをする。

12　須恵器高杯　小型の高杯の杯部と脚部の接合部の破片。

13　製塩土器　胎土中に砂粒を大量に含み、器壁が厚い製塩土器。外面は熱でピンク色に変色している。14とともにＳＫ14から出土した。

14　製塩土器　内面に布目がつき、胎土には小量の籾殻が混入している。胎土は粘質で砂粒を含まない。

その他の遺物

金属製品、石製品、壁土などが出土した。金属製品は近世の釘、かすがいなどがあり、石製品は近世の硯が出土した。

15～18　壁土　ＳＤ10から焼けた壁土が少量出土した。いずれも断面は２層に分れ、外側は灰褐色でスサをわずかに含むが胎土は細かく、内側はスサを多量に含み、赤褐色をしている。各層とも４mm前後の厚さがある。

4　ま　と　め

調査で朝堂院の東回廊と北回廊のコーナー部に関係する遺構を検出し、調査の当初の目的をはたした。しかし、凝灰岩の延石・地覆石など回廊の基壇は検出できず、調査地点がかなり削平を受けていることが分かった。

朝堂院の回廊に関係した調査には、南25mで実施したガス工事に伴う立会調査[16]があり、

東回廊の東基壇凝灰岩延石と西の延石抜き取り穴を検出している。今回検出の回廊東北コーナー部推定地と立会調査で検出した朝堂院東回廊東基壇は同一方位上でつながり、その振れも条坊の振れに近く、また、ガス立会調査の回廊西基壇抜き取り穴と調査地点の回廊内側コーナー部推定地の土層の変化した地点(ＳＸ39)ともつながる。これらの成果から朝堂院東回廊は基壇規模が11.6m前後に復原でき、大極殿院北回廊[17]と同一規模になる。したがって、平城宮・長岡宮と異なって、平安宮の大極殿・朝堂院の外郭施設は、いずれも回廊であることが遺構から判明し、その規模は平城宮の内裏内郭回廊[18]に近い。

大極殿・朝堂院の回廊に関係した遺構の標高は、基壇の延石の据え付け溝底のレベルで測れば、大極殿院北回廊・軒廊[19]が共に43.8～44.1mであるのに対し、調査地点南の東回廊の据え付け溝の標高は42.2mで、1.6m以上の差がある。今回の調査では、43.2m前後の標高で雨落溝の西肩を検出したが、凝灰岩延石やその抜き取り穴は検出できなかったので、調査地点の遺構の削平が大規模であることを示している。また、調査地点付近を境にした回廊基壇のレベル差は龍の存在を示し、これらから、龍尾壇から北部の大極殿院にかけては造成・整地で遺構面を高く揃えたことが分かる。

遺構の年代

ＳＤ10(東溝)は大きく３期の変遷をたどることができる。第１・２期の溝からは細片の土器と瓦が少量出土した。とくに２期の溝底からは図12－３の土器が出土し、10世紀前半の特徴をもつ。さらに第２期のその他の細片の土器も９世紀後半から10世紀前半のものである。瓦を多量に出土した第３期の遺物は土器が少量で、土器からは年代を推定できないが、瓦が多量にあり、瓦から年代を決めることができる。出土した瓦当はいずれも平安時代初頭のもので、中でも平安宮の造営のための瓦窯である大阪府吹田市の吉志部瓦窯産のものが大半で、これを少量の西賀茂瓦窯産が補っている。また、瓦に混じって焼土・焼けた壁土・木炭などが出土し、瓦にも焼けて赤変したものが含まれていた。

文献から朝堂院北部から大極殿にかけての火災は３回確認できる。

１．貞観18年(876) ４月10日（『日本三代実録』）

２．天喜６年(1058) ２月26日（『扶桑略記』）

３．安元３年(1177) ４月28日（『方丈記』）

ＳＤ10から出土した土器や・瓦の年代、出土状態からみて火災に関係した遺物を貞観18年４月10日の火災(子時。大極殿火。延焼小安殿。蒼龍白虎両楼。延休堂及北門北東西三面廊百余間。火数日不滅。)にあてることができ、第３期の遺物はこの火災後の整理に伴うも

のである。また、焼けた瓦が概略１％以下であること、完形に近い瓦当・丸・平瓦の多いことなどから、蒼龍楼までは焼失したが、調査地点までは火災が及ばず、朝堂院回廊の復旧時に調査地点の未焼失の部分を含めて復旧のために取り壊し、整理したと考えられる。

また、第３期の瓦には平安時代初頭の瓦類しか含まれていないのは、調査地点が朝堂院の龍尾壇の北部にあたり、基壇が高く溝も深かったものが後世の削平で、平安前期の瓦だけが残ったものと推定できる。調査地内の近世の遺構からは平安時代中期以降の瓦が出土することもこれを裏付ける。

平安前期の瓦

ＳＤ10(東溝)出土の第３期の瓦は、胎土・調整による分類を行い、傾向をつかむためその重量を計った。瓦の胎土は３群に分れ、

Ａ．胎土中に石英・長石・金雲母などを均質に多く含む。

Ｂ．胎土中に長石・金雲母など砂粒を小量含む。

Ｃ．胎土中に大粒の砂粒を含むが、胎土は粘質である。

Ａは吉志部瓦窯の製品、Ｃは西賀茂瓦窯跡群の製品、Ｂは両方の製品を含むと考えられる。丸瓦の分類別重量比はＡ．42％、Ｂ．35％、Ｃ．23％、平瓦はＡ．33％、Ｂ．49％、Ｃ．17％で吉志部窯と西賀茂窯の重量比は、丸瓦42：23、平瓦は33：17になり、不明分を双方に振り分けても吉志部窯が過半数を越える。同様のことは軒瓦にもみられる。ＳＤ10からは軒丸瓦が18点、軒平瓦が10点の合計28点の軒瓦が出土し、生産窯別に分けると、2.5：１で圧倒的に吉志部瓦窯が多い。この検討結果は、今回の調査地点の70m北で検出した大極殿院東回廊[20]に関係した土壙出土の瓦当にも共通し、朝堂院の北東部回廊から大極殿院東回廊の瓦が吉志部窯の瓦を中心に葺かれたことがわかる。

吉志部瓦窯の瓦当を検討すると1Bと7aが大半を占めている。1Bは吉志部瓦窯の出土に占める数量は少なく、また、この笵は西賀茂諸瓦窯に運ばれていない。この笵の特徴は蓮弁が内側の圏線に接し、最も退化した笵である。ＳＤ10から出土した瓦は、遺構からは９世紀初頭から貞観18年の火災後の年代が考えられるが、平安中期の瓦は含まれておらず、平安時代前期の一括性の高い遺物である。

平安宮朝堂院の復原

平安宮の調査は、昭和３年の豊楽院基壇の発見から今回の調査まで約150件の調査が行われてきた。近年当研究所によって大極殿院北回廊・東軒廊、豊楽院正殿[21]、内裏承明門[22]など平安宮の復原にとって定点となる調査が行われ、宮の復原を遺構からできるめどがついた。

また、一部官衙域でも中務省[23]などの復原が行われている。

今回の調査に関係した朝堂院・大極殿地域ではこれまで約40回の調査が行われた。1971年には下水道に関係した古代学協会による立会調査で、朝堂院西南部の建物、延禄堂、修式堂などの基壇[24]が発見された。

1979年にはガス管埋設替え工事に伴って広範囲に立会調査が行われ、朝堂院東回廊、宣政門、承光堂、明礼堂、暉章堂、中務省・太政官の築地などが検出されている。

これら、検出遺構からの行われた平安宮の復原の成果をまとめると以下のようになる。

1．平安京の中軸線から朝堂院東回廊東基壇までは34丈（1丈＝2.983m）である[25]。

2．推定朱雀門心から大極殿院北回廊北基壇までの距離は200丈（597m）であり、朝堂院の占地が中御門大路の中心から17丈北にでる[26]。

3．宮の復原にあたっては朱雀大路、二条大路、壬生大路、皇嘉門大路など条坊の延長線から中務省・豊楽院の外郭を確定する。

今回の復原にあたってはこれらの成果を参考にし、以下の条件で復原した。

A．大極殿院北回廊、朝堂院回廊東北コーナー部、修式堂など検出した遺構を中心に復原する。

B．遺構が未検出の部分は陽明文庫の「八省院図」を基本に復原し、記載のない部分は『大内裏図考証』を参考にした[27]。しかし、「八省院図」図は朝堂院の東西幅など、柱間を同一で割り付けると矛盾が生じる部分があり、この部分は、建物相互の寸尺を手がかりに復原した。その結果、

1．朝堂院の南端、応天門は冷泉小路の延長線に位置し、朝堂院の規模は、156丈になる。

2．朝堂院の東西幅は回廊心で97m、65丈7尺になる。大極殿院の南北規模は109m、36丈である。

3．中務省との道路幅は6丈、豊楽殿と朝堂院の道路幅は同じ6丈である。

最後に、遺構調査中には家崎孝治氏から教示を受け、また、瓦の整理にあたっては、吉志部瓦窯出土遺物関係では、吹田市教育委員会の増田真木・西本安秀氏の案内で遺物を調査し、教示を受けることができた。また、西賀茂瓦窯跡群の出土瓦の比較検討については、京都文化財団の植山茂氏に御努力いただき、教示を受けた。また、平安宮朝堂院の復原については、京都府教育委員会の福田敏朗氏、京都府山城郷土資料館の高橋美久二氏から御教示を受けた。

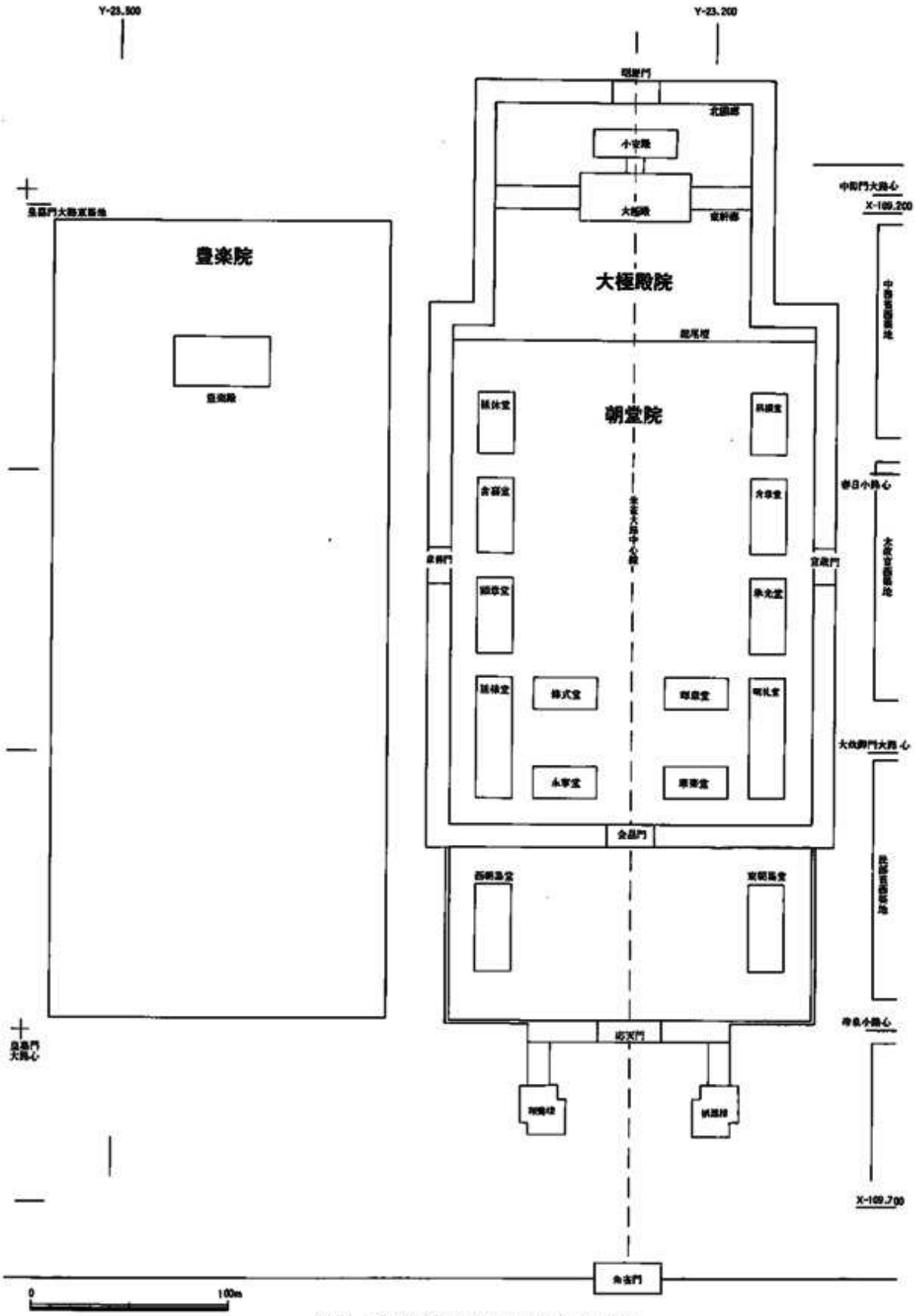


図13　平安宮朝堂院復原図（（1/3,000）

註

註1　梅川光隆『平安宮・平安京跡ガス管布設替工事に伴う立会調査概要』昭和54年度　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1982年

註2　『平安京古瓦図録』平安博物館編　雄山閣出版　1977年

註3a　藤沢一夫・堀江門也『岸部瓦窯跡発掘調査概報―吹田市小路―』大阪府文化財調査概報1967　大阪府教育委員会　1968年

b　増田真木　他『吉志部瓦窯跡―府営岸辺住宅建替に伴なう発掘調査報告書―』大阪府建築部　大阪府教育委員会　吹田市教育委員会　1987年

c　「第5章　歴史時代」『吹田市史』第8巻　吹田市　1981年
図6―1Bと同文の軒丸瓦は20数点出土しているが、大半は註3aの図版第9-1と同笵の軒丸瓦で、蓮弁が2重圏線の内側に接した1B(図6―1B)と同笵の軒丸瓦は1点だけ確認できた。

註4　伊藤玄三・近藤喬一・田中勝弘　他『西賀茂瓦窯跡』平安京跡研究調査報告第4輯　財団法人　古代学協会　1978年　軒丸瓦NS107

註5　註4　軒丸瓦NS109

註6　鈴木久男「平安宮豊楽院跡（2）」『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度　京都市文化観光局　1989年　図8-1

註7　註3a　図版第9-7

註8　註3a　図版第9-5・6の間の無番号、これは註1の313・314と同笵。

註9　註4　軒平瓦NS209

註10　註4　軒平瓦NS206B

註11a　鈴木久男「平安宮豊楽院跡（2）」『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度　京都市文化観光局　1989年　図8-5

b　木村捷三郎「深草中学校出土の瓦―深草廃寺―」『古瓦図考』ミネルヴァ書房　1989年　第2図―14

註12　『奈良国立文化財研究所基準資料IX　瓦編9』奈良国立文化財研究所　1984年

註13　『長岡京古瓦聚成』図版編　向日市埋蔵文化財調査報告書第20集　向日市教育委員会　1987年　第42図―7757D

註14　**吉志部瓦窯産瓦**　丸瓦の筒部凸面は基本的になで調整で縄目の叩きは残らないが一部、筒部と玉縁の境界部に残るものがある。玉縁部の凸面の両側面を筒部の端面方向からカットし面をもつものが多数である。平瓦は凸面に縄目叩き調整を行い、離れ砂が掛かるものが多い。胎土は、砂質で石英・長石・金雲母などが目立ち、均質な砂粒が均一に含まれ、砂粒を意図的に混入していない。色調は灰茶褐色・灰黄褐色・灰黒茶色など茶灰色系統のものが多いが、灰色のものも一部にある。焼成は軟質のものが中心である。

西賀茂瓦窯産瓦　丸瓦の筒部の調整は基本的に吉志部瓦窯と共通する。ただ、玉縁部凸面の両側面は小さくカットするものとしないものがあり、カットするものは吉志部瓦窯と同じ

であるが、点数は少ない。胎土は、基本的に粘質であるが、その多くに多量の砂粒を含む。砂粒は径が1㎜前後から中には1㎝前後のものまであり、粒子の差が大きい。構成物は、チャートを主体とし、金雲母・長石が含まれるものもあるが、小量である。石英粒はほとんど含まれない。径0.5～1㎝前後の大きな砂粒が含まれるのが西賀茂瓦窯産の特長である。色調は灰色・灰黄色を中心にして、硬質のものは暗灰色である。砂粒を意図的に混入する。

註15　長谷川行孝・青山　均　他『大谷中・高等学校校内遺跡発掘調査報告書』大谷高等学校法住寺殿跡遺跡調査会　1984年

註16　註1

註17a　木下保明「平安宮大極殿院」『平安京跡発掘調査概報』昭和59年度 京都市文化観光局 1985年

b　辻　純一「平安宮大極殿院(1)」『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度　京都市文化観光局 1986年

註18　『平城宮発掘調査報告Ⅲ』奈良国立文化財研究所学報第16冊 奈良国立文化財研究所 1962年
ほぼ同規模の回廊が陽明文庫の「八省院図」に記載されており、大石良材氏はこの記載をもとに平安宮の復原をされた。「平安宮の復原」『古代文化』25巻4号　古代学協会　1973年

註19　梅川光隆「平安宮大極殿院(2)」『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度　京都市文化観光局 1986年

註20　家崎孝治「平安宮大極殿院跡(HQ12)」『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和63年度　京都市文化観光局　1989年

註21a　鈴木久男「平安宮豊楽院(1)」『平安京跡発掘調査概報』昭和63年度　京都市文化観光局 1989年

b　峰　巍『平安宮豊楽殿一特別展図録一』京都市考古資料館　1984年

註22　梅川光隆「平安宮内裏」『平安京跡発掘調査概報』昭和60年度　京都市文化観光局　1986年

註23　辻　裕司「平安宮中務省（2）」『平安京跡発掘調査概報』平成元年度　京都市文化観光局 1990年　図11

註24a　伊藤玄三「平安宮朝堂院の遺構一延禄堂・修式堂一」『古代文化』24巻8号　1972年

b　近藤喬一「平安京・宮跡」『仏教芸術』115号　毎日新聞社　1977年

註25　註1

註26　註17b

註27a　『京都市史地図編』京都市　1947年

b　裏松固禅著　内藤広前校訂『大内裏図考証』明治図書出版株式会社　株式会社吉川弘文館 1952年

Ⅲ　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

1　調査経過

調査地は、上京区出水通知恵光院西入田村備前町236-10である。当該地は、平安宮内裏内廓の東北部に当たり、淑景北舎の東部に推定されるところである。当地に建物新築工事が計画されたため、1990年1月31日に試掘調査を行なった。

その結果、地表下1.4mにおいて平安時代の土器を多量に包含する土壙を検出し、遺跡が良好な状態で遺存していることが判明したため、発掘調査に切り替えることとなった。発掘調査は1990年２月13日より２月26日の間実施した。試掘調査によって、敷地北半部は、江戸時代以降の湿地状堆積土層が広がっていることが明らかであったため、敷地南半部に調査区を設定した。調査面積は東西3.5m、南北５mの約18㎡であった。

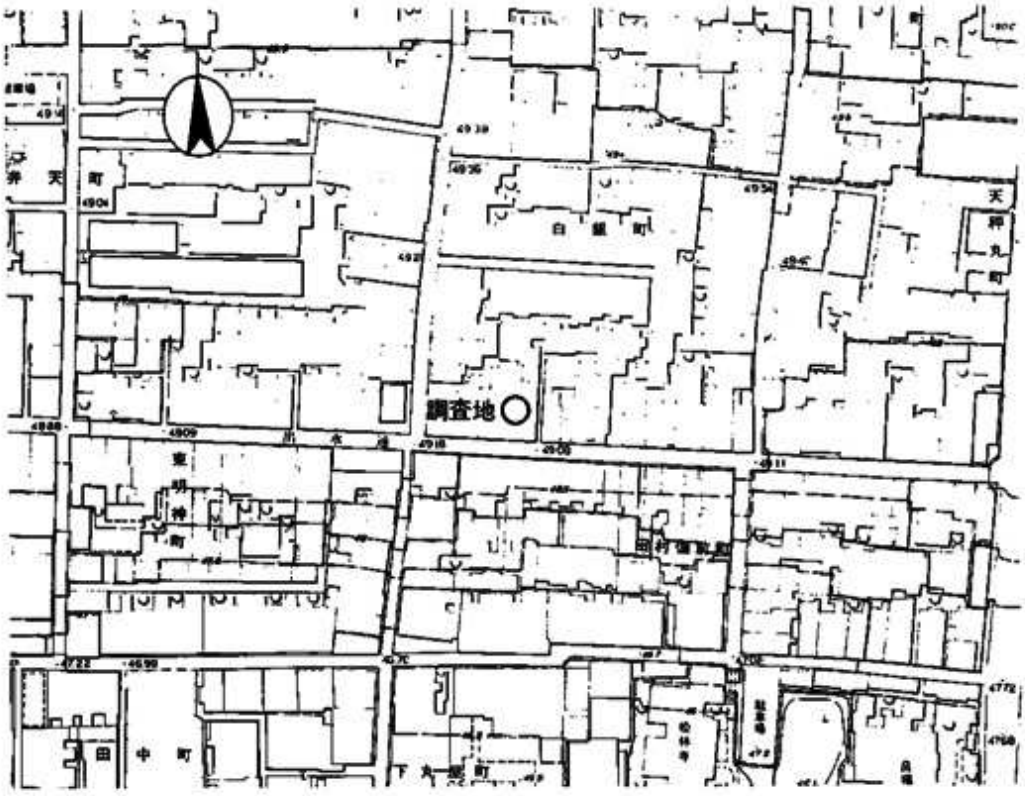


図14　調査位置図（1/2,000）

2　遺構・遺物

基本層序は、盛土が0.3m程あり、その下に近世の整地層が厚さ0.8～1.1mある。平安時代の遺構は地表下1.4mのオリーブ褐色泥砂の地山の上面において検出した。遺構は土壙が7基、集石遺構が1基ある。ここでは多量に土器が出土した土壙2基について述べる。

SK01　長径2.5m、短径1.6m、深さ0.3mの掘形を持ち、平面楕円形を呈する。埋土は褐色泥砂層で、掘形肩部全体に炭層が薄く堆積する。完形品を含む土器類が大量に出土する。

SK07　調査区南端部で検出したもので、掘形の北肩部以外は調査区の南側に広がる。南北1.6m以上、東西3.5m以上、深さ0.5m以上の規模を持つ。土壙内より多量の土器類が出土する。

出土遺物は整理箱で76箱ある。大部分がSK01・07より出土したもので、大半が土器類である。次いで瓦類が少量あり、その他に金属製品、銅銭などがある。

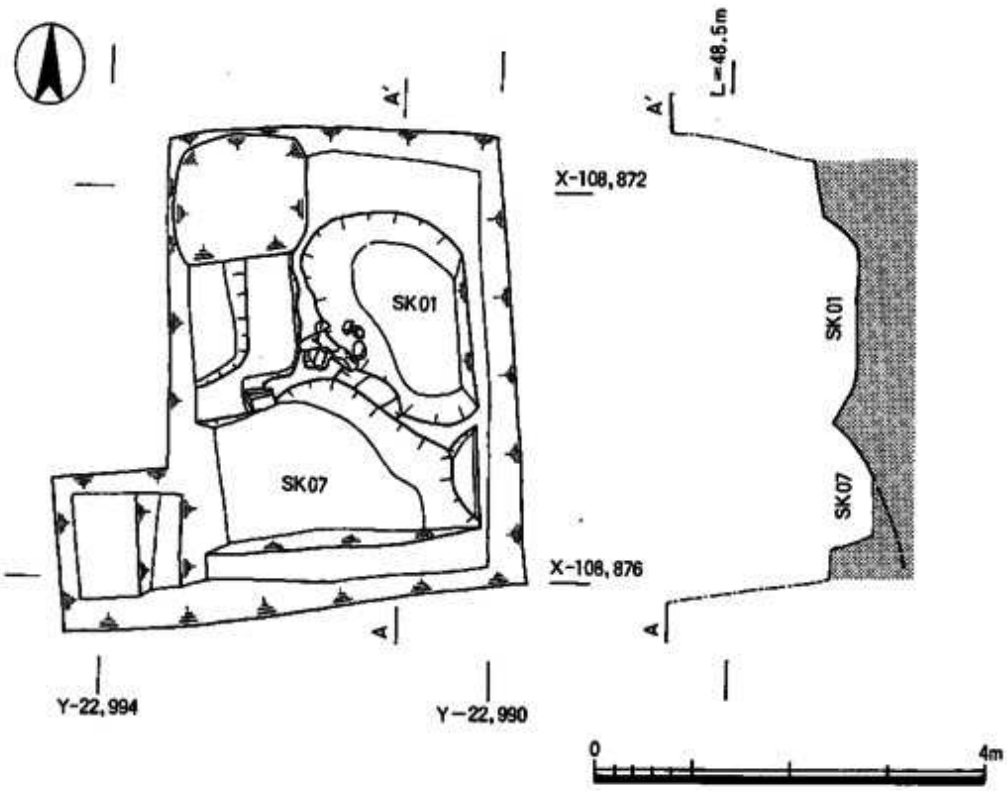


図15　遺構実測図（1/80）

SK01出土遺物

土器類

土師器類（図16-1・3～9・11）。皿は口縁部の形態によってA・B2種に分かれる。Aタイプの土器の特徴は口縁が「て」字状に折り返すもので、乳褐色を呈しているものが多い。その口径13.5cm前後のものが多く（1、4～7）、これより大きいものが若干量ある。Bタイプは折返しを全く行なわず、口縁のみをナデ調整するものである。(8、9、11)は口径12cm前後の赤褐色のものである。ほかに高杯（3）は面取りがあまりはっきりとしておらず、ヘラ磨き状になっている。

黒色土器（図16-2）は内外面を黒色化させた黒色土器B類の小椀である。器壁を2mmほどにまで削り出したもので全面を丁寧に細い磨きを施すものである。

白色土器（図17-10、12～14）は胎土が白色を呈することを特徴とする。三足皿（10）は底部を回転ヘラ切りしたもので口縁部内面に磨きがある。杯（12）・皿（13）は底部を糸切りした後に高台を削りだす。杯（14）は磨きはなく、静止糸切りしている。

墨書土器（図版32-58,59,61,62）　土師器皿の内外面に墨書する。何れも文字の断片であるため充分な釈読は出来なかったが、一部習書文字が認められる。

線刻土器（図版32-71）　1点出土。土師質の土器で、高杯の一部か。外面に放射状の線刻を施す。

他に緑釉片、越州窯片も少量認められる。

金属器

鋲（図版32-72）　頭部のみが残存。厚さ0.5mm弱、直径12mmの銅板を六角形に打出し、銅板に鍍金したもので、裏面に針部が付着していた痕跡（残存径3mm）が認められる。

銭貨（図版32-73）　延喜通宝である。径18mm、厚さ1.9mmを測る。表面は腐蝕が進行しており、緑青が吹き出している。延喜7年（907）初鋳。

瓦類

複弁八葉蓮華文軒丸瓦（図19-56）　平城宮6225-A型式の瓦である。やや大ぶりな中房に1＋8の蓮子を配す。弁区は先端を尖らせた花弁二弁を接合する複弁で、弁間文はY字型である。その外に二重の界線が巡る。周縁内側の傾斜面には小型の凸鋸歯文を巡らす。瓦当部外周はヘラ削りを施し、瓦当部裏面は指でかきとっている。胎土は5mm大の小石や砂粒を含み、焼成は良好、暗オリーブ灰色を呈する。

複弁蓮華文軒丸瓦（図19-59）　花弁は先端が窪み、子葉を二つ配することによって複弁

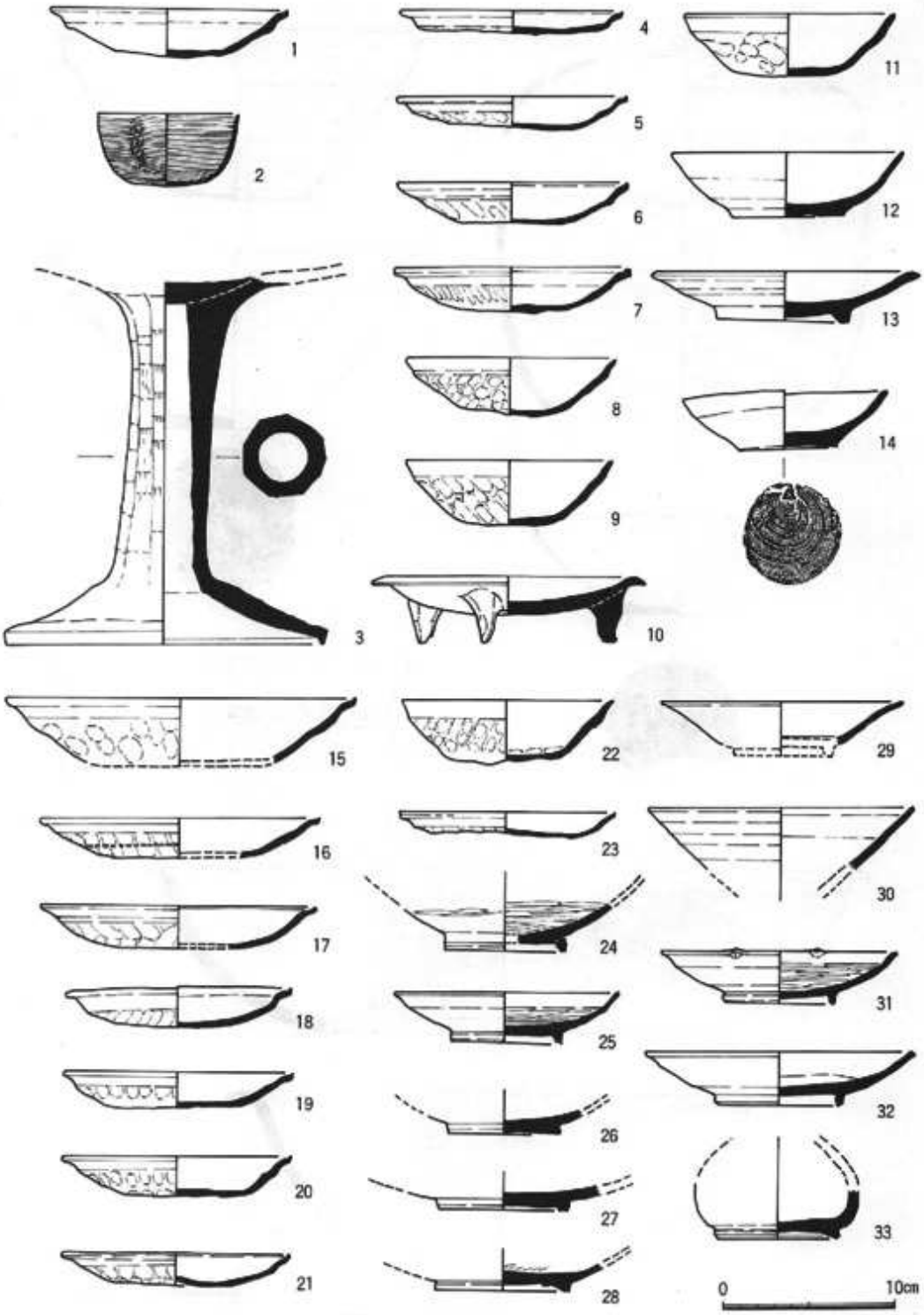

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
0
10cm

図16　土器実測図（1/4）

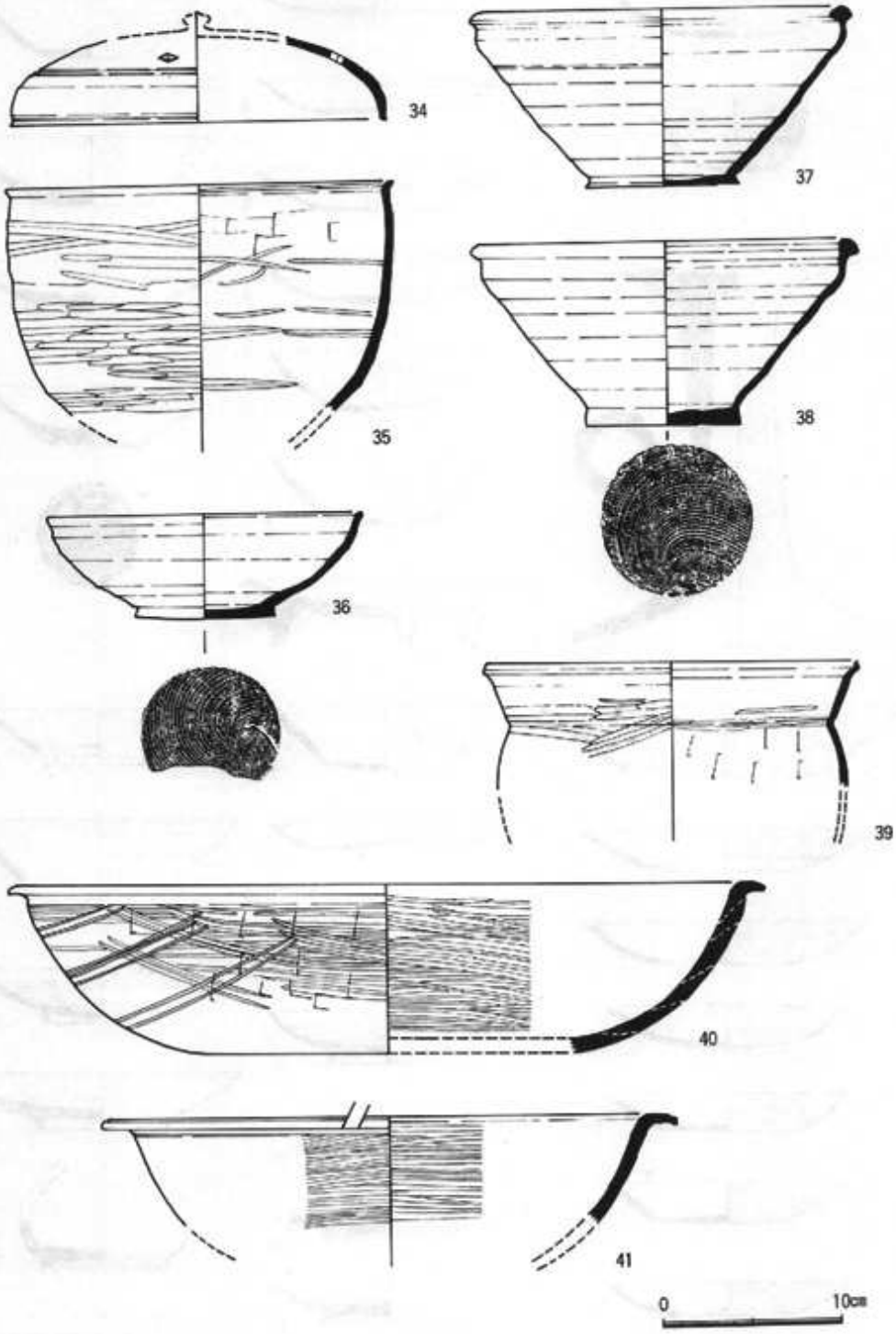


図17　土器実測図（1/4）

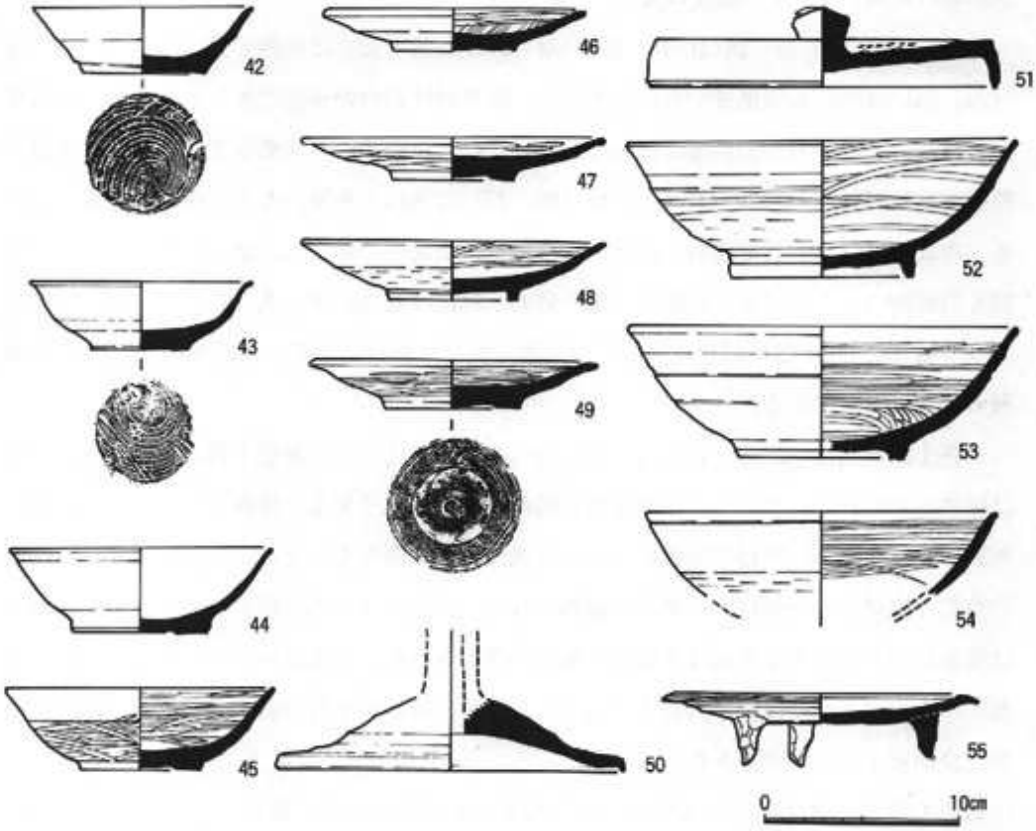


図18　土器実測図（1/4）

を形成している。弁区と外区を分かつ界線が花弁が窪む地点で同じように窪んでいるのが特長的である。瓦当部外周はヘラ削りの後ナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、オリーブ灰色を呈する。『平安京古瓦図録』78の系統である。

均整唐草文軒平瓦（図20-66）　内区中央に「栗」銘を陽出する。顎部の平瓦部との接合部付近でナデ調整が認められる。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、青灰色を呈する。

SK07出土遺物

土器類

出土遺物の概略は80%が土器類、15%が瓦類、5%が磁器、須恵器、金属器などであった。

土師器類（図16-15～23）は、Aタイプでは口径の大きさから大皿（15）、中皿（16、17）、小皿（18～21）がある。小皿は口径が歪んでいるものと正円に近いものとがある。何れも口縁の折り返しは鋭くなく、色調は乳褐色が多い。ⅢBタイプ（22）は赤褐色を呈しており、粗雑な調整であり、今回の調査では出土例は少ない。（23）は浅い皿で、器壁も薄く

成形され口縁を鋭くナデ仕上げる。

施釉陶器（図16-24～28・31・32、図17-34）のうち皿（32）は灰釉で他は緑釉である。皿（24、25）は何れも須恵質で灰緑色を呈し、張り付け高台の確認できるもの（24）と削り出し高台（25）があり、底部は無釉である。これらは内面にヘラ磨きされており、土器の特徴から見て篠窯のものであろう。皿（26、27）は何れも軟質のもので明緑色を呈している。内底面にヘラ磨きを認め、全面に釉を施す。洛北系であろう。皿（28）は全面釉で底部と内底面にトチンによる目跡を3箇所認め、釉には貫入が多く入っている。東海系であろう。輪花皿（31）は灰緑色を呈し、須恵質で底部は無釉である。（34）は透しのある全面釉の壷で東海系である。

黒色土器（図17-35・39～41）は、何れも内面を黒色化させた黒色土器A類である。（35）は深鉢状の形態をしており、口縁外面と内面は全て黒光りする。外面には太めのヘラ磨きが施され、内面はハケ目の掻き取りをした後少しヘラ磨きをしている。（39）は甕形で外面の首部と内径部の一部にヘラ磨きが認められる。内面にコテ当て痕が認められる。鉢（40）は復原口径が43cmあり内面は非常に丁寧なヘラ磨きされ、外面はヘラ削りの後ヘラ磨きされているが、下部には疎に入れるのみである。（41）は鉢の小片で器形の復原は困難であるが、全面を丁寧にヘラ磨きをしている。

白色土器（図18-42～50、52～55）は、器形もバラエティーに富んでいる。杯（42,43）は一直線に開く口縁をもつもので轆轤ナデ以外は一切調整しない。杯（44,45）は蛇の目底で、ヘラ磨きをよく施すものとそうでないものがある。（46～49）は皿で蛇の目状の削り出し高台（46、47、49）と輪高台（48）の2種がある。（50）は高杯の下部で柱部の出土はなかった。（52～54）は椀形で輪高台に削り出したもので、内面はよくヘラ磨きされているが、外面はヘラ削りした後粗く磨く程度である。（55）は三足皿で底部は回転ヘラ切りしたままである。口縁部は特に丁寧なヘラ磨きを施している。

須恵器（図17～36～38）は量、種類ともに少ない。椀（36）・鉢（37,38）は何れも篠窯の出土品に認められるものである。（図18-51）の壷は上面が焼けひずんでおり、灰かぶりである。

墨書土器（図版32-63～69）は約20点出土。土師器皿の内外面に墨書を施す。（66）は両面に墨書する。文字は比較的明瞭に残存するものの、釈読するまでには至らなかった。

これらの土器のほかにも中国からの輸入品と思われるものがある（図16-29・30）。これらは越州窯産のものである。椀（29）は上質の杯で青灰色がよく発色し胎土も微細である。

椀（30）は灰緑色を呈し胎土は粗く所謂下手のものである。（図版31-74）は緑色の釉を施してあり、花弁状の模様を型押によって製作する。胎土は白色。器形は小片だが皿か。

瓦類

単弁十二葉蓮華文軒丸瓦（図19-58）　長岡宮7133Ab型式。緩やかな丘状を呈する中房に、1+4の蓮子が結合した十字形の突出文がある。花弁は先端が丸く、丘状の子葉を囲み、花弁どうし接合し弁間文はない。弁区と外区の間には界線を施し、外区には珠文が花弁とは対応せず16個配される。周縁は外側に傾斜面をもっている。瓦当部外周には成形時に出来た型枠の痕跡が一部認められる。瓦当部裏面は丸瓦との接合部をナデ調整、他の部分はヘラ削りが施されている。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好、暗灰色を呈する。

蓮華文軒丸瓦（図19-60）　瓦当面の摩滅が激しく内区の蓮華文は確認できない。外区には大粒の珠文を配している。笵は瓦当部外周まで痕跡が認められる。そして瓦当部から丸瓦部へ向けてはナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、青灰色を呈する。

単弁九葉蓮華文軒丸瓦（図19-61,62）　1+6の蓮子を配する中房は弁区との間に界線をもたない。弁区には先端が丸く細長い子葉を同様の型で囲んだ九弁の蓮弁と逆三角形の弁間文を配する。弁区と外区の間には界線をもち、外区に11個の珠文を配する。笵は作りが雑で、笵傷が横方向に多数走っている。（61）と（62）は同笵であるが、笵は天地逆に押している。（61）は周縁の外側部分をヘラ削りで面取りを施す。（62）は瓦当部の上部の一部分だけ施しているだけである。瓦当部裏面には布目痕が残り、「一本作り」である。丸瓦部凹面で瓦当部裏面より2cmほどのところに棒状のものを斜めについたような痕をともに確認できる。胎土は砂粒を多数含み、焼成はやや甘く、暗灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図20-63）　内区の文様は対向するC字形の中央に棒状の点を配する中心文から枝葉を3～4の唐草文が三反転する全体に線の細い文様。瓦当はその左端の唐草の二転目と三転目の部分である。瓦当部の両端部分は共に右から左方向へのヘラ削りを施す。平瓦部凹面に向けては布目痕を消すように斜方向のヘラ削りが認められる。顎部から平瓦部凸面に向けてはヘラ削りの後ナデ調整を施す。凸面はタテ方向の叩き目が残る。側面上端は面取りを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好、灰白色を呈する。同系統の瓦には外区に銘をもつものがあり、上庄田瓦窯で検出されている。

均整唐草文軒平瓦（図20-64）　彫りが深く、線の細い突線で表された唐草文である。枝葉の先が二又に分かれているのが特徴的である。瓦当面の下部の外周は半分を外側へ向けてヘラ削りによって面取りを施しているので山形になっている。瓦当部の上下はヘラ削り

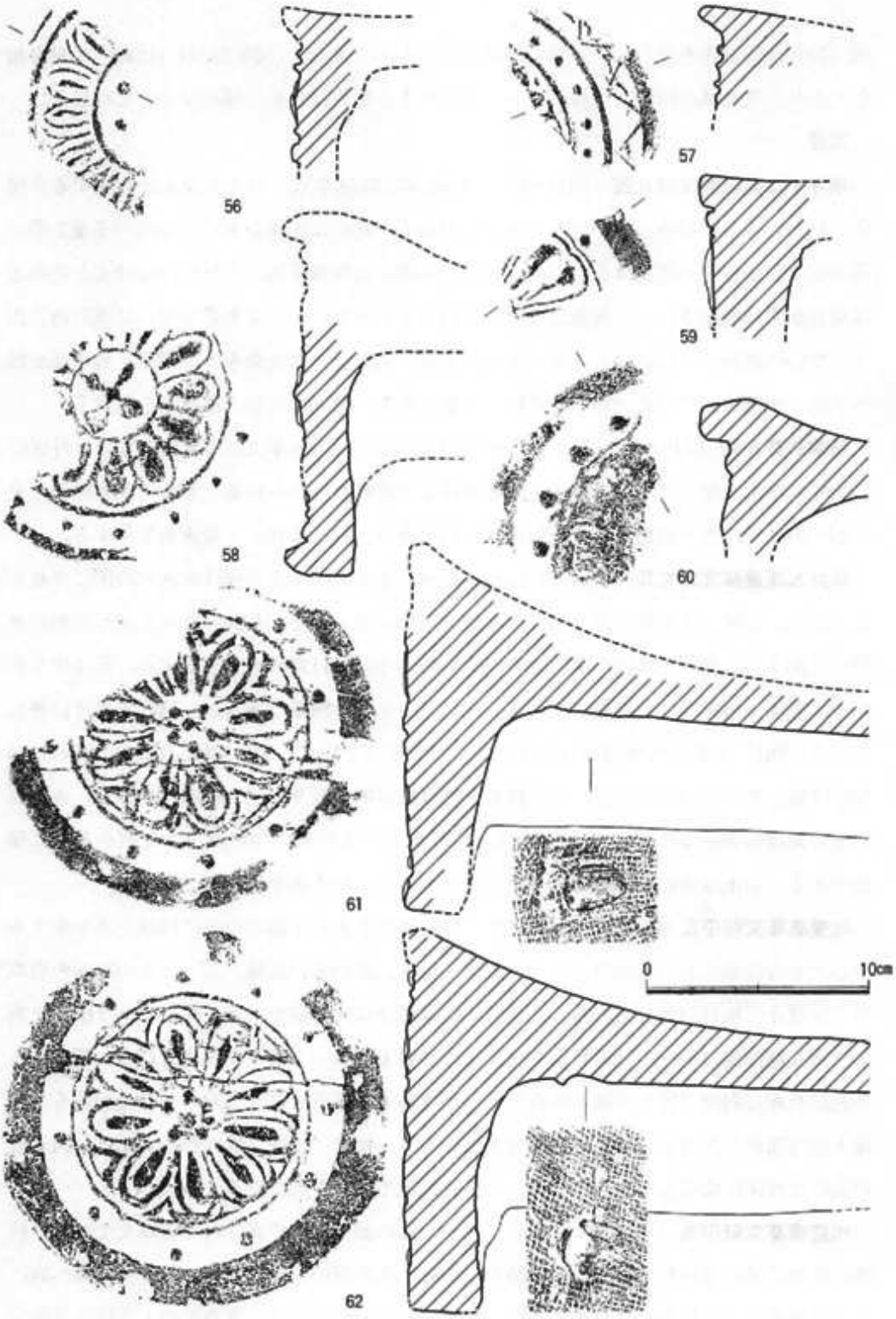


図19　軒瓦拓影・実測図（1/3）

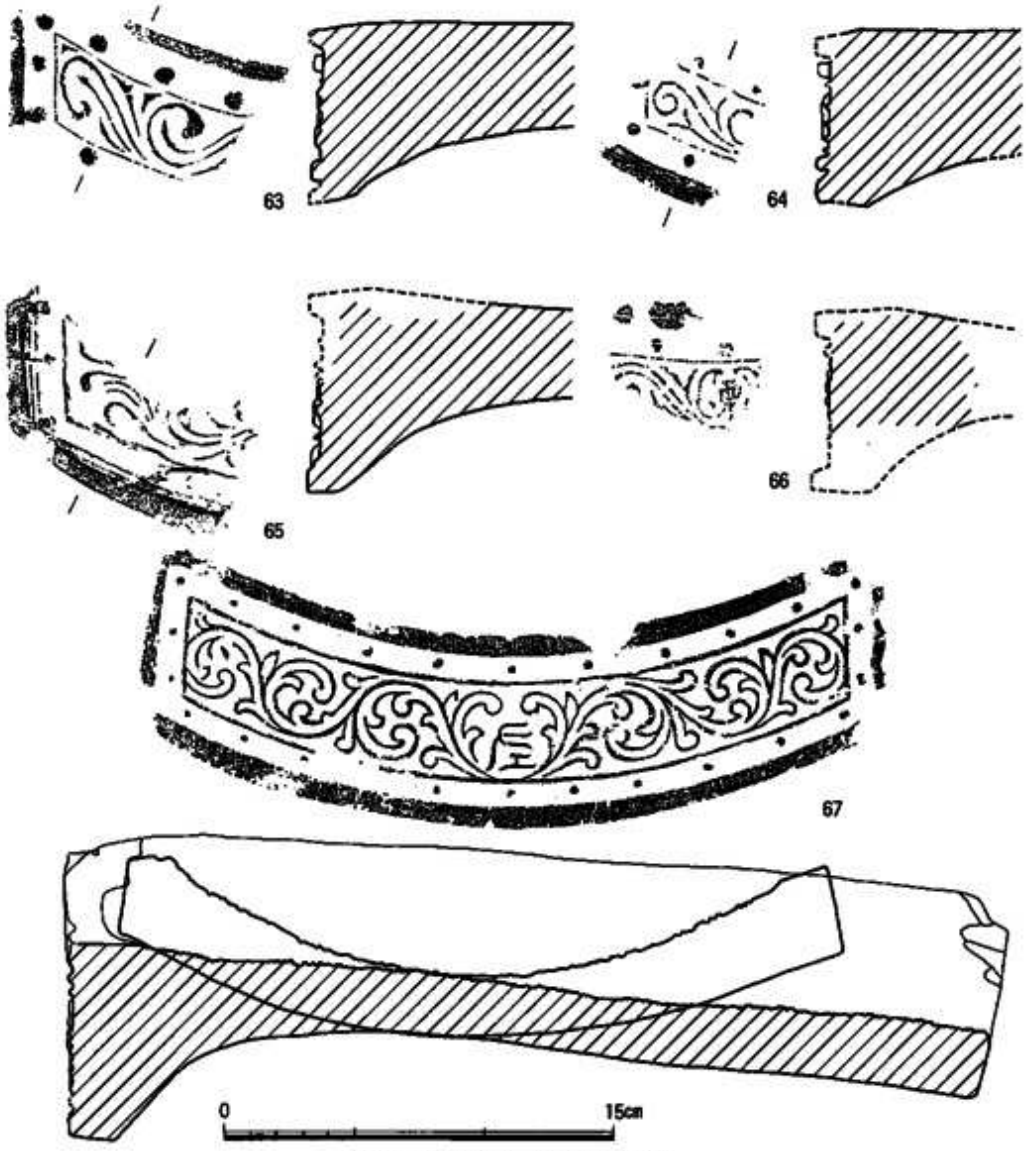


図20　軒瓦拓影・実測図（1/3）

が、顎部分にはヘラ削りの後ナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、暗灰色を呈する。『平安京古瓦図録』378の系統である。

均整唐草文軒平瓦（図20-65）　幅の大きい内区は、枝葉を多数持った巻き込みの浅い唐草文様である。笵傷が破片上の珠文全てに見られる。成形はヘラ削りを施している。胎土は砂粒、雲母を含み、焼成は良好、暗灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図20-67）　平瓦部も含めほぼ完形で出土。中央に篆書体の「左」銘

を陽出し、左右には三反転する唐草を表している。枝葉も複線で、内区空間にむだなく配置されている。外区には小粒の珠文が26個配されている瓦当面の周縁と瓦当部上端は平瓦部凹面へ向けて斜め方向にヘラ削りを施している。平瓦部凹面は0.2～1cm大の布目痕が認められ、両端はヘラ削りで成形している。平瓦凹部の狭端部は調整痕がない。瓦当部下部の顎部は両側面から中央凸部へ向かってヘラ削りを施している。顎部から平瓦部凸面はヘラ削りの後ナデ調整が施され、縄叩き跡痕は認められない。胎土は砂粒を多量に含み、雲母も含む、焼成は良好、淡黄灰色を呈する。

その他の遺構

蓮華文軒丸瓦（図19-57）　外区は内外両方に界線をもち、小粒の珠文を多数配する。周縁は内側が傾斜し、凸線鋸歯文を巡らしている。瓦当部外周はヘラ削りが施してある。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、暗灰色を呈する。表採。

3　ま　と　め

SK01、07は遺物の内容からその性格を若干異にするが、10世紀代の一括遺物であり、二つの土壙の時間的な隔たりは極めて小さいものであると考える。今回の報告では全体の数的調査は行なっていないため、全体の傾向を述べるに留めておく。

最も多い土師器皿類にはA・Bの2タイプが認められ、さらにAタイプは深いものと浅いタイプに分けることができる。黒色土器はA類が中心で、椀、甕、鉢、深鉢状の土器が認められ、B類は少量の小椀のみである。緑釉は洛北、篠、東海系が混在しているが近江系は認められない。須恵器は日用品としての位置を失っており篠系の鉢と椀の他に薬壺がある程度である。輸入磁器は越州窯の上級品と下級品があり、小片だが邢窯の白磁椀もある。

今回比較的まとまって出土したのが白色土器である。これは補完的なものではなく器種もセット化しているところより見て、白色土器として生産されていたと考える。これらは須恵系の技法によって成形され、土師器の技法によって磨き調整されたと考える。

一括遺物として編年的問題を整理すると、①篠窯の椀・鉢があり、加えて篠窯の緑釉陶器の出現期である。②須恵器はバラエティーを失った段階に入っている。③洛北系の緑釉があり、これに関係している白色土器が多い。④近江系緑釉は認められない。以上を考慮して10世紀前半に比定したい。

〔参考文献〕

平安博物館編『平安京古瓦図録』1977年　雄山閣出版

Ⅳ　穀塚古墳（元年度MK11）

1　調査経過

調査地は西京区山田葉室町を中心とした地域に位置する。今回の調査は「桂川右岸流域関連処理分区山田（その11）公共下水道工事」に伴う立会調査である。当該地には穀塚古墳（古墳時代中期、前方後円墳、全壊）・上ノ山古墳（古墳時代後期、円墳、完存）が遺跡地図に登載されているため、立会調査を実施することとなった。

調査の結果、穀塚古墳の封土はすべて削平を受けており、主体部などの施設の確認はできなかった。しかし、周濠部は明瞭に残存しており、後円部を復原することが可能となった。また上ノ山古墳の周濠などの施設は確認することはできなかったが、両古墳の西側には北東から南西にかけての方向を示す溝の存在が明かとなった。調査は1990年1月17日から2月15日迄行なった。

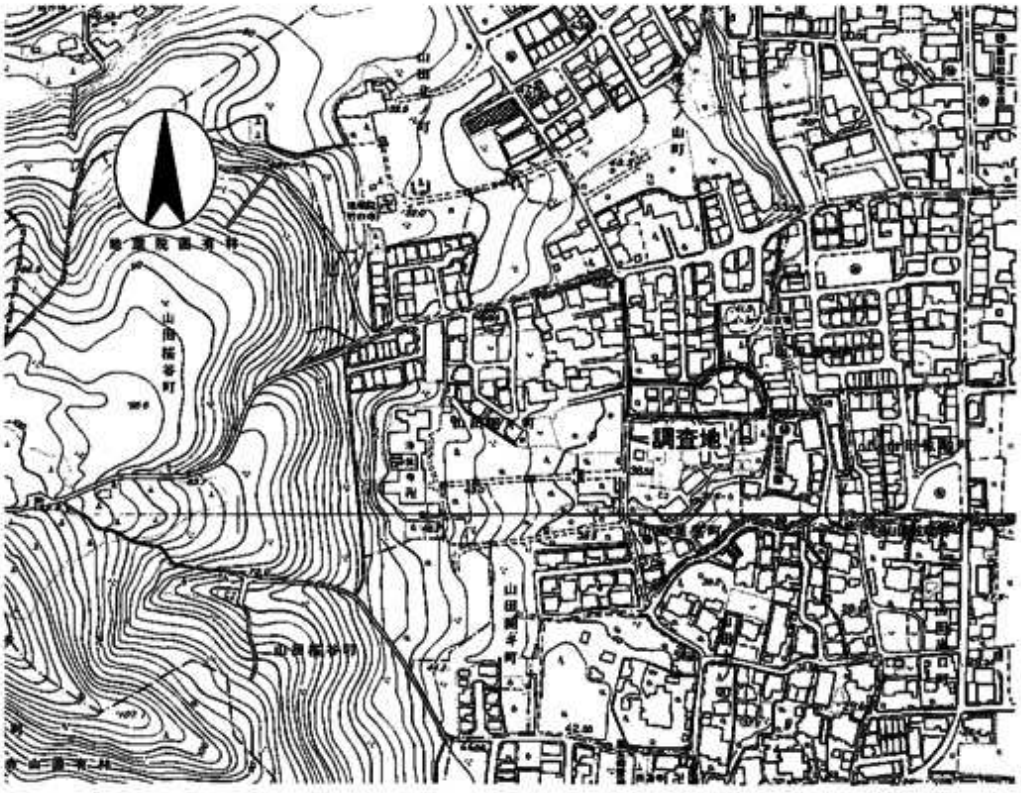


図21　調査位置図（1/5,000）

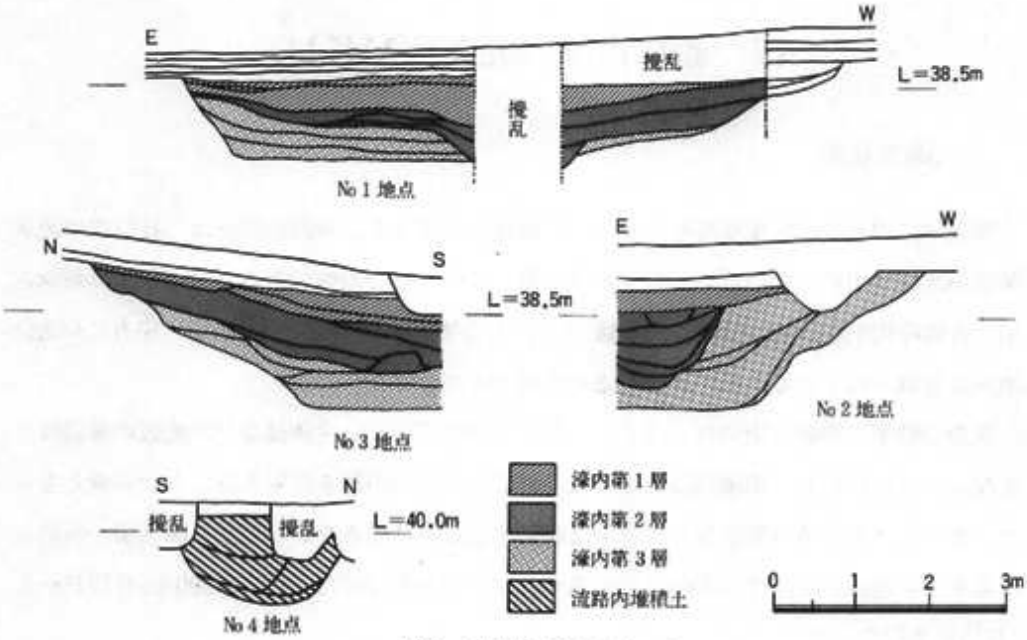


図22　遺構断面図（1/100）

2　遺　　構

現況の地形は西方には西山山系の東麓に近い台地上に位置し、穀塚古墳の東端から急激な段差を以て平地となり、桂川に至る。

穀塚古墳は古地図などによって、前方後円墳と考えられており、後円部の一部は現在の地形図によって推定できる。大正9年梅原末治氏の調査報告によれば、前方部の幅約60尺、全長約135尺、周囲には幅約15尺の空濠を巡らす。濠の深さは最も深い部分で約4尺5寸を測る。大正3年には墳丘部の発掘調査も実施されており、多くの土器の他に帯金具、銅鏡、刀子、馬具、埴輪などが出土している。またこの古墳の主体部は竪穴式石室であることを確認しているが、後にはその下部で別の主体部があることが判明した。出土した須恵器も「穀塚式」という形式名称が与えられている。

このように古墳研究の上で重要な意味をもつ古墳であるが、昭和27年から32年にかけて墳丘は消滅し、現在は宅地化している。今回の調査はこのような歴史的経緯を踏まえて、立会調査に臨んだ。

墳丘部　前述のように、墳丘部はすべて削平を受けており、現地表下0.3～0.4m以下は地山で、遺構・遺物の検出は全くなかった。

周濠　地形図で後円部と思われる道路区画が一部に認められるが、この部分で周濠遺構

およびその堆積土を確認した。埋土の様子から何れの地点でも水が滞留していた様子は認められず、先述の通り「空濠」であったようである。

以下、主な地点（図23）での遺構の状況について報告する。

①地点　現地表下0.3～0.4mで黄褐色泥砂層（地山）を確認した。この土層を掘り込んで、幅8.6m、深さ1.1mを測る南北方向の濠状遺構を認めた。東方（墳丘部）では比較的直線的な傾斜を示しており、その角度は約55°である。それに対して西方では緩やかな傾斜を以て立ち上がってくる。そして底部はほぼ平坦である。濠内の埋土は堆積状況から大きく3層に分けられる。上から第1層は茶褐色系の泥砂層で礫を含み、埴輪、鉄製品などが少量出土する。第2層は茶褐色系の泥砂層を主体としており、堆積状況から封土からの流入土ではないかと考えられる。埴輪、須恵器、鉄製品が出土しており、量的にはこの土層からのものが比較的多い。第3層は黄褐色の砂・砂礫を主体としており、地山の土に類似し、遺物は埴輪が少量出土する。

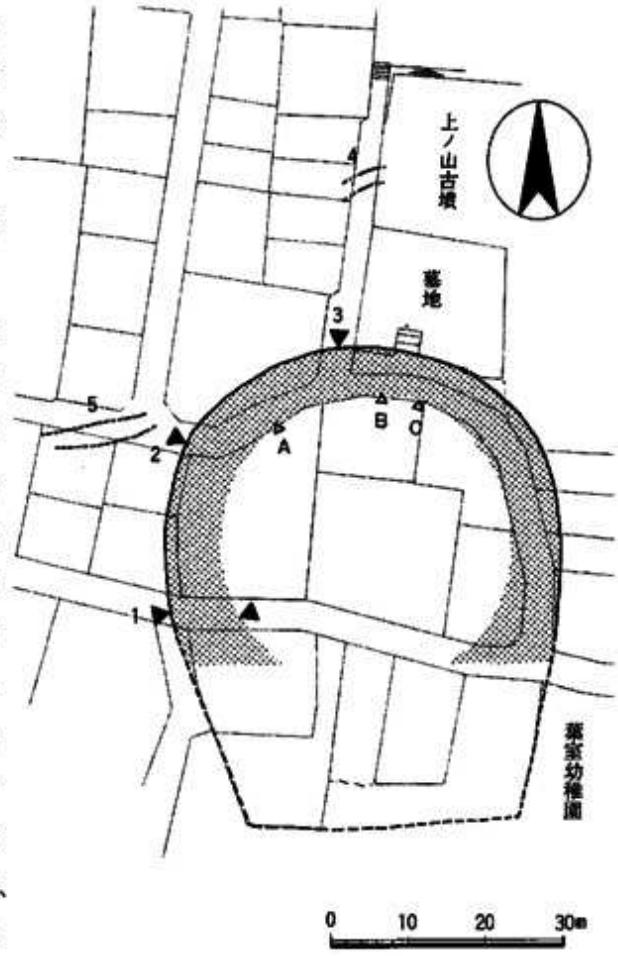


図23　調査地点・復原図（1/1,000）

②地点　後円部外濠の西肩部を検出した。現地表下0.4m前後で地山を掘り込んだ落ち込みを確認した。確認した深さは肩口より1.8mを測り、①地点と同様に緩やかな立ち上がりを示しており、底部はほぼ平坦である。濠内の埋土の堆積状況も同様であるが、第2層の堆積土内には人頭大の石を含み、第3層の土質は泥砂系の若干水分を含む土質である。

③地点　現況地形は北に向かって緩やかに上がっており、約20m離れたところには上ノ山古墳があるところから、当時の地形がほぼ保たれていると考える。ここでは後円部外濠の北端部を検出した。現地表下0.4m前後で地山を切った落ち込みを確認した。確認した深

さは肩口から1.8mを測る。①地点と同様に緩やかな立ち上がりを示しており、底部はほぼ平坦である。濠内の埋土の堆積状況も同様であるが、第2層の堆積土内には人頭大の石を含む。濠の底部は、東壁に比べて西壁では約0.3m高くなっており、下水道の掘形の間(約1m)で段差があったことが認められる。

A～C地点　周濠内での掘削である。縦断面での土層観察を試みたところ、現地表下1.5～1.8mの深さで地山を確認し、その直上には人頭大の石が敷かれたような状態で検出することができた。これは古墳後円部の葺石であると考えられるが、墳丘部そのものの確認はできていない。

溝状遺構

④地点　穀塚古墳の北、上ノ山古墳に西接する地点である。現地表下0.2mで北東から南西にかけての方向を示しており、その延長は上ノ山古墳に至る。確認した規模は、幅2.1m以上、深さ1.1mを測る。埋土からの出土遺物はない。

⑤地点　穀塚古墳の西で検出した。現地表下0.4～0.6mで地山を確認し、この土層を切って溝状の落ち込みを確認した。確認した規模は、幅9.5m以上、深さ1.0mである。溝の西肩部で土師器、須恵器の壺がほぼ完形に近い形で出土した。出土遺物は穀塚古墳の時期(5世紀末)より若干新しい様相を示している。そして埋土、遺構の検出状況を検討すると、④地点の溝と同一の遺構ではないかと思われる。

3　遺　　物

出土した遺物には、円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪、須恵器、土師器がある。埴輪は古墳の周濠部から出土しており、須恵器の短頸壺と土師器の甕は⑤地点で検出した溝状の落ち込みから出土している。

円筒埴輪には須恵質のもの（図24-4・8・12・14）と土師質のものがあるが、須恵質のものも焼成の途時に酸化炎焼成に変じ、器体の外面は赤褐色を呈するようにしている。いずれも小片のため全体の形状と大きさを知ることは出来ないが、底部を復原できたもの(図25-22,23)で、径16～19cm・底部高6～8.5cmを測る。タガは低く断面が台形で中央が凹むものが多いが、断面三角形のものもある。外面の調整はタテハケが主で、タガの取付け部はヨコナデを施す。ヨコハケを施す円筒埴輪（図24-10・11）はあらかじめ接合部にタテハケを施してからタガを取付ける。内面の調整はナデが主で、ヨコハケやケズリも見られ、タガの接合部に指圧痕を残すものもある。口縁部はほとんどナデで調整したのち、ヨコハ

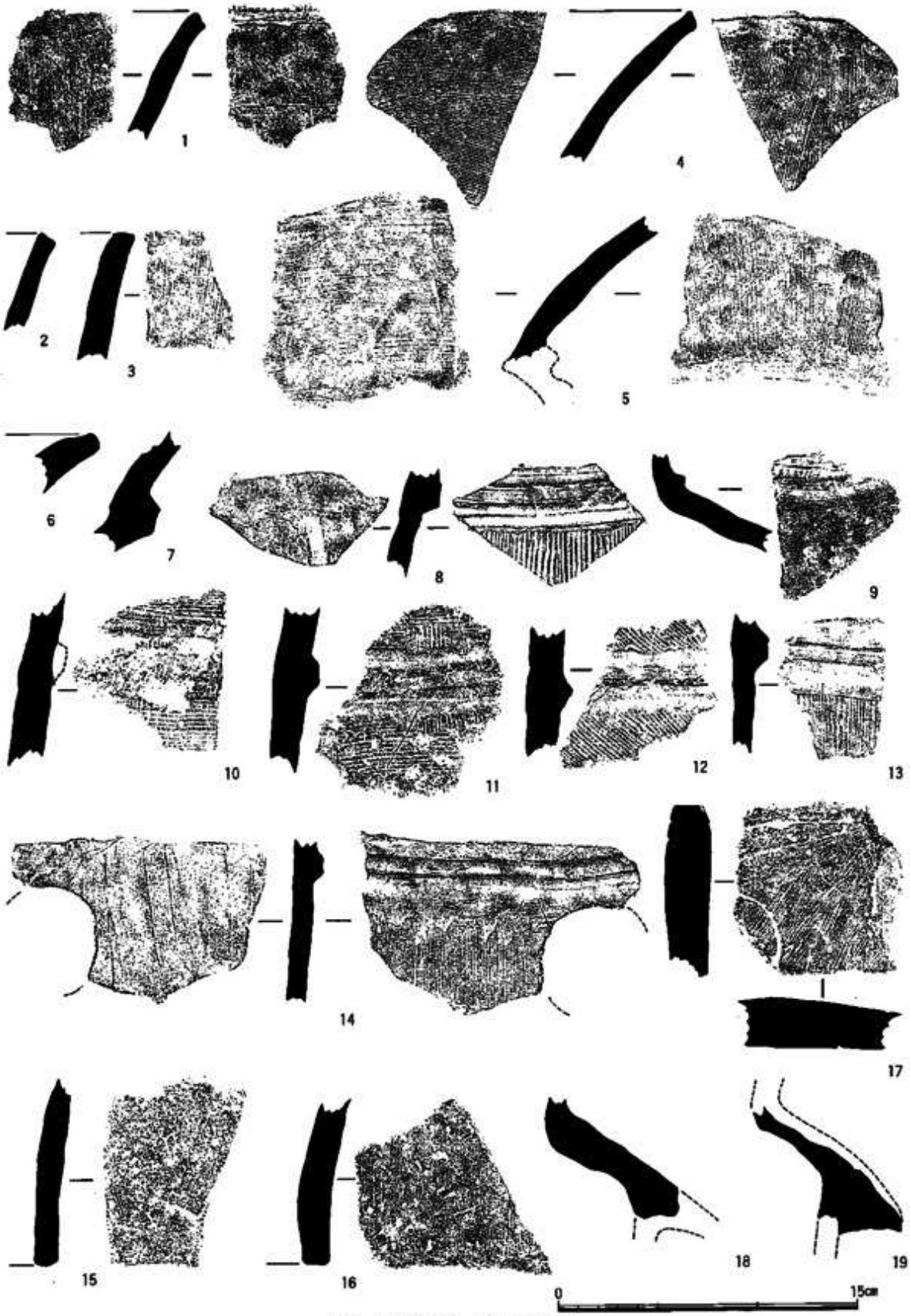


図24　遺物拓影・実測図（1/3）

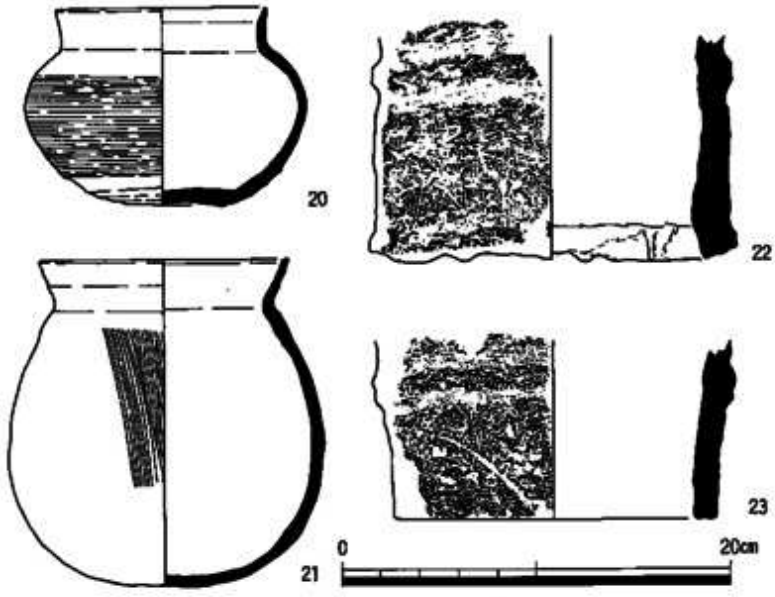


図25　遺物実測図（1/4）

ケを施す。口縁端部は上方をつまみ上げたものとほぼ平坦なものがあり、口縁下に沈線を施すものもある。底部は断面がやや下ぶくれ状を呈し、植物の圧痕を残しかなり凹凸の激しいものもある。また、円孔を穿つものも見られる。朝顔形の埴輪（図24-８～７、９）は頸部に断面が三角形と台形のタガが取り付き、外面はタテハケ内面はヨコハケ調整を施す。形象埴輪には盾形（図24-17）と衣蓋（図24-18・19）になると思われるものが２点ある。盾形埴輪は全体にハケ調整を施し、ヘラ状の工具によって２本１組の直線と弧線で構成される文様を描いている。衣蓋形埴輪の（図24-18）は笠部上半から受部へと屈曲する破片である。外面は下半はタテハケ上半はヨコハケを施し、内面はナデ調整である。また、屈曲部にはタガが剥離した痕跡が認められる。（図18-23）は笠と円筒部の接合部と思われる。調整は外面が剥離しており詳細は不明であるが、内面はナデによる調整を施す。

須恵器の短頸壺（図25-20）は、頸部はほぼ直立し端面は内側に傾斜する。底部は平底気味である。調整は底部は回転を利用したヘラ削りで、体部はカキ目を施し、他は回転を利用したナデによって調整している。土師器の甕（図25-21）は、体部は下ぶくれの球形を呈し底部はほぼ平坦で、口縁部は外湾気味に“く”の字に屈曲し端面は内傾する。調整は表面が摩滅した所が多く詳細な点は不明であるが、体部はタテハケを施し、口縁部はヨコナデ、内面はナデ調整をしている。

4　ま　と　め

今回の調査で得られたデータをもとに、穀塚古墳の復原を試みてみることにする。まず

周濠部であるが、3地点でその端部を知ることができた。①地点に対応する東側は調査できずに終わったが、おおよその位置関係を復原することは可能であろう。これらの成果をもとにして、梅原氏による調査報告、地形図などを参考にすると、まず外周は後円部北側の現在墓地となっている境界、西側の民家の境界、東側の業室幼稚園の境界の地割と検出地点とほぼ合致することが明かとなり、周濠外枠を決定することができた。これによると、周濠の最大幅は約50～52m前後で、長さは不確定要素があるが60m前後と推定することができた。

これに対して、墳丘部の復原は検出地点が一地点だけなので困難である。①地点は墳丘のどのようなところに位置するかは不明と言わざるを得ないが、後円部と考えて、またA～C地点の立ち上がり状況（これが墳丘の裾部に該当するとも考えられる）を検討すると、後円部の直径は34m前後となる。この数値と梅原氏の示した数値（全長135尺≒40.9m）を重ねて比較した場合、後円部に比して前方部がかなり短くなるようである。しかし墳丘部の確認が1地点のみであることや前方部の状況については全く明らかになっていないことなどから墳形を決定することは出来ないが、明らかになった部分を図示しておくと図23の如くとなるであろう。

[参考文献]

梅原末治　「松尾村穀塚」(『京都府史蹟勝地調査会報告』　第二冊　大正9年　京都府)

丸川義広　「洛西山田の古墳分布について」(『京都考古』　第51号　1989年　京都考古刊行会)

「京都市域の前方後円墳」(『リーフレット・京都』　No.7　1990年　(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館)

V　淀城跡（TB29）

1　調査経過

調査地は、伏見区淀本町174-62、148-1に所在する。当該地は、江戸時代初期に築城になる淀城の城内にあり、本丸より二重目の堀「中堀」の存在が推定されるところである。当地で事務所建築工事が計画されたため、工事に先立ち1990年10月1日に試掘調査を行なうこととなった。

調査の結果、推定通り堀状の堆積土を確認した。淀城に関連する遺跡の調査は現在までほとんど実施されておらず、立会調査を散発的に行なっているのが現状である。今回の調査地点は現在の淀城を取り巻く外郭施設としての遺構であり、今後の遺跡調査に当たっての重要な指標となる遺構であると考えた。

そのため、原因者、京都市埋蔵文化財調査センターとの協議の結果、引き続いて調査を行なうこととなった。調査期間は1990年10月22日から27日迄、調査面積は36.4㎡であった。

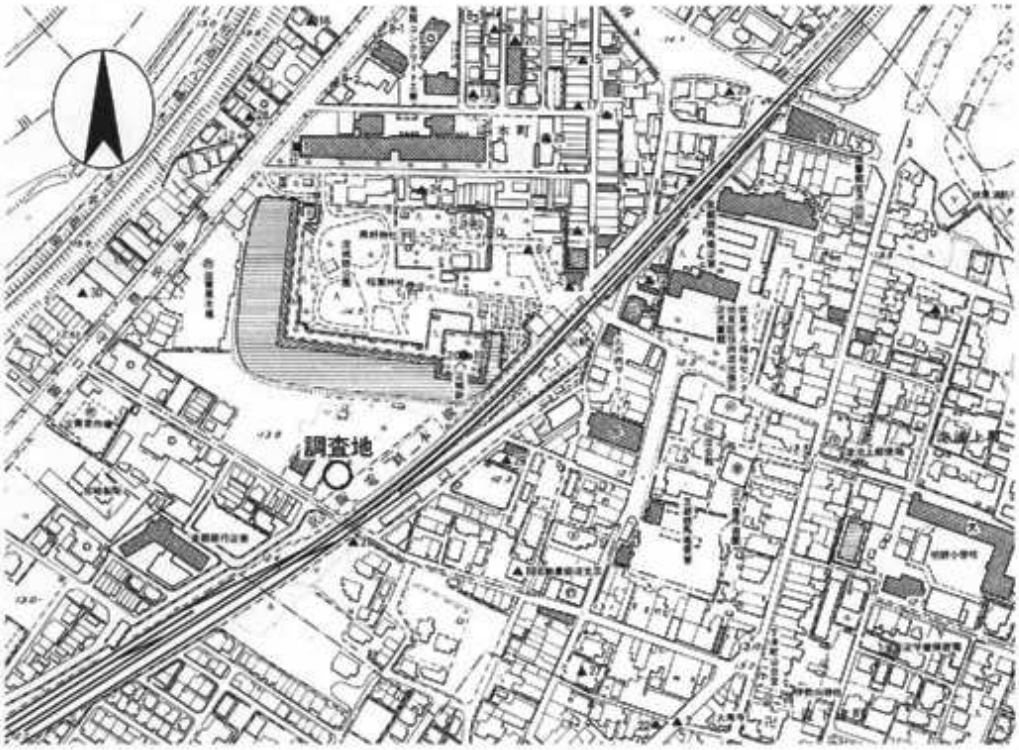


図26　調査位置図（1/5,000）

2 遺　構

調査地はすでに削平を受けて平坦になっているが、周辺の現状地形は、調査地の東側では堀の北肩部推定ラインを境に北側に約0.7m高くなっており、畑地として利用されている。また調査地の西側では現在は駐車場として利用されているが、北から南に向かっての傾斜が認められる。

調査区での基本土層は、北半部では現代盛土(0.2m)、褐色泥砂層(0.1m)、にぶい黄褐色泥砂層(0.2m)が水平に堆積しており、検出した遺構はこの面からのものが大半である。そして下層の堆積土は全体に南に向かって傾斜している様子が断面観察によって明かとなっている。南半部では現代盛土以下は堀状の堆積を示しており、上から4層目までは礫を主体とした土層であり、近現代の遺物が出土している。現地表下1.0m前後の第3層は耕作土のようである。以下の土層には水が滞留していた様子がうかがえ、現地表下2.1mで残存する石垣の最上端部を検出した。

北半部の遺構

土壙、柱穴、不明遺構などを多数検出している。このうち整地を施す際に混入した土が遺構のようになっていたものもあるが、主な遺構について報告する。

SK9　長径1.2m、短径1.0m、深さ0.6mを測る長円形の土壙。土壙内から、土師器、陶器、磁器、瓦などが出土している。

SK16　幅1.0m、検出長1.0m以上、深さ0.4mを測る隅丸長方形の土壙。埋土は2層からなるが、出土遺物による時期差は認められない。出土した遺物は他の遺構に比して比較的多く、土師器、陶器、磁器、瓦などがある。

SK25　長径0.8m、短径0.6m、深さ0.1mを測る長円形の土壙。土壙内から土師器、陶器、磁器、瓦などが若干量出土するほか、拳大の石が数個混入している。

SX28　トレンチ北端部で検出した溝状遺構で、さらに西へ続く。幅0.4m、検出長1.0m以上、深さ0.4mを測る。この遺構の西端部では長さ0.4m、幅0.1mの石で塞ぐようにして立てかけている。掘形内からは何らの施設も認められなかったが、暗渠の可能性もある。遺構からの出土遺物はなかった。

Pit36　濠の肩口付近で検出した。検出規模は長径0.45m、短径0.3m以上を測り、中央には偏平な石を据え置く柱穴状遺構。調査トレンチ内では、この遺構に対応するものはない。検出位置から見て、濠付近にある柵列あるいは築地に伴う柱穴の可能性もある。

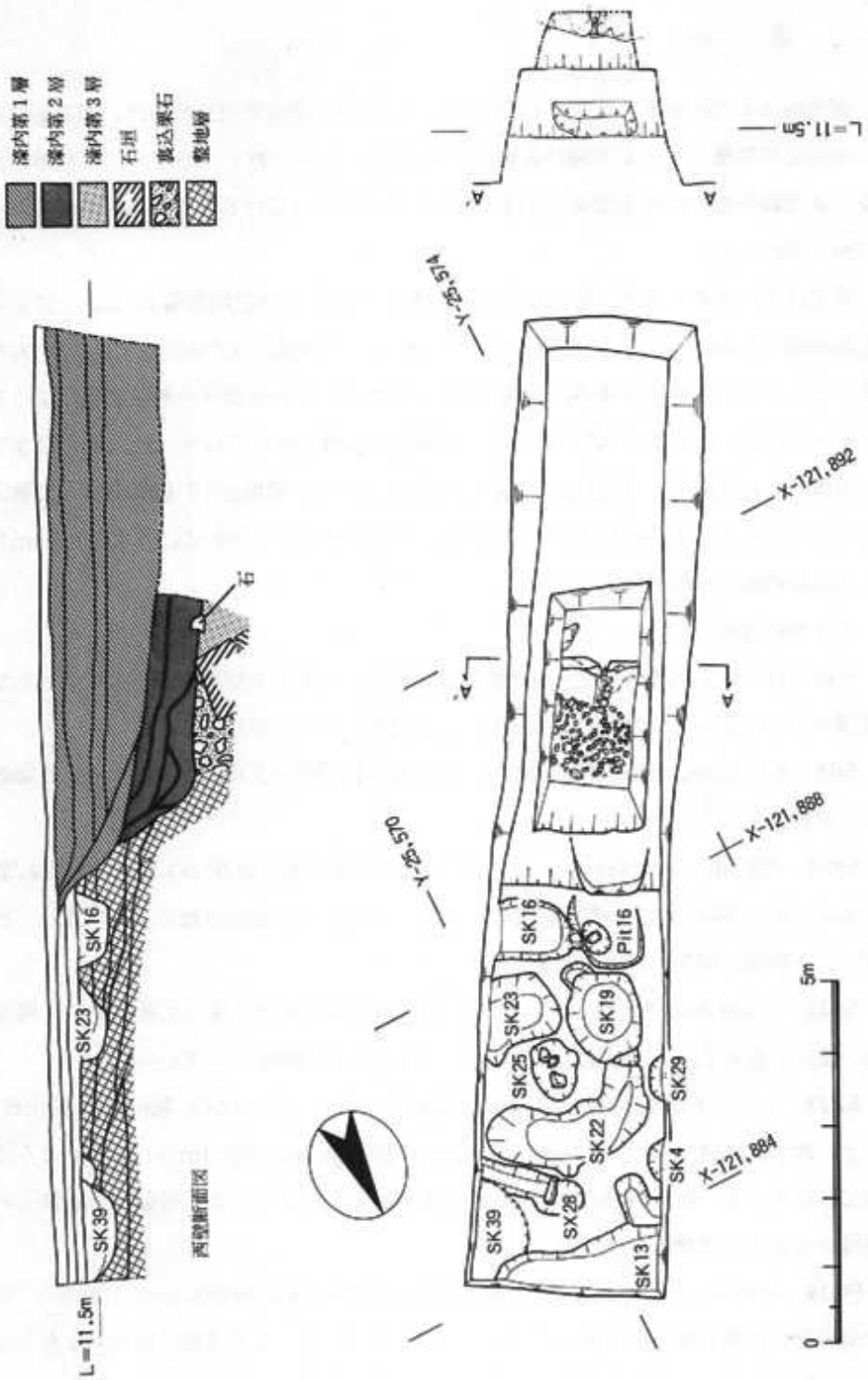


図27　遺構実測図・断面図（1/100）

南半部の遺構

濠（中堀跡）　現代盛土直下から、濠状の落ち込みを確認した。断面観察を行なったところ大きく３層に分けられ、第1層は礫を主体としており中間には耕土らしき土層が認められた。第２層は暗灰色泥土層を主体とし、一部砂層も混入する。遺物も瓦などが小量出土する程度である。第３層は検出した石垣の面より下層で、暗灰色の水分を多く含む泥土層である。ボーリングステッキによる調査で、この土層は1m以上あることを確認した。この層には人頭大から径50cm以上の石が多く混入している。

石垣　第２層下面から検出した。検出した石は２列1段である。さらに下部にも石の存在を確認したが、調査区内での作業の安全性を考慮して中断した。石の表面には刻印はなかった。検出した石の一つは0.6×0.6m以上、長さ0.9mを測り、約60°の傾斜を示す。石と石の間には長辺15～20cm程度の石を並べ置いて隙間を埋めたり、石垣の傾斜角度を調節している。裏込栗石は約１mに亘ってぎっしりと詰まっている。

また調査の終わりに断割を行なった結果、調査区の大部分は中堀構築のための整地土であることが判明した。そして裏込栗石の北で杭を2列分検出した。これは積土の護岸のための杭列であろう。高槻城の調査例を参考にすると、５～8段の杭列と横木によって護岸されているようである。

3　遺　　物

出土した遺物は整理箱で11箱である。北半部の各遺構、濠内から出土している。遺物は瓦が大半を占めており、土師器、陶器、磁器の他に石製品、金属製品が少量出土する。

土器類（図28-1、2、図版36-3）

土器類はSK9・16・25などからの若干量の出土を見る。土師器は皿を中心として出土するが、小片が多く図示するまでに至らないものがほとんどである。陶器は椀・皿など日常の雑器類が多くを占めている。

１は復原口径10.3cm、器高2.4cmを測る陶器製の蓋である。外面には鉄釉を施すが、内面は素焼である。外面中央よりややずれたところに小さなツマミを付着させている。底部はやや赤みがかっており、高い熱を受けたようである。なお底部は糸切によって切り離している。SK14より出土。

２は土師質の鉢である。復原口径は28.9cm、器高10.5cmを測り、脚を3箇所取付けている。脚を付ける際には底部に径7mm程度の穴を穿っている。また内面の上半部には煤が付着

しており、火鉢として使用されていたものであろう。SK22より出土。

(図版36-3)は器高10cm以上、一辺7.5cmの六角形を呈する陶器製の香炉である。脚は3箇所に取付けてあるが現状は痕跡のみである。外面には褐色の釉を施してあり、卍、渦巻、雷文などを組み合わせている。型押によって成形されており、内面には指で押さえた様子が見られる。SK33より出土。

瓦類 (図28-4～9)

遺物包含層、北半部の各遺構、濠から出土している。出土遺物の大半は瓦類で、平瓦、丸瓦のほかに軒丸瓦、軒平瓦が出土する。

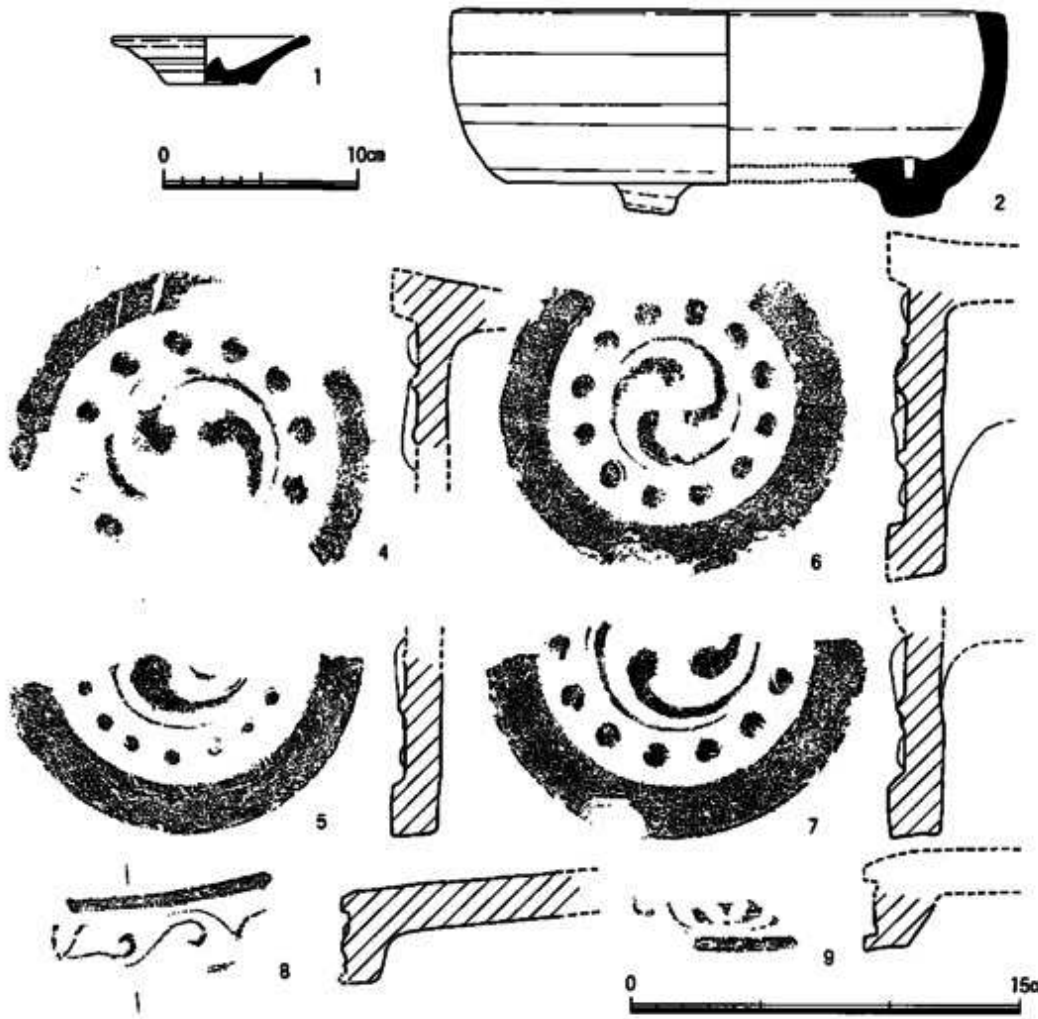


図28　遺物実測図(1/4)、軒瓦拓影・実測図 (1/3)

三巴文軒丸瓦 (4)　左巻の三巴文の文様で復原口径は13.8cm。外区には丸みを帯びた肉厚な大粒の珠文を配し、全体に大作りの意匠に見せている。瓦当部裏面の丸瓦部との接合にナデ調整が施されている。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、暗灰色を呈する。SK16上層出土。

三巴文軒丸瓦 (5)　右巻の三巴文の文様で復原口径は14.2cm。肉厚で太い尾の巴文を持ち、幅を取った外区や周縁に比べ、珠文が小粒である。瓦当部外周はナデ調整が施されている。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は良好、灰色を呈する。SK16出土。

三巴文軒丸瓦 (6)　小ぶりの内区に右巻の三巴文を配す。内区に比べて外区、周縁は大ぶりで、珠文も大粒である。若干の笵ズレが確認できる。成形にはナデ調整が施されている。胎土は砂粒を含み、焼成は良好。銀化し、青灰色を呈する。濠内出土。

三巴文軒丸瓦 (7)　右巻の三巴文の文様で復原口径は14.6cm。内区、外区、周縁ともに幅を取り、外区の珠文も大粒を配し、全体に大作りの文様である。周縁・瓦当部外周、瓦当部裏面の周縁にはナデ調整を施している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好。暗灰色を呈する。濠内出土。

均整唐草文軒平瓦 (8)　瓦当部の右半部残存する。中心に三弁の花文を中心飾にもち、そこから左右に唐草が二転し、さらにその外側に唐草が途中で折れたようなV字状の唐草をもつ文様である。瓦当部上端は横方向のヘラ削りによって面取りを施す。平瓦部上面はタテ方向のヘラ削りを施す。顎部はナデ調整。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好。灰色を呈する。SK22出土。

均整唐草文軒平瓦 (9)　瓦当部の中心の下半の破片である。小片のため文様構成は分かりにくいが、三弁の根元に珠文をもつ花文の中心飾りと、左右に広がる唐草が確認できる。下外縁、顎部はナデ調整が施されている。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好。灰色を呈する。SK22出土。

4　ま　と　め

今回の調査は、中堀（北屑部）を確認したことに意義がある。現状地割や地形図を参照することによって、その存在と位置関係は推定されていたが、確認できたのは初例であると言える。

調査の結果明らかになったことは、堀を構築するに際して非常に丁寧かつ強固な整地を施していることである。これは、淀城周辺のベースとなる土層が砂であるため軟弱な地盤

であり、そのため石垣を積むに当たっては大幅に土砂を入れ替える必要がある。さらに土砂の流出防止の措置を施した上で石を組むという段階を経ている。

整地土および裏込栗石からの出土遺物がないため、建造の時期は結論付けられない。しかし構築作業を検討すると、幕藩体制の基礎が固まりさらにその安定化が図られた時期に徳川幕府が自らの権威を示す天下普請の様相がある。文献史料では寛永2（1625）年に築城、元禄14（1701）年には城下町の整備が行なわれており、何れかの時のものであろう。

しかし先述のように丁寧な造作を見ると、やはり前者の方がより妥当性を帯びるであろう。そして度重なる風水害―元禄14（1701）年、正徳2（1712）年、享保6（1721）年など―によって、石垣は崩壊し土砂が堆積していった様子が断面観察によって明かとなった。

次に今回の調査成果と周辺の発掘、試掘、立会調査の成果をもとにして、また現況の地割、地形図そして現地での地形調査を加味して復原図を作成してみた（図29）。図26-1、7、8-1～4で石垣や整地層を確認しており（7、8-1の2地点より北は旧宇治川の流路であろう）、5、10、11、13、15、17、25では堀内の堆積土を確認している。この図では中堀は約30m幅の規模をもち、外堀は約80mとなる。

［参考文献］

『京都府史蹟勝地調査会報告』　京都府　大正11年

『京都市埋蔵文化財研究所概報集　1978-Ⅰ』　（財）京都市埋蔵文化財研究所　1978年

『昭和59年度　京都市埋蔵文化財調査概要』　（財）京都市埋蔵文化財研究所　1987年

『淀城跡調査概要　Ⅰ』　京都市建設局公園管理課・淀城跡調査団　1987年

『高槻城三の丸跡発掘調査概要報告書』　高槻城跡遺跡調査会　1987年

『淀城跡公園石垣改修工事報告書』　京都市建設局公園緑地部　1990年

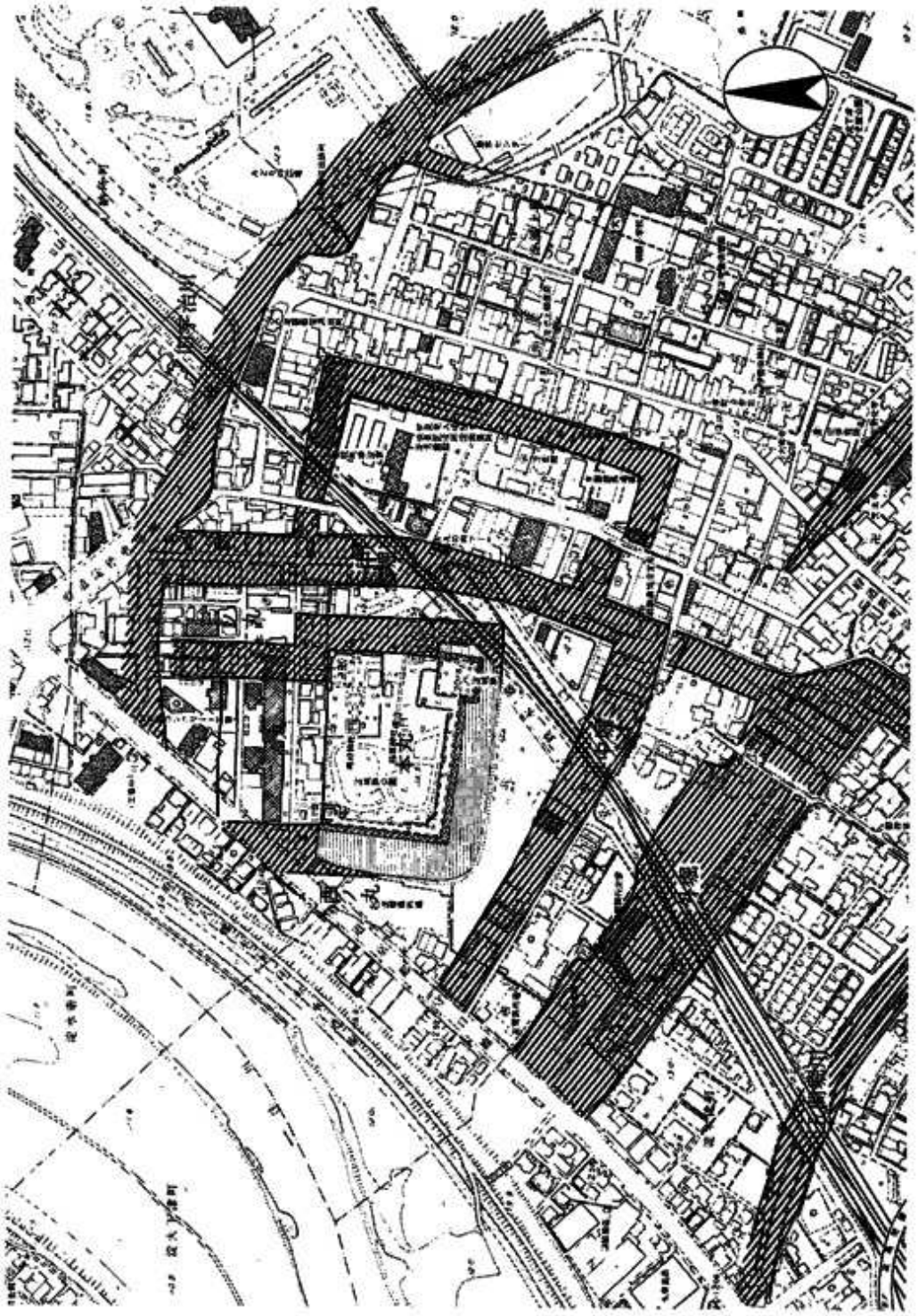


図29　淀城復原案

表23　淀城跡周辺調査一覧表

番号	調査日	種類	調査地	調査概要
1	1976.12	試掘	伏、淀本町	GL-2.5～3.0mにて内堀東側と推定する石垣を3段以上検出。
2	1983.11	立会	伏、淀池上町他	遺構、遺物なし。
3	1983.12	立会	伏、淀池上町地先	遺構、遺物なし。
4	1983.6	立会	伏、淀本町地先	遺構・遺物なし。旧宇治川内か。
5	1983.7	立会	伏、淀本町174他	GL-2.2mまで堀内状堆積土を確認。
6	1984.11	立会	伏、淀本町	堀内堆積土。
7	1984.6	立会	伏、淀池上町地内	GL-0.3mにて北面する石垣を3段以上検出。旧宇治川の護岸石垣と同様のものと推定。
8-1	1984.8～	立会	伏、淀本町他	GL-1.5にて人頭大の石の集積を検出。7の旧宇治川のの護岸石垣と同様のものと推定。
-2	1985.1			GL-1.5mにて整地を施した土層を確認。二の丸に関連するものか。
-3				GL-1.5mにて人頭大の石の集積を検出。7の旧宇治川の護岸石垣と同様のものと推定。
-4				GL-1.6mにて東西の石垣を検出。中堀の東の堀と道路が交差する所で橋脚部に当たるか。
9	1984.8	立会	伏、淀池上町25地先	撹乱のみ。
10	1985.4	立会	伏、淀本町174	堀内堆積土。
11	1985.8	立会	伏、淀本町174	堀内堆積土。
12	1985.8	立会	伏、淀池上町180	遺構なし。
13	1986.10	立会	伏、淀本町173	堀内堆積土。
14	1986.12	立会	伏、淀池上町90	盛土のみ。
15	1986.2	立会	伏、淀本町173	堀内堆積土。
16	1986.6	立会	伏、淀本町231	盛土のみ。
17	1987.4	立会	伏、淀本町173	堀内堆積土。
18	1987.7	立会	伏、淀池上町174	盛土のみ。
19	1987.8	発掘	伏、淀城跡公園内	天守台の調査。地下室構造の石蔵、天守の四隅の櫓などを検出。
20	1987.9	立会	伏、淀本町173	遺構なし。GL-0.5mで砂層。
21	1988.1	立会	伏、淀下津町208	遺構なし。GL-1.2mで砂層。
22	1988.5	立会	伏、淀下津町107	遺構なし。
23	1988.8	立会	伏、淀本町52	遺構なし。旧宇治川内か。
24	1988.9	立会	伏、淀本町173	遺構なし。GL-0.6mで砂層。
25	1989.1	立会	伏、淀本町167	遺構なし。GL-0.6mで砂層。
26	1989.7	立会	伏、淀本町173	堀内か。GL-1.6mで泥土。埋土から瓦出土。
27	1989.9	立会	伏、淀下津町70	遺構なし。GL-0.8mで砂層。
28	1989.10	立会	伏、淀本町231	盛土のみ。
29	1990.6	立会	伏、淀池上町147	遺物包含層を確認。整地層か。
30	1990.12	立会	伏、淀下津町231-8	GL-0.55で漆状の落ち込み。中堀か。

VI　主要な出土遺物

1　土器類

平安京左京二条三坊（HL123）

調査地は、中京区新町通二条上る二条新町715、717で、建物建設工事に伴う立会調査である。当該地は平安京左京二条三坊五町に推定されている。

調査地では、現地表下1.1m～1.9mの深さで町尻小路と思われる5層の路面とそれに伴う東側溝（4時期以上）を検出した。最下層の路面に伴う溝は、幅1.8m、深さ0.4mであった。この溝から、平安時代中期の土師器皿・甕、須恵器甕・壺・鉢、緑釉陶器椀・皿、灰釉陶器椀・皿、青磁片、瓦片、木片などが出土した。調査は1990年11月21日～29日の間実施した。

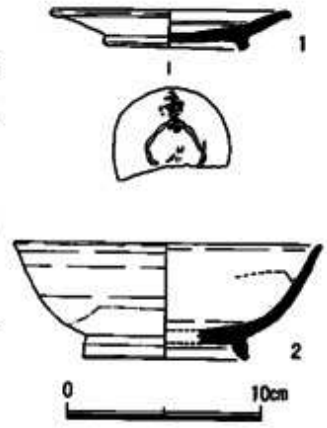


図30　土器実測図（1/4）

墨書土器（図30-1）　灰釉陶器皿である。口径12.3cm、器高1.95cmを測り、約3/5残存する。轆轤成形で口縁端部は外反し、焼成は良好、胎土は堅緻で灰色、釉調はオリーブ色を呈する。内面には重ね焼き痕が残る。外面底部に墨書痕が認められる。文字は「曹□」と読める。第1字は曹の異体字、第2字は僅かに墨痕が残る程度であるが、可と読めるようである。釈読に際しては、（財）向日市埋蔵文化財センターの清水みき氏の協力を得た。

灰釉陶器（図30-2）　口径15.8cm、器高5.9cmを測る椀で、約1/2残存する。轆轤成形で口縁部は外反し、焼成は良好、胎土は堅緻で灰色、釉調はオリーブ黒色を呈する。内面に重ね焼き痕が残る。

平安京左京五条三坊（HL44）

本調査は、下京区綾小路通新町西入矢田町115で実施した建物建設工事に伴う立会調査である。当該地は平安京左京五条三坊二町に推定されている。1990年6月11日に調査を実施した。調査地では遺構が複雑に重なり合っていたが、現地表下1.5mにて幅0.8m、深さ0.3mの土壙を確認した。埋土は暗灰色泥砂で、土師器と共に多量の火鉢が出土した。

土壙から出土した火鉢は、少なくとも、円形火鉢5個体及びその蓋1個体、円形輪花火鉢7個体、方形火鉢2個体、蓋付円形火鉢1個体、蓋付方形火鉢2個体の計18個体ある。

火鉢はいずれも瓦質で、精良の白土を用い、わずかにチャートの砂粒を含む。黒化処理

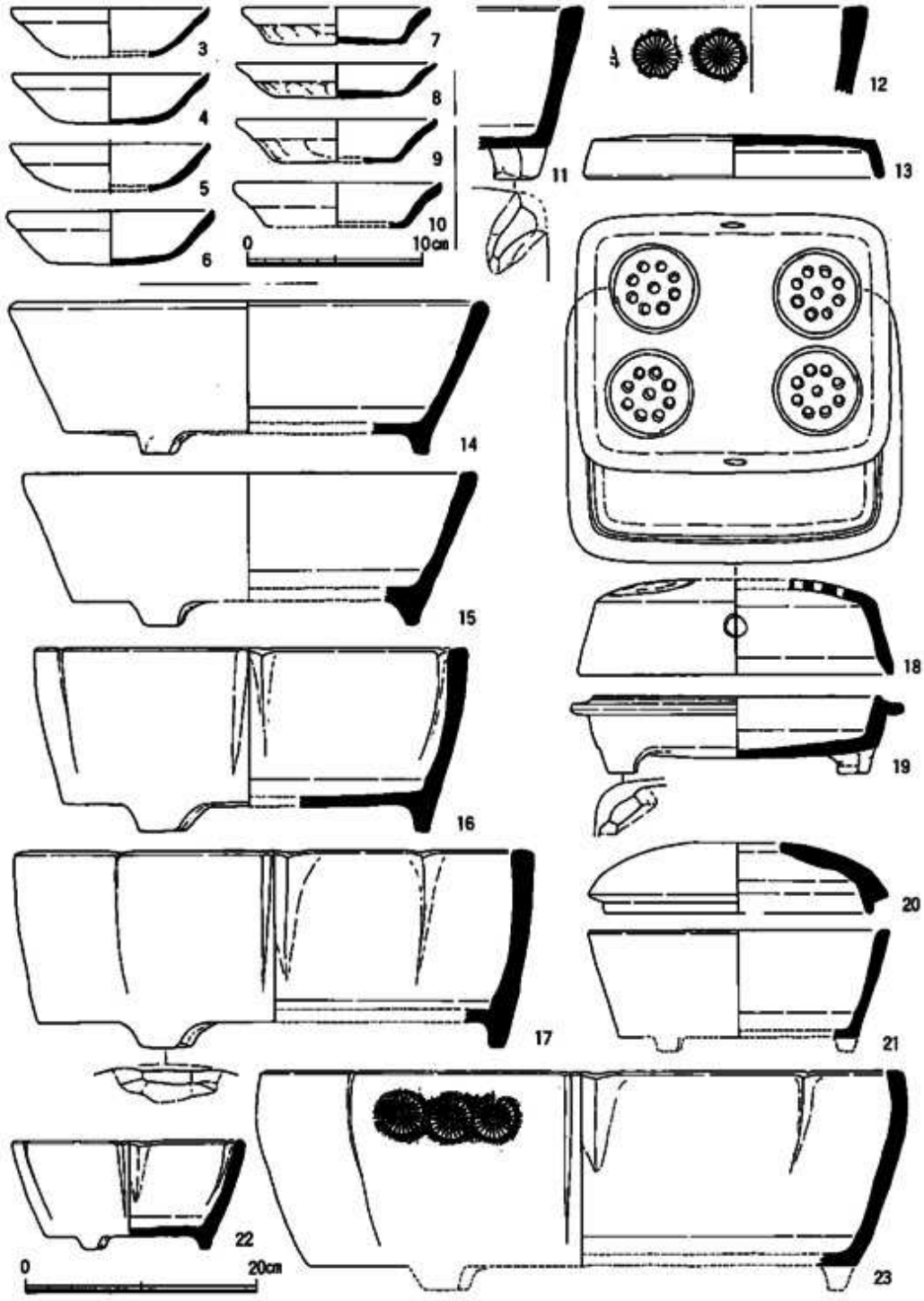


図31　土器実測図（3～10は1/4，11～23は1/6）

はほぼ全面に行うが、外面はやや薄く、白土のままの所が部分的に残る個体もある。外面の底部を除き、磨きをかける。

ほとんどの個体にかすかながら煤を認めるので、使用したものの廃棄品である。一緒に出土した土器（図31-3～10）から14世紀のものと分かる。この時期のまとまった資料として貴重である。

円形火鉢（図31-13～15・21）　体部の高さは9.5～12.5cm である。体部は斜めに直線的に開く。脚は横からみると台形で、底部の円周に沿って３足を付ける(図31-17)の実測図を参照)。蓋が１個体ある（図31-13）が、この大きさに見合う火鉢は出土していない。

円形輪花火鉢（図31-16・17・22・23）　体部の高さは8.5～17.5cm である。体部は円形火鉢よりも開きが少ない。脚は横からみると台形で、底部の円周に沿って３足を付ける。輪花の数は５ないしは６のものと８のものがある。外面の体部に３個１対の菊花の印を押すものが２個体ある。菊花は実測図に示したものは24弁、実測図に示していないものは16弁である。

方形火鉢（図31-11・12）　全体の大きさは不明である。脚は横からみると台形で、底部の四隅に対角線方向を長辺とするように付ける（図31-11の実測図を参照)。外面の体部に３個１対の菊花の印を押すものが１個体ある。菊花は21弁である。

蓋付円形火鉢（図31-20）　円形火鉢を本体とするもののようで、蓋の出土からこの火鉢の存在がわかる。蓋の天井に大きな円形の孔があく。

蓋付方形火鉢（図31-18・19）　平面は長方形である。火鉢の本体の体部の高さは４cm前後と低い。本体には蓋を受ける鍔が付く。脚は横からみると台形で、底部の四隅に対角線方向を短辺とするように付ける（図31-19の実測図を参照)。蓋の天井部の四隅には、二重の圏線を描いた内に計９個の小孔をあける。また、蓋の１個体には長辺の側面に円形の孔を、別の１個体には長辺の天井部の側面寄りに２つ巴形の孔をあける。

２　瓦　　類

単弁六葉蓮華文軒丸瓦（図32-24）　平安京左京五条四坊六町（元年度HL164）出土。やや突出した中房に1＋6の蓮子を配す。先端にもりあがりを付けた花弁は単弁で中には子葉がない。弁間文は花弁と同じように先端にもりあがりを付けたのぞき弁風のものである。弁区と外区を分かつ界線はあるが珠文はない。笵ズレを起こしている。瓦当部外周の丸瓦部との接合部は指押さえとナデ調整、外周の下半はヘラ削りの後指押さえで成形されてい

る。瓦部裏面から丸瓦接合部も指押さえ・ナデ調整を施す。丸瓦部凸面もタテ方向の縄目叩き目痕の上を横方向のナデ調整をする。凹面には細い布目痕が認められる。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、暗灰色を呈する。

複弁六葉蓮華文軒丸瓦（図32-25）　白河北殿跡（元年度KS4）出土。比較的大きな中房に1+6の蓮子を配し、狭い弁区に先端の丸みを帯びた花弁を二つ接合して複弁を形成。弁間文は棒状、外区は弁区に比べて大きく、大粒の珠文を配す。文様は全体に線が細い。笵は浅く、笵キズが多数認められる。瓦当部と丸瓦部の接合部は指オサエ、ナデ調整を施している。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘い。灰白色を呈する。

三巴文軒丸瓦（図32-26）　平安宮陰陽寮東限溝（HQ50）出土。瓦当部の1/4程を残す破片であるが、三巴文と推定できる。灰釉が付着しており、右巻の巴は頭が丸みを持たず

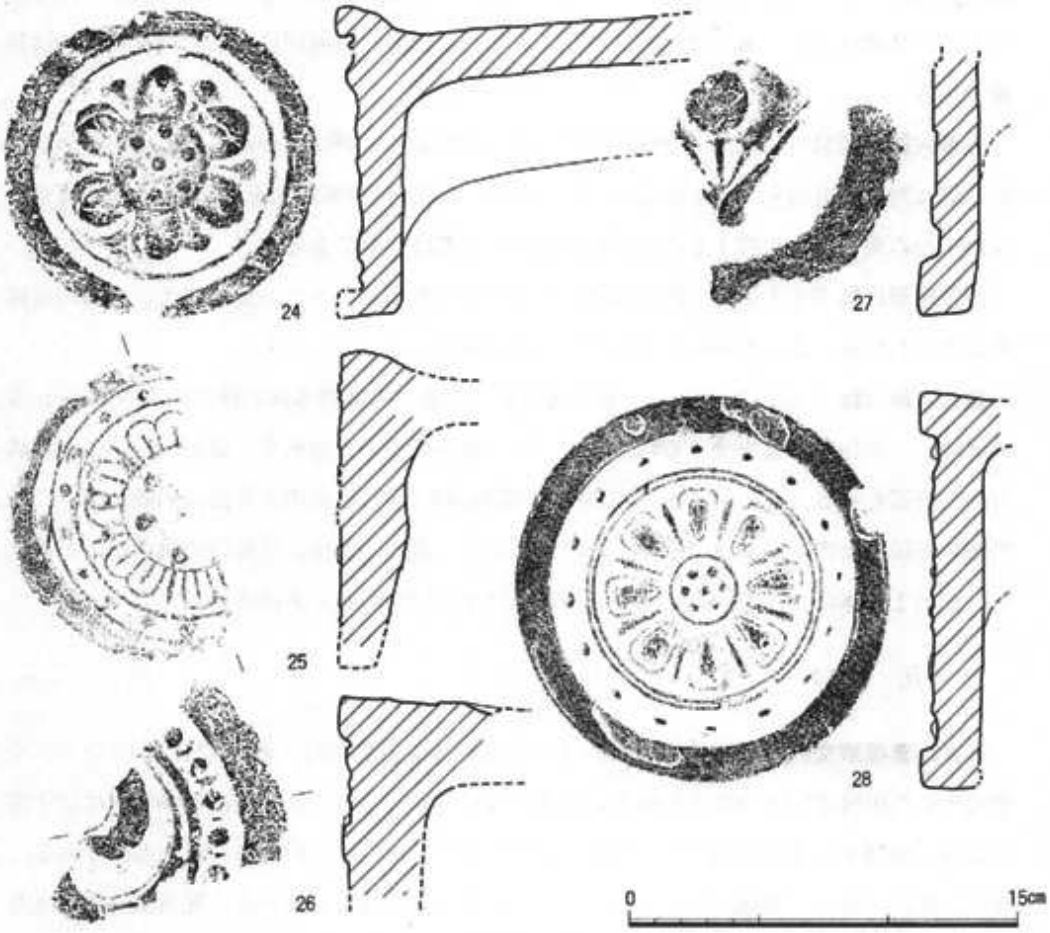


図32　軒瓦拓影・実測図（1/3）

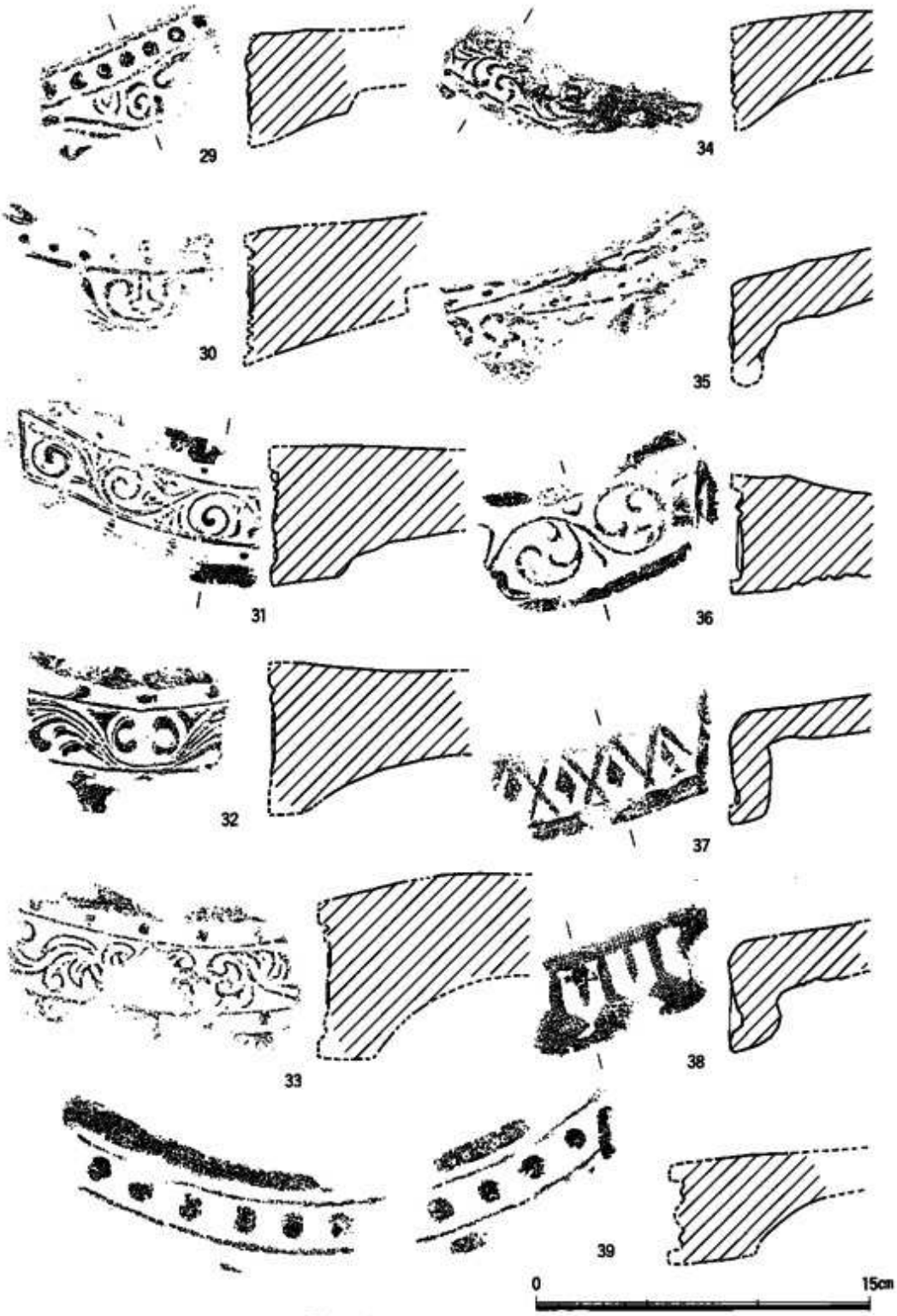


図33　軒瓦拓影・実測図（1/3）

尖頭状である。内区と外区を分かつ太めの圏線が存在する。外区の珠文は密に並んでいる。笵ズレを起こしている。胎土は砂粒を含み、焼成は良好。灰色を呈し、灰釉は緑灰色を呈する。

日ノ丸扇文軒丸瓦（図32-27）　伏見城跡（FD16）出土。浮出しの日ノ丸を持つ五本骨の開き扇の文様であるが、作りは雑である。成形はヘラ削りを施している。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、暗灰色を呈する。

緑釉単弁八葉蓮華文軒丸瓦（図32-28）　尊勝寺跡（KS12）出土。平安神宮境内で出土しており、平安神宮創建時（明治28年　1895）に製作されたものである。平安時代前期栗栖野瓦窯で生産された単弁八葉蓮華文軒丸瓦(『平安京古瓦図録』49,50)の文様をモデルに3/4の縮尺である。緑釉は厚く施釉されているが、発色が悪く一部白く変色している。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、浅黄橙色を呈している。図34-43の均整唐草文軒平瓦と対をなす。

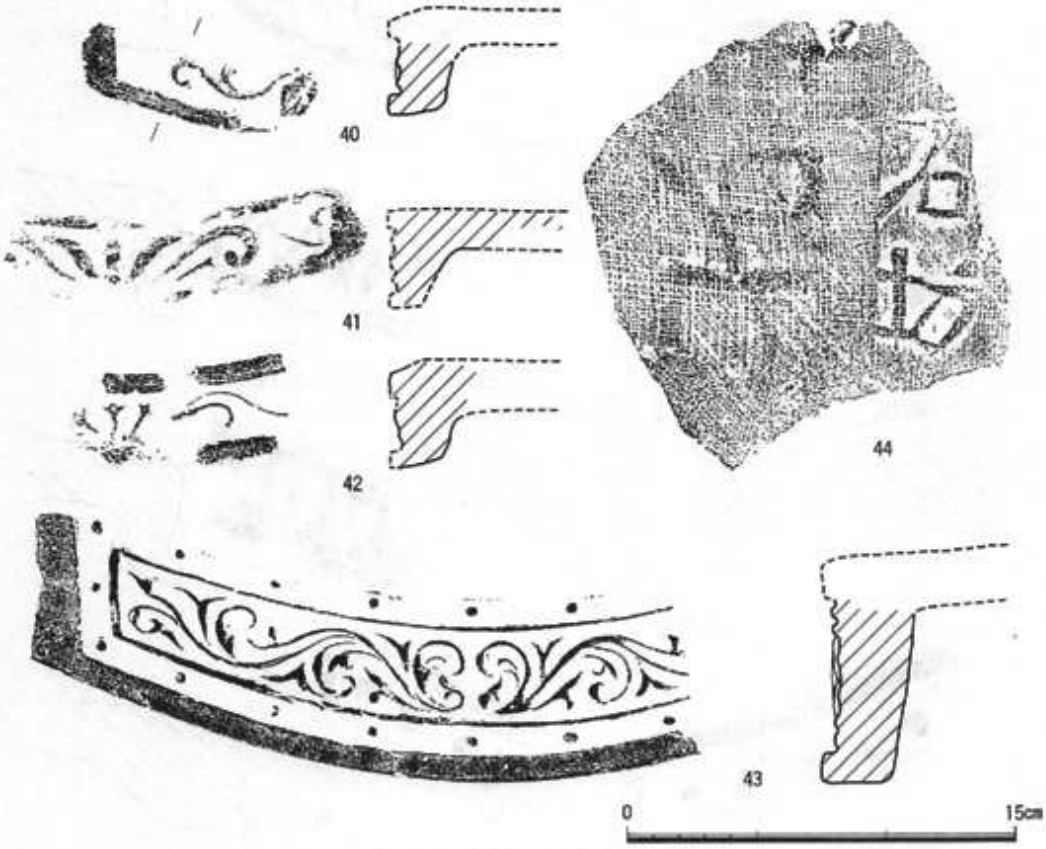


図34　軒瓦拓影・実測図（1/3）

忍冬唐草文軒平瓦（図33-29）　北白川廃寺跡（KS4）出土。顎部にタテ方向の縄目叩き痕が認められる。胎土は砂粒を含み、焼成甘く、淡黄灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図33-30）　平安宮朝堂院跡（元年度HQ77）出土。平城宮6664F型式系である。花状の中心飾りの外側に対向するC字の下部が接合する中心文から二つの枝葉をもった唐草が左右に三転し、一番外の脇区に接し巻き込みがない。瓦当部の上端は平瓦部へかけてヨコ方向へラ削り、瓦当部の下端顎部はヨコ方向のナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み、焼成はやや甘く、淡灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図33-31）　平安宮陰陽寮跡（HQ50）出土。対向する上部の巻き込みの大きいC字状が三葉の中心飾りを囲む中心文から巻き込みの大きい唐草が左右に三転する文様である。左の方向へ向かって笵ズレを起こしている。瓦当部両端にヘラ削りを施している。顎部はナデ調整によって顎を強調している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好、オリーブ灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図33-32）　平安中務省跡（元年度HQ76）出土。対向するC字とその脇にY字をもつ中心文から巻き込みの浅い流れるような唐草が左右に三転する文様である。左方向へ笵ズレを起こしている。顎部にナデ調整を施す。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、緑灰色を呈する。同型式の瓦は芝本瓦窯で検出されている。

均整唐草文軒平瓦（図33-33）　平安右近衛府跡（HQ16）出土。瓦当部の中央部の破片。意味不明のh字状の中心飾りの外側に対向するC字を複線で陽出。底から複線で枝葉を多数もった唐草が左右に三転する。瓦当部上端は平瓦部からが当部に向けて斜方向にヘラ削りを施している。平瓦部凹面は粗い布目痕。胎土は8mm大の小石から砂粒を含み、焼成はやや甘く、淡灰色を呈する。同型式の瓦は小野瓦窯で検出されている。

唐草文軒平瓦（図33-34）　一ノ井遺跡（UZ2）出土。瓦当部の左半部の破片。笵の押しが甘く、残存部の右半分は残っていない。成形はヘラ削りを施している。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、灰白色を呈する。

軒平瓦（図33-35）　平安宮内舎人跡（HQ85）出土。笵ズレというよりも笵の押し間違いで、文様は上外区に珠文がならぶ以外は不明。成形も雑で指オサエとナデ調整を施す。瓦当部は折曲げ技法である。胎土は0.7～2cmの小石を含み、焼成は良好、灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図33-36）　平安中務省（元年度HQ76）出土。半載花文を中心文に左右に二転するする唐草文である。瓦当部上端はナデ調整、下端はヘラ削りを施している。平瓦部凹面は細かい布目痕、凸面は格子状の叩き痕が残る。側面上端にヘラ削りで幅1.4cm

の面取りを施す。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好、青灰色を呈する。

格子文軒平瓦（図33-37）　尊勝寺跡（KS12）出土。瓦当部文はX字状と菱形を交互に並べた文様。折り曲げ技法である。瓦当面に布目痕の残る部分があり、折り曲げ部分に指オサエ調整。胎土は砂粒を少量含み、焼成甘く、浅黄橙色を呈する。

剣頭文軒平瓦（図33-38）　平安宮右近衛府跡（HQ16）出土。瓦当部文は折り曲げ技法で、右から三番目の剣頭文の中に笵傷がある。瓦当面に布目痕が残る。瓦当部上端にヘラ削りを施している。平瓦部凸面には斜方向の叩き目痕が残る。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、暗灰色を呈する。

蓮珠文軒平瓦（図33-39）　一ノ井遺跡（UZ2）出土。内区には大粒の珠文が11個並ぶ。内区と外区を分かつ圏線が存在するが、脇区には界線はない。平瓦部凹面にハナレ砂が認められ、胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、淡黄灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図33-40）　伏見城跡（FD16）出土。桐葉文を中心文に、左右に三転する唐草の文様である。顎部はナデ調整。胎土は砂粒少量と雲母を含み、焼成は甘く、暗灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図33-41）　平安京左京五条二坊六町（HL94）出土。三弁の花文状の中心文をもち、そこから左右に二転する唐草の文様であるが、二転目の唐草は半分脇区に隠れてしまっている。元々幅の大きい笵を幅の狭い瓦当に再利用するために修正を加えた可能性がある。顎部の瓦当部と平瓦部の接合部はナデ調整を施す。瓦全体に摩滅が激しい。胎土は砂粒を含み、焼成は甘く、暗灰色を呈する。

均整唐草文軒平瓦（図34-42）　平安宮陰陽寮跡（HQ50）出土。先が三つに割れた棒が三方に広がる花文状の中心文から左右に二転する唐草の文様と推定できる。全体に成形はナデ調整。胎土は砂粒含む。焼成良好、暗灰色を呈する。

緑釉均整唐草文軒平瓦（図34-43）　尊勝寺跡（KS12）出土。（図26-28）の軒丸瓦と対をなす軒平瓦である。当瓦も軒丸瓦と同様にモデル（『平安京古瓦図録』317）がある。弦幅は同尺であるが、弧深はモデルに比べ浅く、両端の内区の幅が狭くなっいる。軒丸瓦同様、緑釉の施釉は厚いが、発色が悪く一部白く変色している。胎土は砂粒を多量に含み、焼成は良好。浅黄橙色を呈し、緑釉は暗緑灰色を呈する。

「右坊」銘平瓦（図34-44）　平安中務省（元年度HQ76）出土。平瓦凹面に「右坊」銘が陽出している。その隣に右坊とは逆さまで、倍の大きさでさらに逆字で「右」字が陽出されている。「右」の下に更に続く文字が確認できるが破損しており不明である。この文字は

布がまだ平瓦に付着している時点で印彫されたものであろう。

鬼瓦（図版39-45）　尊勝寺跡（KS12）出土。鬼瓦の中央の鼻の部分の破片。灰釉が付着し、丸みをもった鼻で、歯が短いのが特徴的である。裏面は鼻の部分の粘土をかきとっている。胎土は砂粒を多く含み、焼成良好。灰色を呈し、灰釉はオリーブ灰色を呈する。

3　金属器類

平安京左京三条四坊（ＨＬ10）

調査地は中京区堺町通御池下る丸木材木町670-1で、平安京左京三条四坊六町に推定されている。1990年4月9日～18日に建物建築工事に伴う立会調査を行った。現地表下2.46mで灰茶色泥砂層（炭混）を確認した。この土層より、平安時代後期の多量の土師皿・鉢、須恵器片などと共に、金属製品が出土した。

出土した金属製品（図版39-46）は全長171mm、残存径3～5mmで、下端部より13mmの所で鍔状（径9mm）に膨らみ、更に直線状に伸びている。両端は尖っていたようだ。青サビが発生しているが、２ケ所に金が僅かに残っており、全体に鍍金されていたと思われる。

山科本願寺跡（ＲＴ３２）

調査地は山科区西野左義長町26である。1990年12月17日に建物建築工事に伴う立会調査を行った。現地表下0.3～0.4mにて焼土･炭を多量に含む土壙を６基検出した。検出した土壙の規模は幅0.6m～1.8m、深さ0.3～0.5mで、埋土より室町時代後期の土師器皿、白磁皿、青磁鉢、陶器摺鉢・壺、天目、染付、瓦、金属製品、スサ入りの焼けた壁土、多量の炭、焼土などが出土した。山科本願寺焼失時に関連する遺構ではないかと思われる。

図版40-47は、幅4mm、厚さ1.5mmの銅線を「８」字状に屈曲させて、製品としたものである。全長14.5mm、「８」の径7.5～8.5mmを測る。同様のものが1989年に、今回の調査地よりも約150m北で出土しており[註]、今回の物は青サビが多く鍍金はみられなかった。

図版40-48は長さ28.0mm、最大幅9.0mm、厚さ4.0mmで、中央部に1.0mm間隔で直径5.5mmの２つの穴のある舟形の銅製金具である。(49) は (48) よりも若干小ぶりの製品である。こちらは青サビがひどく、薄くなっているようだ。いずれも用途は不明である。

註　「山科本願寺跡」(『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局)　1989年

調査一覧表

I　平成元年度　1～3月期

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
朝堂院	中・聚楽廻東町15-1他	立会	2/21	瓦溜を数カ所で確認。本文64ページ。	2-77
〃	上・千本通丸太町東入主税町1150	立会	3/12	検出できず。	2-81
〃	上・丸太町通千本東入中務町491-71	試掘	3/26	GL－0.6mにて瓦溜り、東西溝。	2-86
豊楽院	中・聚楽廻西町102	立会	2/2	撹乱のみ。	2-74
内裏	上・出水通智恵光院西入田村備前町236-10	試掘	1/31	GL－1.2mにて平安中期の土壙2。本文28ページ。	2-73
西雅院	上・日暮通丸太町西入西院町749-19	立会	1/26	盛土のみ。	2-71
〃	上・横木町通智恵光院西入西院町	立会	3/15	検出できず。	2-83
中務省	上・千本通二条下る東入主税町1062-1	立会	2/20	調査地中央部で平安の瓦多量に含む土壙。本文64・65ページ。	2-76
兵庫寮	上・一条通七本松西入東町34-1	立会	3/3	検出できず。	2-80
主殿寮	上・裏門通一条下る今新在家町205-11	立会	2/28	検出できず。	2-79
大宿直	上・智恵光院通上長者町上る山里町238	試掘	2/21	GL－0.77m以下、江戸の土層。	2-78
梨本	上・下長者町通智恵光院東入西辰巳町106-5	立会	1/17	GL－0.43mにて江戸の包含層。	2-70
大蔵	上・中立会売通浄福寺東入新桝屋町43-2	立会	2/21	GL－0.8mにて平安の落込み。	2-75
〃	上・中立売通千本西入四番町126他	試掘	3/22	GL－0.4mにて江戸の包含層。	2-85
弾正台	中・西ノ京内畑町30-12	立会	3/20	盛土のみ。	2-84
正親司	上・仁和寺街道御前東入鳳瑞町219	立会	1/30	GL－0.36mにて平安の南北溝。	2-72
左近衛府	上・松屋町通上長者町下る須浜東町450-18	立会	3/8	検出できず。	2-82

平安京右京（HR）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
二条三坊　四町	中・西ノ京南壺井町5	立会	2/15	GL－0.5mにて中世の包含層。	3-128
二条三坊　十町	中・西ノ京壺ノ内町20	立会	2/22	GL－0.34mにて江戸の池状堆積。	3-130
二条四坊　一町	右・花園中御門町1-7他	立会	2/5	検出できず。	3-123
三条二坊　八町	中・西ノ京原町99	試掘	2/14	GL－0.8～1.1mにて平安前期～中期の池状堆積。時期不明の柱穴。	4-127
三条四坊十一町	右・山ノ内五反田町16-2他	立会	2/28	検出できず。	3-133
四条一坊　四町	中・壬生御所ノ内町39	立会	3/12	検出できず。	8-137
四条一坊十六町	中・壬生中川町地先	立会	1/11	検出できず。	8-117
四条二坊　三町	中・壬生大竹町43-3	立会	2/7	GL－0.52mにて平安前期～中期の土壙。	8-125
四条二坊　四町	中・壬生仙念町地先	立会	1/11	撹乱のみ。	8-116
四条二坊十三町	右・西院髙町38-1他	試掘	2/26	GL－0.66mにて平安の包含層。－0.8mにて平安前期の溝。	8-131
四条三坊　四町	右・西院髙町37-1他	立会	2/26	GL－1.1mにて平安の土壙。－1.6m以下、流れ堆積。	7-132
四条四坊　五町	右・西院四条畑町50-2	試掘	1/17	GL－1.6mにて室町の土壙1。	7-118
五条二坊十一町	右・西院平町8	試掘	3/12	GL－0.3mにて平安前期の溝状遺	8-136

				構2。柱穴4。発掘調査に切り換え。	
五条二坊十三町	右・西院矢掛町32	立会	3/9	GL−0.66mにて時期不明の包含層。	8-135
五条二坊十六町	右・西院三蔵町17	試掘	1/8	GL−0.87mにて南北溝6、小穴3、土壙、柱穴。−1.1mにて平安の包含層。−1.5mにて流れ堆積。発掘調査に切り換え。	8-115
五条三坊　十町	右・西院久田町19	試掘	3/16	GL−0.34m以下、室町以降の流れ堆積。	7-138
六条二坊　五町	下・西七条御前田町27-2	立会	2/13	検出できず。	8-126
六条三坊　五町	右・西院西溝崎町45-2	立会	1/22	GL−0.6mにて平安の流れ堆積。	7-120
〃	右・西院西溝崎町45-1	立会	1/26	検出できず。	7-121
七条一坊　六町	下・朱雀宝蔵町31	立会	3/29	GL−0.6mにて平安の包含層。−0.8mにて平安の南北溝。	8-140
七条一坊十五町	下・西七条西八反田町129他	立会	2/5	GL−1.06mにて平安の包含層。−1.26m以下、流れ堆積。	8-122
七条三坊　三町	下・西七条名倉町29	立会	2/6	GL−1.11m以下、鎌倉の湿地堆積。	7-124
八条一坊　六町	下・梅小路頭町	立会	1/17	盛土のみ。	12-119
八条三坊　三町	下・七条御所ノ内西町38-1.5	立会	3/6	GL−0.2mにて時期不明の包含層。	11-134
八条三坊　八町	下・七条御所ノ内西町45-13	立会	3/30	GL−1.35mにて東西方向の落込み。	11-141
八条四坊十四町	右・西京極芝の下町11-6	立会	2/19	盛土のみ。	11-129
九条二坊十二町	南・吉祥院清水町32-2他	立会	3/16	GL−0.86mにて時期不明の包含層。	12-139
九条三坊十二町	南・吉祥院新田壱ノ段町5	立会	3/28	GL−1.22mにて江戸の包含層。	11-110

平安京左京（HL）

遺　跡　名	所　在　地	試・立	調査日	概　要	図版番号
北辺二坊　八町	上・油小路通一条下る油橋詰町79	立会	3/26	GL−0.7mにて江戸の包含層。	5-205
〃	上・中立売通小川東入3丁町地先	立会	3/28	検出できず。	5-211
北辺三坊　一町	上・中立売通小川東入三丁目453-1他	立会	2/27	GL−0.65m以下、時期不明の包含層。	6-188
北辺三坊　五町	上・室町通武者小路下る小島町549他	立会	3/19	江戸以降の堆積のみ。	6-200
一条三坊　十町	上・室町通出水上る近衛町45	立会	3/5	検出できず。	6-190
二条二坊　一町	上・大宮通椹木町下る一丁目587-3	立会	2/14	GL−1.23mにて平安の土壙。	5-182
二条二坊十四町	中・夷川通油小路東入夷川町624他	立会	1/22	GL−0.83mにて桃山の土壙。	5-169
〃	中・夷川通油小路東入夷川町624他	立会	3/29	GL−1.34mにて鎌倉の包含層。	5-212
二条三坊　十町	中・丸太町通烏丸西入常真横町184-3	立会	3/28	GL−1.75mにて時期不明の包含層。	6-210
二条三坊十三町	中・二条通車屋町東入仁王門町20	立会	1/22	GL−1.55m以下、江戸の池状堆積。−2.81mにて推定二条大路路面。	6-168
二条四坊　六町	中・柳馬場通夷川上る五丁目236	立会	2/13	検出できず。	6-180
三条一坊　三町	中・西ノ京南聖町7-17、7-18	立会	2/20	GL−0.38mにて平安の包含層。	5-184
三条一坊　七町	中・西ノ京北聖町地先	立会	3/8	撹乱のみ。	5-194
三条二坊十一町	中・堀川通御池下る三坊堀川町57-1	立会	3/26	検出できず。	5-206
三条三坊十三町	中・烏丸通三条上る場之町604	試掘	3/14	GL−2.18mにて室町の整地層。−2.48mにて平安の整地層。	6-197
三条四坊　三町	中・間之町通御池下る錦猪町528、530	立会	1/6	GL−1.37mにて室町の包含層。−1.54mにて鎌倉の土壙。	6-161
三条四坊　五町	中・堺町通錦小路下る大阪材木町699	立会	3/23	GL−1.35m以下、室町・桃山・江	6-204

				戸の包含層。	
三条四坊十四町	中・御幸町通御池下る大文字町348	立会	3/5	検出できず。	6-191
四条一坊　十町	中・綾薬師通大宮西入因幡町112-4	試掘	1/10	GL−1.1m以下江戸以降の湿地状堆積。	9-163
四条一坊十三町	中・四条通大宮西入錦大宮町115-3	立会	2/2	GL−1.08mにて時期不明の東西溝、土壙。	9-176
四条二坊　一町	中・三条通新町西入釜座町22,24	試掘	3/23	GL−0.5~1.6m平安~江戸の包含層。−1.6mにて平安後期の溝。−1.74mにて平安中期~後期の包含層。	9-203
四条二坊　七町	中・綾薬師通堀川西入金屋町771	立会	1/22	GL−0.67m以下、室町~江戸の包含層。	9-167
四条二坊　十町	中・油小路通六角下る六角油小路町318	立会	2/7	GL−1.4m以下、桃山・江戸の包含層。	9-178
四条三坊　四町	中・新町通四条上る小結棚町438	立会	1/12	GL−1.0mにて江戸の包含層。	10-165
四条三坊十一町	中・錦小路通烏丸西入占出山町315-3	立会	2/19	GL−2.06mにて室町の土壙。	10-183
四条三坊十五町	中・東洞院通六角下る御射山町284他	立会	3/6	GL−2.1m以下、流れ堆積。	10-193
四条四坊　九町	中・富小路通六角上る朝倉町545	立会	3/26	GL−2.75mにて鎌倉の土壙。	10-207
五条二坊　十町	下・東堀川通綾小路下る綾堀川町293-1	試掘	3/5	GL−1.0mにて鎌倉~室町の小穴・土壙。−1.38mにて室町の南北溝、推定東堀川小路東側溝。	9-189
五条三坊　十町	下・仏光寺通室町東入釘隠町236	立会	1/18	GL−0.6mにて池状堆積。−1.95mにて平安中期の包含層。	10-166
〃	下・室町通仏光寺上る白楽天町515	立会	2/13	GL−1.0m以下包含層、桃山の土壙。	10-181
五条三坊十三町	下・烏丸通松原下る因幡堂町713	立会	3/26	GL−1.65mにて時期不明の包含層。	10-208
五条三坊十四町	下・仏光寺通烏丸東入上柳町335他	立会	1/25	GL−0.6m以下、池状堆積。	10-171
五条三坊十五町	下・綾小路通烏丸東入竹屋之町251-2	立会	2/22	GL−1.63mにて室町の土壙。	10-186
五条四坊　六町	下・高辻通柳馬場西入泉正寺町466	立会	1/11	GL−1.78mにて鎌倉の包含層。−1.98mにて平安末期の土壙1。本文60ページ。	10-164
五条四坊　十町	下・綾小路通柳馬場東入塩屋町60-2	立会	3/5	GL−1.48mにて室町の包含層。	10-192
五条四坊十二町	下・麩屋町通高辻下る麩屋町202	立会	1/9	GL−1.7mにて室町の包含層。	10-162
五条四坊十五町	下・寺町通綾小路下る中之町572	立会	3/12	GL-1.3mにて時期不明の包含層。	10-195
六条一坊　三町	下・中堂寺坊城町3,6	試掘	2/5	GL−0.43mにて平安後期の東西溝、室町の落込み。	9-177
六条一坊十四町	下・大宮通松原下る下五条町453-1他	立会	3/14	GL−0.9mにて室町の包含層。	9-198
六条三坊　十町	下・諏訪町通五条上る高砂町374	立会	2/9	GL−0.43mにて鎌倉・室町の土壙。	10-179
〃	下・万寿寺通烏丸西入御供石町369	立会	2/20	GL−0.58にて時期不明の包含層。−1.38m以下、室町の池状堆積。	10-185
〃	下・室町通五条上る阪東屋町273	立会	3/19	検出できず。	10-201
六条四坊十四町	下・御幸町通五条上る安土町613	試掘	1/25	GL−1.3mにて江戸の井戸2。	10-173
七条一坊　三町	下・朱雀正会町46	立会	3/20	検出できず。	9-202
七条一坊十五町	下・大宮通正面上る大宮町579-1他	立会	1/25	GL−0.58mにて江戸の包含層。−0.75mにて時期不明の土壙。	9-172
七条二坊　一町	下・猪熊通五条下る柿本町606	立会	1/24	GL−0.45mにて平安中期~鎌倉の土壙。	9-170
七条三坊十三町	下・橘町地先	立会	1/30	GL−0.45m以下、時期不明の路面。	10-175
八条三坊十五町	下・東洞院通下る東塩小路町717-1・5	立会	3/12	巡回時、工事終了。	12-196

八条四坊十三町	下・屋形町2-1	立会	1/26	盛土のみ。	12-174
八条四坊十五町	下・川端町10-2.3.4	立会	2/26	盛土のみ。	12-187
九条二坊十二町	南・西九条藏王町14-1他	試掘	3/19	GL−1.6mにて江戸以降の湿地堆積。	12-199

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
常盤東ノ町遺跡	右・常盤出口町14	立会	1/23	検出できず。	-11
仁和寺院家跡	右・常盤出口町18-3他	試掘	2/7	GL−0.5〜0.6mにて平安後期〜鎌倉の土壙、柱穴、溝。	-12

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
植物園北遺跡	北・上賀茂土門町61-2	立会	2/5	盛土のみ。	-27
〃	北・上賀茂岩ヶ垣内町97-1	立会	3/7	検出できず。	-28
〃	左・下鴨南芝町10	立会	3/30	GL−0.23mにて時期不明の土壙。	13-29

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
白河街区跡	左・聖護院東町	立会	2/5	GL−0.4m以下、鎌倉の土壙。	13-24
〃	左・吉田下大路町13	立会	2/21	GL−0.2mにて室町〜桃山の溝状遺構。	13-26
白河北殿跡	左・東竹屋町54-2	立会	3/16	GL−0.78m以下、平安末期〜鎌倉、鎌倉、室町、時期不明の包含層各1。	13-4
〃	左・聖護院蓮華藏町41	立会	2/19	GL−1.15m以下、室町・時期不明の包含層、平安末期の整地層。	13-25

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
元屋敷廃寺跡	山・大塚元屋敷町大岩	立会	1/22	GL−0.3mにて時期不明の包含層。	-45.
中臣遺跡	山・勧修寺東栗栖野町42　勧修寺小学校	立会	1/17	GL−0.9mにて鎌倉〜室町の包含層。	13-43
〃	山・勧修寺東栗栖野町45-4他	立会	1/22	検出できず。	13-44
〃	山・勧修寺西金ヶ崎17,38	試掘	1/30	検出できず。	13-47
〃	山・栗栖野華ノ木町22-4	立会	3/13	検出できず。	13-50
〃	山・勧修寺西栗栖野町58	立会	3/14	検出できず。	13-51
六波羅政庁跡	東・大和大路2丁目	試掘	1/24	GL−1.0mにて平安末〜鎌倉前期の土壙、柱穴、南北溝、石敷遺構。発掘調査に切り換え。	-46
〃	東・鞘堂町110-5	立会	3/3	検出できず。	-48

六波羅政庁跡	東・轆轤町110-16	立会	3/3	攪乱のみ。	-49
〃	東・新六丁目206	立会	3/26	盛土のみ。	-52

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
おうせんどう廃寺跡	伏・深草鞍ケ谷町41,42-1	立会	2/2	検出できず。	-44
極楽寺跡隣接地	伏・深草石峰寺山町31-1	立会	3/13	検出できず。	-46
伏見状跡	伏・深草大亀谷敦賀町23,23-1	立会	1/31	検出できず。	15-43
〃	伏・丹後町148-4他	試掘	2/26	GL−0.9m以下、流れ堆積。	15-45

鳥羽地区（TB）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
下鳥羽遺跡	伏・北端町13	立会	2/5	GL−1.17m以下、流れ堆積。	14-31
深草遺跡	伏・深草綿森町21	試掘	1/17	流れ堆積及び湿地堆積。	-29
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町7-3	立会	1/12	GL−1.1mにて時期不明の池状堆積。	14-28
〃	伏・竹田樋ノ井町47-3他	試掘	2/2	GL−0.64mにて縄文〜室町の遺物を含む池状堆積。	14-30
〃	伏・竹田樋ノ井町53	試掘	2/16	GL−0.77mにて鎌倉〜室町の包含層。	14-33
〃	伏・竹田真幡木町39-4	試掘	2/19	GL−0.2m以下、時期不明の包含層。	14-34
〃	伏・中島秋ノ山町32	立会	2/21	検出できず。	14-35
〃	伏・中島堀端町地先	立会	3/8	検出できず。	14-36

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
毅塚古墳	西・山田業室町	立会	1/17	墳丘の後円部の調査。3地点で周濠の端部確認、これらの調査地点から形象埴輪、円筒埴輪、須恵器、鉄製品出土。本文39ページ。	-11
中久世遺跡	南・久世大藪町62　大藪小学校	試掘	1/22	時期不明の溝状落込み。	-12
〃	南・久世中久世町四丁目83	立会	3/23	検出できず。	-13

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
長岡京跡	伏・納所中河原町19,41	試掘	1/12	旧耕土以下、流れ堆積。	-26
〃	伏・久我本町11-36他	試掘	1/23	GL−1.39mにて平安〜室町の南北溝検出。	-27

長岡京跡	伏・羽束師菱川町	立会	2/6	GL−1.13mにて時期不明の東西溝。	-28
〃	南・久世大藪町544-4他	試掘	2/9	GL−0.5mにて弥生中期の土壙。−1.2m以下、弥生〜古墳の流れ堆積。発掘調査に切り換え。	-29
〃	伏・淀樋爪町234-1	立会	2/26	盛土のみ	-30
〃	伏・羽束師菱川町地先	立会	3/5	攪乱のみ	-31
〃	南・久世殿城町575	試掘	3/29	GL−2.2m以下、弥生〜長岡京期の遺物を含む湿地状堆積。	-32
〃	南・久世殿城町575	試掘	3/28	検出できず。	-33

II　平成2年度4〜12月期

平安宮（HQ）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
朝堂院	上・丸太町通土屋町西入中務町491-44他	試掘	6/11	GL−0.45mにて平安の瓦、凝灰石を含む北側に落ちる段。推定平安宮朝堂院の回廊。発掘調査に切り換え。本文4ページ。	2-25
〃	上・丸太町通千本東入中務町491-71	立会	7/4	巡回時、工事終了。	2-35
〃	中・聚楽廻東町23-5	立会	9/10	GL−0.3mにて時期不明の包含層。	2-61
〃	上・千本通下立売下る小山町889-16	立会	11/19	盛土のみ。	2-80
朝堂院　子安	中・聚楽廻中町27-18	立会	4/16	盛土のみ。	2-7
〃	中・聚楽廻中町27-18	立会	4/16	盛土のみ。	2-8
豊楽院	中・西ノ京聚楽廻南町6-34	立会	4/4	盛土のみ。	2-1
〃	中・聚楽廻中町44-6,7	立会	6/12	検出できず。	2-26
〃	中・聚楽廻西町79	立会	6/25	盛土のみ。	2-33
〃	中・聚楽廻西町182-10	立会	7/11	GL−1.35m以下、江戸の湿地堆積。	2-38
〃	中・聚楽廻西町182-2,11	試掘	7/24	GL−0.5mにて江戸の池状堆積。	2-42
〃	中・聚楽廻西町142-5	立会	8/27	検出できず。	2-52
〃	中・聚楽廻西町188-63	立会	9/20・25	検出できず。	2-62
太政官	上・千本通二条下る東入主税町1039	立会	6/1	GL−0.35〜0.7mにて時期不明の南北方向の溝・土壙。	2-22
〃	上・千本通二条下る東入主税町826-28	立会	8/10	検出できず。	2-48
〃	上・浄福寺通丸太町下る主税町1044	試掘	10/5	GL−0.7m以下、江戸の落込み。	2-63
内裏	上・下長者町通千本東入二本松町9	立会	7/30	掘削せず。	2-43
〃	上・浄福寺通下立売上る田中町472	立会	9/5	検出できず。	2-56
〃	上・下立売通千本東入下る中務町486-62,78	立会	9/7	盛土のみ。	2-57
〃	上・出水通智恵光院西入田村備前町240-18	立会	10/22	GL−0.53m以下、時期不明の包含層。	2-69
〃	上・出水通土屋町東入東神明町282	立会	11/15	盛土のみ。	2-78
華芳坊	上・浄福寺通出水上る白銀町261	立会	5/28	盛土のみ。	2-21
真言院	中・聚楽廻西町64	立会	8/13	盛土のみ。	2-49
〃	中・聚楽廻西町166-13	立会		検出できず。	2/65
〃	中・聚楽廻西町163-10	立会	10/19	GL−0.2mにて江戸の土壙。	2-66
〃	中・聚楽廻西町163-14	立会	12/21	検出できず。	2-87

西雅院	上・浄福寺通下立売下る西入中務町487　出水小学校	試掘	6/4	GL−0.58mにて時期不明の包含層。−1.28mにて土取り穴。	2-23
〃	上・日暮通丸太町上る西入西院町746-61	立会	6/21	盛土のみ。	2-31
東雅院	上・日暮通下立売下る櫛笥町695	立会	6/4	検出できず。	2-24
〃	上・日暮通下立売下る櫛笥町707	立会	6/18	検出できず。	2-27
〃	上・下立売通日暮東入浮田町603	立会	7/31	盛土のみ。	2-46
西院	上・千本通二条下る東入主税町937	立会	4/11	GL−0.48mにて平安の包含層。	2-6
南院	上・下長者町通千本東入二本松町14-2	立会	4/9	盛土のみ。	2-4
造酒司	中・楽楽廻松下町11	立会	7/20	巡回時、工事終了。	2-41
内舎人	上・浄福寺通丸太町上る中務町490-48	立会	5/15	GL−0.76mにて時期不明の土壙。	2-14
〃	上・下立売通千本東入下る中務町490-37	試掘	12/7	GL−0.8mにて平安前期の包含層、落込み。発掘調査に切り換え。本文65ページ。	2-85
中務省	上・下立売通千本東入中務町491-28	試掘	4/4	GL−0.1mにて平安の包含層、平瓦と丸瓦を組み合わせた暗渠遺構。発掘調査に切り換え。	2-2
〃	上・土屋町通丸太町下る東入主税町1072	立会	10/22	盛土のみ。	2-68
図書寮	上・下長者町通七本松西入瑞瑞町237-5	立会	9/10	検出できず。	2-60
典楽寮	中・西ノ京車坂町2	立会	11/13	盛土のみ。	2-76
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町11-13	試掘	8/27	GL−0.5m以下、湿地堆積。	2-51
〃	中・西ノ京左馬寮町10-15	立会	9/7	盛土のみ。	2-58
〃	中・西ノ京左馬寮町10-15	立会	9/7	盛土のみ。	2-59
〃	中・西ノ京左馬寮町地先	立会	11/1	検出できず・	2-72
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町18-17	立会	7/17	検出できず。	2-40
〃	上・西ノ京右馬寮町8-13	立会	7/30	巡回時、工事終了。	2-44
〃	中・西ノ京右馬寮町8-12	立会	8/27	盛土のみ。	2-53
内蔵寮	上・千本通上長者町下る革堂前之町106-2	試掘	4/11	GL−1.3mにて平安の包含層。−1.5mにて平安の南西方向の溝状遺構。	2-5
〃	上・上長者町通千本東入愛染寺町483-1	試掘	5/9,6/12	GL−1.0mにて平安の整地層。	2-12
〃	上・千本通上長者町下る革堂前之町102	立会	6/20	巡回時、工事終了。	2-29
縫殿寮	上・浄福寺通上長者町下る長谷町195	立会	11/19	盛土のみ。	2-79
〃	上・土屋町通上長者町下る山王町503-6	試掘	12/3	GL−0.33mにて近世初頭の整地層。GL−0.6mにて江戸の路面。	2-83
陰陽寮	上・丸太町通智恵光院西入中務町931他	試・立	8/22,9/22	GL−0.5mにて平安の瓦多量に含む南北溝。推定陰陽寮の東限の溝。本文63・64・65ページ。	2-50
主殿寮	上・智恵光院通一条下る白水丸町462-17,18	試掘	11/14	GL−1.2mにて江戸の整地層。−2.15mにて南北方向の堀状堆積。本文64ページ。	2-77
大炊寮	上・松屋町通丸太町下る蔵屋町535-76	立会	5/14	GL−0.6mにて時期不明の土壙。	2-13
茶園	上・大宮通中立売上る糸屋町202-17	立会	7/6	盛土のみ。	2-36
〃	上・智恵光院通一条下る東入新白水丸町462	立会	12/1	検出できず。	2-81
大宿直	上・上長者町通智恵光院東入州浜町571-2他	立会	6/27	GL−1.6mにて時期不明の土壙。	2-34
内教坊	上・中立売通松屋町東入新白水丸町460-1	立会	4/6,7/4	GL−0.61mにて近世の土壙。	2-3
梨本	上・下長者町通日暮西入西辰巳町116	立会	6/25	検出できず。	2-32
大蔵	上・一条通七本松三軒町68	立会	10/16	検出できず。	2-64
〃	上・千本通一条下る西入西中筋町19	立会	4/24	検出できず。	2-9
〃	上・千本通一条下る西入西中筋町	立会	5/8	検出できず。	2-11

大　　蔵	上・浄福寺通一条下る東西俵町653-3	立会	10/30	盛土のみ。	2-71
〃	上・浄福寺通一条下る東西俵屋町668-4,5	立会	6/20	盛土のみ。	2-30
〃	上・仁和寺街道六軒西入四番町114,117-5	試掘	7/9	検出できず。	2-37
〃	上・仁和寺街道六軒西入四番町117-7	試掘	5/23	GL−0.3mにて平安の小穴。	2-20
〃	上・中立売通六軒下る四番町106-4	立会	12/6	盛土のみ。	2-84
車　分　蔵	上・浄福寺通中立売下る要丸町180	立会	10/23	検出できず。	2-70
内　匠　寮	中・西ノ京左馬寮町27	立会	5/22	検出できず。	2-18
宮　内　省	上・竹屋町通千本東入主税町1232-2	立会	5/22	検出できず。	2-19
中　務　厨	中・西ノ京内畑町18	立会	5/15	盛土のみ。	2-15
大　歌　所	上・六軒町通仁和寺街道下る四番町151-9	立会	5/8	検出できず。	2-10
〃	上・七本松通仁和寺街道下る二番町211-12	立会	8/8	盛土のみ。	2-47
大　舎　人　寮	中・二条城町541	試掘	7/31	GL−0.45〜0.9mまで二条城造営に伴う整地層。	2-45
大　膳　職	上・松屋町通丸太町上る三町目659-2	立会	11/1	盛土のみ。	2-73
賀　の　松　原	上・下立売通七本松東入長門町435	立会	10/20	盛土のみ。	2-67
右　近　衛　府	上・御前通下長者町上る西上之町251	試掘	5/16	GL−0.2mにて平安中期の南北溝。推定西大宮大路東側溝。発掘調査に切り換え。本文64・65ページ。	2-16
〃	上・御前通下立売上る三丁目西上之町255	試掘	7/13	GL−0.28mにて平安の南北溝2、推定西大宮大路東側溝。発掘調査に切り換え。	2-39
〃	上・下長者町通七本松西入瑞瑞町231-4	立会	8/31	江戸以降の堆積のみ。	2-54
〃	上・下長者町通七本松西入瑞瑞町249-18	立会	11/9	検出できず。	2-74
〃	上・下長者町通七本松西入瑞瑞町249-20	立会	11/9	検出できず。	2-75
〃	上・下立売通御前東入西東町346-12	立会	5/18	巡回時、工事終了。	2-17
応　天　門	中・西ノ京小堀町1-17	立会	9/3	検出できず。	2-55
職　御　曹　司	上・智恵光院通出水上る天秤丸町194	試掘	12/17	GL−1.0m〜1.3mまで江戸末期以降の堆積。	2-86
兵　庫　寮	上・中立売通七本松西入三軒町69-11	立会	12/1	検出できず。	2-82

平安京右京（HR）

遺　跡　名	所　在　地	試・立	調査日	概　要	図版番号
北　辺　一　坊	上・一条通御前東入西町21	試掘	8/30	GL−0.2〜0.35mにて東西方向の溝状遺構・土壙・溝。	4-47
〃	上・七本松通一条下る三軒町48,48-10・12	立会	9/27	盛土のみ。	4-57
北辺二坊　一町	上・御前通一条下る東竪町131-1	立会	12/14	検出できず。	4-84
北辺二坊　二町	上・御前通一条下る下竪町152-1	試掘	10/19	GL−0.7mにて桃山〜江戸の土壙。	4-67
北辺二坊　八町	北・大将軍西町1	立会	5/23	盛土のみ。	4/12
北辺三坊　三町	北・大将軍南一条町33	立会	10/23	検出できず。	3-70
一条二坊　二町	上・御前通西裏上ノ下立売上る北町553	立会	8/24・27	GL−0.28mにて平安の包含層。−0.4mにて平安中期の土壙。	4-43
〃	上・御前通西裏上ノ下立売上る北町553	立会	11/5	検出できず。	4-76
一条二坊十二町	中・西ノ京円町22-8,23,23-2	立会	9/26	GL−0.25mにて東西方向の溝状遺構。	4-56
一条二坊十三町	中・西ノ京円町7	立会	11/5,12/1	検出できず。	4-77
一条二坊十四町	中・西ノ京大炊御門町14-1,15	立会	8/17	盛土のみ。	4-40

一条三坊　四町	中・西ノ京南大炊御門町33	立会	12/1	GL−0.9mにて時期不明の包含層。	3-80
一条三坊　七町	中・西ノ京御興岡町25-16	立会	10/19	GL−0.4mにて平安の土壙。	3-68
一条三坊十一町	中・西ノ京馬代町4-1	立会	12/13	GL−0.3mにて平安前期〜中期、平安〜鎌倉の土壙。	3-83
二条二坊　一町	中・西ノ京両町 2	立会	4/10	検出できず。	4-4
〃	中・西ノ京上平町地先	立会	1/7・9	検出できず。	4-29
〃	中・西ノ京両町地先	立会	10/15	検出できず。	4-63
二条二坊　三町	中・西ノ京冷泉町36	立会	12/14	GL−0.46m以下、室町・時期不明の包含層。−0.7mにて時期不明の路面。	4-85
二条二坊　十町	中・西ノ京上合町32-1,2	立会	4/ 6	GL−0.97m以下、平安中期、平安後期、鎌倉の包含層。	4-3
〃	中・西ノ京中御門東町135	試掘	9/17	GL−0.7〜0.8m以下、江戸の流れ堆積。	4-52
二条三坊　一町	中・西ノ京南大炊御門町1-1	試掘	5/14	GL−0.86mにて平安〜江戸の流れ堆積。	3-10
二条三坊十四町	中・西ノ京藤ノ木町 5	立会	8/ 3	GL−0.18mにて時期不明の包含層。	3-32
二条四坊　六町	右・太秦安井馬塚町11-2,7	立会	10/25・26	GL−0.3m以下、時期不明の包含層。	3-72
三条一坊　二町	中・西ノ京椿尾町　二条駅	立会	10/3,5	盛土のみ。	4-53
三条二坊　四町	中・西ノ京樋口町123	立会	8/23・27	GL−0.5−0.7mにて時期不明の土壙。	4-42
三条三坊　九町	中・西ノ京徳大寺町地先	立会	10/18・20	GL−1.14mにて時期不明の包含層。	3-66
四条二坊十一町	右・西院東淳和院町18	立会	4/10	GL−0.42mにて時期不明の土壙。	8-5
四条三坊　八町	右・西院上花田町5-4他	立会	6/11	GL−1.64mにて時期不明の土壙。	7-16
〃	右・西院上花田町2-1他	立会	12/26	GL−0.64mにて室町の包含層。	7-86
四条三坊　十町	右・西院春栄町24-12	立会	7/6	盛土のみ。	7-24
〃	右・西院春栄町24他	立会	9/7・10	盛土のみ。	7-50
四条四坊十五町	右・山ノ内苗町20	立会	7/18	盛土のみ。	7-25
五条二坊　十町	右・西院三歳町32	試掘	4/20	GL−0.3mにて平安前期の柱穴多数。発掘調査に切り換え。	8-8
五条二坊十一町	右・西院平町 7	試掘	6/29	GL−0.48〜0.78mにて柱穴、溝状遺構。	8-22
〃	右・西院平町18	立会	10/31	GL−0.4mにて室町の土壙。	8-74
五条二坊十三町	右・西院西平町2-10	立会	10/9	検出できず。	8-59
五条二坊十五町	右・西院北矢掛町42	試掘	10/17	GL−0.75mにて平安前期〜中期の南北溝、推定道祖大路東側溝。	8-64
五条三坊　三町	右・西院矢掛町18-1,2	立会	8/ 6	検出できず。	7-37
五条三坊　五町	右・西院太田町26-1	試掘	11/26	GL−1.0mにて平安前期〜中期の柱穴、溝、土壙、池状遺構。	7-79
五条三坊十四町	右・西院日照町90	立会	5/24	GL−1.27mにて平安の包含層。	7-13
〃	右・西院日照町106	立会	10/12〜18	GL−1.4mにて弥生の包含層。	7-61
五条四坊　四町	右・西院清水町 2	試掘	8/10	GL−0.9m　以下、池沼状堆積。	7-39
五条四坊十一町	右・西院安塚町58	立会	9/20	GL−0.64mにて室町の包含層。	7-53
五条四坊十四町	右・西院東貝川町92-3	立会	11/21	GL−0.8mにて時期不明の包含層。	7-78
五条四坊十六町	右・西院東貝川町地先	立会	8/27	GL−1.09m以下、湿地堆積。	7-44
六条二坊　五町	下・西七条御前田町6-4	立会	7/19	検出できず。	8-27
六条二坊　九町	右・西院高田町9-2	立会	8/21	検出できず。	8-41

六条二坊　十町	中・壬生東高田町2	試掘	5/21	検出できず。	8-11
六条三坊　五町	右・西院溝崎町4-1	試・立	10/12・19	GL－0.25～0.6mにて時期不明の柱穴、土壙。	7-60
六条三坊　七町	右・西院西寿町2-1,3,4	立会	10/17	GL－0.25mにて時期不明の土壙。	7-65
六条三坊　八町	右・西院迫分町25-2	試掘	8/6	GL－0.45mにて平安の柱穴、土壙、溝。発掘調査に切り換え。	7-33
六条三坊　九町	右・西京極北庄境町36	立会	7/19	検出できず。	7-28
六条三坊十三町	右・西京極豆田町11他	立会	5/9	GL－0.77mにて時期不明の包含層。	7-9
六条三坊十四町	右・西院六反田町29	立会	6/20	GL－0.7mにて弥生の落込み。	7-20
六条三坊十五町	右・西院久保田町15	試掘	4/6	GL－1.1m以下、時期不明の湿地堆積。	7-2
六条四坊　九町	右・西院月双町36他	試掘	6/13	GL－1.0－1.5mにて平安の土壙、東西溝、推定五条大路南側溝。古墳後期の竪穴住居址。発掘調査に切り換え。	7-18
六条四坊十三町	右・西京極大丸町68-1,3	立会	8/2	検出できず。	7-30
六条四坊十五町	右・西京極葛野町38	立会	4/16	GL－0.88mにて時期不明の包含層。	7-7
七条一坊　五町	下・朱雀宝蔵町地先	立会	6/18	検出できず。	8-19
七条一坊　十町	下・西七条東八反田町23	立会	8/29	検出できず。	8-46
七条一坊十六町	下・西七条西八反田町77	立会	7/9	GL－0.92m以下、時期不明の流れ堆積。GL－0.77m以下、時期不明の流れ堆積。	8-23
七条二坊　七町	下・西七条西石ヶ坪町64	試・立	4/4・20,5/9	GL-1.0m以下、平安～近世の流れ堆積。	8-1
七条二坊　十町	下・西七条日輪田町5-1他	試掘	6/6	GL－0.5mにて平安前期～中期の包含層。－0.7mにて平安前期の柱穴、土壙。発掘調査に切り換え。	8-15
七条二坊十六町	下・西七条掛越町12	立会	6/1	検出できず。	8-14
七条三坊　六町	右・西京極南庄境町63-2他	立会	6/11	検出できず。	7-17
七条三坊　八町	右・西京極北境町71-1,2	試掘	10/15	GL－1.18mにて東西溝。－1.25m以下、平安前期～中期の池状堆積。	7-62
七条三坊十六町	右・西京極豆田町	試掘	7/19	GL－1.05m以下、流れ堆積。	7-26
七条四坊　七町	右・西京極東池田町49,59	立会	9/20	検出できず。	7-54
八条二坊　一町	下・西七条南中野町82	立会	8/9	GL－0.33mにて平安後期の土壙。	12-38
八条二坊　五町	下・梅小路西中町11	立会	9/4	GL－0.48m以下、平安前期の包含層。－0.73mにて平安前期の土壙。	12-48
八条二坊十二町	下・七条御所ノ内本町68-1	立会	8/2	検出できず。	12-31
八条四坊　三町	南・吉祥院西ノ庄向田町15	立会	8/6	検出できず。	11-34
八条四坊　五町	南・吉祥院向田西町13他	立会	6/25	GL－1.6m以下、流れ堆積。	11-21
八条四坊十三町	右・西京極橋詰町39	立会	8/6	GL－1.67m以下、流れ堆積。	11-36
〃	右・西京極橋詰町40	立会	10/29	検出できず。	11-73
八条四坊十四町	右・西京極芝ノ下町4-1	立会	11/1	検出できず。	11-75
九条一坊　七町	南・唐橋井園町46-2	立会	9/25	GL－0.64mにて時期不明の包含層。－0.82m以下、流れ堆積。	12-55
九条一坊十五町	南・唐橋門脇町4-1	試掘	8/29	GL－0.8mにて室町の東西溝。下層に平安中期の土壙、落込み。発掘調査に切り換え。	12-45
九条二坊十一町	南・唐橋西平垣町38-1	立会	8/6	GL－0.73m以下、湿地状堆積。	12-35

九条三坊　九町	南・吉祥院西ノ庄西中町13,14,21	試掘	9/12	GL－0.3～0.5m以下、流れ堆積。	11-51
九条四坊　一町	南・吉祥院宮ノ東町2	試掘	10/22	GL－0.45mにて平安の包含層。以下、流れ堆積。	11-69
九条四坊　五町	南・吉祥院中川原西町26,27	立会	4/16	GL－1.15m以下、流れ堆積。	11-6
〃	南・吉祥院中川原里西町35	立会	9/5	GL－0.33mにて時期不明の包含層。	11-49
九条四坊　八町	南・吉祥院中川原里北町3,4,5,7,8,	立会	10/24	GL－0.95mにて鎌倉の包含層。	11-71
九条四坊十六町	南・吉祥院大川原町16-1他	立会	12/10	GL－1.09m以下、流れ堆積。	11-82

平安京左京（HL）

遺　跡　名	所　在　地	試・立	調査日	概　要	図版番号
北辺三坊　四町	上・一条通室町西入東日野殿町395　上京中学校	立会	10/2	検出できず。	6-106
〃	上・一条通新町東入西日野殿町390他	試掘	11/15・27	GL－1.1mにて推定一条大路路面。－2.8mにて平安初期の土壙。発掘調査に切り換え。	6-120
北辺三坊　六町	上・烏丸通中立売西入東町481	立会	9/13	検出できず。	6-93
一条二坊　四町	上・椹木町通黒門東入中御門横町585	立会	12/10	GL－0.32m以下、包含層。－1.23mにて土壙。	5-135
一条二坊　六町	上・殿屋町通出水下る元福大明神306	立会	4/23	GL－1.85m以下、江戸の包含層。	5-20
一条二坊十三町	上・下立売通油小路東入西大路町137-3	立会	9/20	GL－1.36mにて室町の包含層。	5-98
一条二坊十五町	上・油小路通下長者町下る大黒屋町42	立会	4/27	GL－1.3m以下、包含層。	5-23
一条二坊十六町	上・上長者町通小川東入有春町182	立会	6/25	盛土のみ。	5-50
一条三坊　八町	上・新町通中立売通～下立売通他地内	立会	8/24	GL-1.4mにて平安前期の包含層。現府庁を取り囲む江戸の京都守護職の堀を確認。	6-83
一条三坊十三町	上・京都御苑3	立会	11/6	GL－0.8m以下、包含層。－1.0mにて時期不明の土壙1。	6-116
二条二坊　二町	上・丸太町通猪熊下る器屋町地先	立会	7/10～26	GL－0.35～0.95mにて路面。江戸の石垣。	5-64
二条二坊　八町	上・丸太町通堀川西入西丸太町173,175	立会	10/9	GL－0.66mにて鎌倉・時期不明の土壙。	5-110
二条二坊十四町	中・油小路通竹屋町下る橋本町474,474-1	試掘	9/26	GL－0.9m以下、平安・鎌倉・室町の包含層。油小路東側溝推定位置で南北方向の溝状遺構。	5-102
二条三坊　二町	中・新町通丸太町下る大炊町197	立会	5/7	GL－1.6mにて時期不明の整地層。	6-25
二条三坊　五町	中・室町通二条上る冷泉町58-10,11	立会	7/9	GL－2.25mにて江戸の包含層。	6-60
〃	中・新町通二条上る二条新町715,717	立会	11/21	GL-1.06～1.2mにて推定町尻小路路面、東側溝。－1.4mにて鎌倉～室町の土壙。本文55ページ。	6-123
二条三坊　七町	中・新町通丸太町下る大炊町196	立会	6/1	GL－1.04mにて平安後期の土壙。	6-39
二条三坊　九町	上・室町通椹木町下る大門町270	立会	12/11	検出できず。	6-136
二条三坊　十町	中・烏丸通丸太町下る大倉町205-1他	試掘	11/19	GL－1.18mにて平安後期の土壙、室町の南北溝。下層に弥生の包含層。発掘調査に切り換え。	6-122
二条三坊十三町	中・東洞院通夷川下る壺屋町516,516-1	立会	5/8	GL－0.6m以下、江戸の流路堆積。	6-27
〃	中・烏丸通二条上る蛸薬師町280他	立会	12/14	検出できず。	6-139

二条四坊　二町	中・東洞院通竹屋町上る三本木町454	立会	7/4	GL−0.6m以下、流れ堆積。	6-58
二条四坊　三町	中・高倉通竹屋町通〜夷川通	立会	8/27〜31	GL−0.23〜0.36mにて近世以降の推定高倉小路の路面。	6-85
二条四坊　六町	中・堺町通夷川上る綿屋町135,135-2	立会	11/29	検出できず。	6-129
〃	中・柳馬場通夷川上る五丁目232-1	立会	11/29	GL−1.45m以下、江戸の包含層。	6-130
二条四坊十一町	中・夷川通富小路西入俵屋町300	立会	7/11	GL−1.34m以下、室町の柱穴。−1.77mにて平安末期の包含層。	6-65
二条四坊十二町	中、柳馬場通丸太町通〜二条通地内	立会	12/5〜18	GL−0.14〜1.02mにて平安後期〜近現代の推定万里小路路面。	6-133
〃	中・夷川通富小路西入俵屋町292	立会	7/2	検出できず。	6-57
二条四坊十四町	中・寺町通夷川上る西鶴久遠院前町677-1	立会	6/12	GL−0.77〜1.25mにて推定東京極大路路面。	6-45
二条四坊十五町	中・御幸町通竹屋町上る毘沙門町537	試掘	10/1	GL−1.41m以下、平安前期、平安中期〜後期、鎌倉、桃山の土壙、包含層。	6-105
〃	中・寺町通竹屋町上る下御霊前町	立会	10/17	GL−0.69m以下、時期不明の路面、推定東京極大路。	6-113
三条一坊　一町	中・西ノ京北聖町68-1,82	立会	6/20	GL−1.25mにて江戸の池状落込み。	5-48
三条一坊　二町	中・西ノ京北聖町27-2	立会	9/5	GL−0.5mにて平安後期の落込み。	5-88
三条一坊十一町	中・神泉苑通御池下る神泉苑町28	立会	6/28	GL−0.7mにて江戸の池状堆積。	5-55
〃	中・西ノ京池ノ内町16-41	立会	10/29	検出できず。	5-114
三条二坊　四町	中・大宮通姉小路下る姉大宮町103他	立会	5/8	GL−1.35m以下、江戸の流路堆積。	5-29
三条二坊　五町	中・猪熊通姉小路下る姉猪熊町318	立会	11/6・8	GL−0.75〜0.85mにて平安後期、室町の土壙。	5-118
三条二坊十四町	中・小川通御池下る壺屋町454	立会	5/25	GL−1.1mにて土壙3、平安後期、桃山、江戸。	5-35
三条三坊　一町	中・西洞院通二条下る二条西洞院町635,634	立会	10/15	GL−1.3m以下、平安後期の遺物を含む池状堆積。	6-111
三条三坊　四町	中・西洞院通姉小路下る姉西洞院町542	立会	5/7	GL−1.35m以下、流れ堆積。	6-26
三条三坊十二町	中・両替町通姉小路下る柿本町389	立会	7/23	GL−1.7mにて時期不明の土壙。	6-69
三条四坊　六町	中・堺町通御池下る丸木材木町670-1	立会	4/9	GL-1.42mにて平安後期の土壙。本文63ページ。	6-10
三条四坊　七町	中・高倉通御池上る柊町583-2	立会	6/21〜23	GL−1.88mにて鎌倉〜江戸の土壙。	6-78
三条四坊十一町	中・菊屋町地先	立会	4/6・18	GL−0.21〜1.4mにて推定三条大路路面、以下で鎌倉の包含層。	6-6
三条四坊十三町	中・御幸町通三条上る丸屋町317,315	立会	11/16	GL−1.6m以下、室町の包含層。	6-112
三条四坊十四町	中・御幸町通御池下る大文字町350	立会	8/20	GL−0.85m以下、路面。	6-82
三条四坊十五町	中・御池通鉾屋町西入御池大家町590	立会	5/8	GL−2.03mにて路面、推定富小路。−2.13m以下、流れ堆積。	6-28
四条一坊　十町	中・綾薬師通大宮西入因幡町112-4	試掘	6/1	GL−1.31〜1.38mにて湿地状堆積。	9-38
四条一坊十二町	中・壬生坊城町8,8-1	立会	8/8	GL−1.3mにて時期不明の土壙。	9-80
四条二坊　三町	中・黒門通綾薬師下る下黒門町436	立会	9/7・18	検出できず。	9-89
四条二坊十二町	中・油小路通四条上る藤本町562	立会	8/6	GL−0.98mにて鎌倉の包含層。	9-76
〃	中・錦小路通堀川東入三文字町571	立会	8/7	GL−1.75mにて時期不明の包含層。	9-131
四条二坊十四町	中・油小路通西小路上る山田町532	立会	7/18	GL−1.4mにて鎌倉の包含層。−1.74mにて平安の土壙。	9-66
〃	中・西洞院通綾薬師下る古西町436	立会	9/20	GL−0.86mにて室町の包含層。	9-99
四条二坊十五町	中・六角通小川西入本能寺町111	立会	4/12	GL−1.26mにて江戸の土壙。	9-12

四条二坊十五町	中・小川通六角下る元本能寺町382	立会	7/9	GL−1.0mにて鎌倉、室町の土壙。	9-61
四条三坊　一町	中・西洞院通三条下る柳水町71-1	立会	11/15・27	GL−1.95mにて室町の包含層。−2.2mにて時期不明の包含層。	10-121
四条三坊　三町	中・新町通錦小路上る百足町379	立会	4/4	検出できず。	10-2
四条三坊　四町	中・西洞院四条上る蛸薬師山町466他	試掘	7/23	GL−1.3mにて鎌倉〜室町の土壙。	10-68
〃	中・新町通錦小路下る結棚町426-1・2	立会	9/25	GL−1.6mにて平安後期の土壙。	10-101
四条三坊　五町	中・錦小路通室町西入天神町279	立会	5/25	GL−0.95mにて江戸の池状堆積。	10-34
四条三坊　九町	中・六角通烏丸西入骨屋町143	立会	9/8	GL−1.4mにて室町の土壙。	10-96
四条三坊　十町	中・蛸薬師通烏丸西入橋弁慶町233	立会	6/28	GL−1.15mにて鎌倉の土壙。	10-54
四条三坊十一町	中・蛸薬師通烏丸西入橋弁慶町232-2	立会	6/4	GL−1.0m以下、鎌倉の包含層。	10-40
〃	中・烏丸通錦小路上る手洗水町659他	試掘	12/12	GL−2.3mにて平安後期〜中世の土壙、柱穴、溝状遺構。発掘調査に切り換え。	10-138
四条三坊十三町	下・四条通烏丸東入長刀鉾町23	試掘	4/18	GL−1.6mにて弥生・古墳期の溝、鎌倉〜室町の遺構多数。発掘調査に切り換え。	10-18
四条四坊　四町	中・東洞院錦小路下る販東屋町661	試掘	9/21	GL−1.1mにて平安〜中世の土壙、溝多数検出。発掘調査に切り換え。	10-100
四条四坊十二町	下・四条通麩屋町西入立売東町24	立会	5/12	GL−1.1mにて鎌倉の包含層。	10-31
四条四坊十五町	中・御幸町通六角下る伊勢屋町254-1,2	立会	8/7	GL−1.9mにて江戸の包含層。	10-79
〃	中・麩屋町通六角下る坂井町460	立会	11/26	GL−0.98mにて室町の包含層。	10-126
〃	中・御幸町通六角下る伊勢屋町360	立会	11/27	GL−1.0mにて江戸の土壙。	10-127
四条四坊十六町	中・寺町通三条下る西側永楽町他	立会	7/19	GL−1.3〜2.15mにて推定東京極大路路面。−2.8mにて古墳時代の遺物を含む流れ堆積。	10-67
五条一坊　二町	中・壬生仏ノ宮町31	試掘	6/25	GL−0.8mにて推定朱雀大路東側溝、杭列あり。平安以前の溝状遺構。発掘調査に切り換え。	9-49
五条一坊　十町	下・綾小路通大宮西入坊門町768	立会	11/1	GL−0.3mにて平安の包含層。	9-115
五条二坊　六町	下・堀川通高辻上る吉水町344	試掘	9/14,11/5	GL−1.0〜1.5mにて鎌倉〜江戸の柱穴、土壙、井戸、東西石列。本文65ページ。	9-94
五条二坊十四町	下・油小路通仏光寺下る大小山町597	立会	5/30	GL−1.1m以下、池状堆積。	9-37
五条二坊十五町	下・綾小路通油小路東入声刈山町117-1	立会	8/27	GL−1.5mにて平安〜室町の土壙。	9-84
五条三坊　二町	下・綾小路通西洞院東入矢田町115	立会	6/11	GL−1.5mにて室町の土壙。本文55ページ。	10-44
〃	下・西洞院通仏光寺上る綾西洞院町756	立会	11/21	GL−1.17m以下、路面。	10-124
五条三坊　五町	下・室町通高辻下る高辻町595	立会	8/6	GL−1.42mにて時期不明の土壙。−1.6mにて平安の小穴。	10-77
五条三坊　六町	下・仏光寺通室町西入糸屋町	立会	8/8・20	GL−1.46mにて江戸の土壙。	10-81
〃	下・新町通仏光寺下る岩戸山町428-2	立会	11/29	GL−1.1mにて室町の土壙。	10-125
五条三坊　八町	下・室町通四条下る鶏鉾町483他	試掘	8/3・9	GL−1.5mにて鎌倉〜室町の遺構。−1.7〜1.9mにて平安の遺構。−1.7〜−2.3mにて弥生・古墳前期の遺構。発掘調査に切り換え。	10-75
五条三坊　十町	下・綾小路通烏丸西入直侍者町167	立会	9/11	GL−1.53m以下、平安後期の包含層。	10-92
五条三坊十二町	下・高辻通烏丸西入骨屋町320-1他	立会	4/6	GL−1.5mにて江戸の包含層。	10-7

五条三坊十四町	下・東洞院通仏光寺下る高橋町630-1他	試掘	12/3	GL−1.1mにて江戸の堀込み、下層は鎌倉〜室町の流路状堆積。	10-132
五条三坊十六町	下・綾小路通烏丸東入竹屋之町254	立会	4/10	GL−1.05mにて時期不明の土壙。	10-11
五条四坊　九町	下・四条通柳馬場東入立売東町7	試掘	4/16	GL−2.1mにて室町の落込み。−2.6mにて平安後期の湿地状堆積。−3.0mにて平安前期の整地層。発掘調査に切り換え。	10-13
五条四坊十一町	下・柳馬場通仏光寺下る万里小路町166	立会	10/2	GL−1.5m以下、鎌倉・江戸の包含層。	10-107
五条四坊十二町	下・松原町通富小路東入松原中之町499-1	立会	4/4	GL−1.5m以下、鎌倉の包含層。	10-3
五条四坊十六町	下・麩屋町通四条下る八文字町336	立会	7/9	GL−2.3m以下、室町の包含層。	10-62
六条一坊　三町	下・中堂寺坊城町3,6	立会	7/25	GL−1.2mにて室町の池状堆積。以下流れ堆積。	9-71
六条一坊十三町	下・中堂寺前田町3	立会	6/6	GL−0.6mにて平安後期の土壙。	9-43
六条一坊十五町	下・中堂寺櫛笥町21-4他	試掘	6/18	GL−0.7mにて平安末期〜室町の柱穴群。発掘調査に切り換え。	9-47
六条二坊　五町	下・猪熊通五条下る柿本町600-2,715	立会	12/11	盛土のみ。	9-137
六条二坊　七町	下・五条通堀川西入柿本町681他	試掘	10/3	GL−1.0mにて平安〜江戸の土壙、柱穴。−1.5mにて南北溝。	9-108
六条二坊　九町	下・醒ヶ井通万寿寺上る篠屋町33　醒泉小学校	立会	8/3	GL−0.9m以下、室町・江戸の包含層。	9-74
六条二坊十二町	下・醒ヶ井通六条上る佐女牛井町160他	立会	9/28	GL−0.4mにて時期不明の包含層。	9-104
六条二坊十六町	下・東中筋通松原下る天神前町343	立会	9/18	巡回時、工事終了。	9-97
〃	下・松原通油小路東入天神前町351	立会	11/13・14	GL−1.05mにて時期不明の土壙。	9-119
六条三坊　二町	下・五条通新町西入西錺屋町21	立会	6/29	検出できず。	10-56
六条三坊　四町	下・六条通若宮西入若宮町79	立会	5/15	検出できず。	10-32
六条三坊　五町	下・揚梅通新町東入上柳町224　尚徳中学校	立会	4/4	盛土のみ。	10-4
六条三坊　六町	下・揚梅通新町東入上柳町222他	試掘	4/9	GL−1.2mにて平安後期の池状堆積。−1.5mにて平安の柱穴、土壙多数検出。発掘調査に切り換え。	10-9
六条三坊　七町	下・五条通室町西入東錺屋町186	試掘	7/27	GL−0.9〜1.0mにて推定六条坊門小路路面。中世〜近世の遺構多数。−1.3mにて平安末期の小穴。発掘調査に切り換え。	10-72
六条四坊　二町	下・間之町通五条上る万寿寺町143	立会	5/1	検出できず。	10-24
六条四坊　六町	下・高倉通五条下る堺町35	立会	5/21	GL−2.16mにて鎌倉〜室町の包含層。	10-33
六条四坊　十町	下・麩屋町通五条上る下鱗形町547	立会	4/4	GL−1.37m以下、室町の遺物を含む流れ堆積。	10-1
六条四坊十一町	下・五条通河原町西入本覚寺前町799他	試掘	12/19	GL−1.7〜1.9mにて中世の土壙、以下は流れ堆積。	10-141
六条四坊十六町	下・麩屋町通万寿寺上る上鱗形町517,518	立会	4/16	GL−2.05mにて室町の包含層。	10-15
七条一坊　三町	下・新屋敷太夫町99	立会	7/30〜8/10	GL−1.34mにて鎌倉の路面、推定七条坊門小路。−1.72m以下、弥生の遺物を含む湿地堆積。	9-73
七条二坊　八町	下・堀川通花屋町下る本願寺門前町868	立会	12/18	GL−2.15m以下流れ堆積。	9-140
七条二坊十二町	下・堀川通七条上る花園町70	立会	6/26	GL−1.1mにて江戸の土壙。	9-52
七条三坊　一町	下・若宮通花屋町上る若宮町564	立会	4/25	GL−0.55m以下、流れ堆積。	10-21

七条三坊　一町	下・長町地先	立会	4/25～27，6/4・5	GL－0.76m以下、室町～江戸の包含層。	10-22
七条三坊　二町	下・若宮通正面上る四本松町587	立会	6/6	近世以降の堆積のみ。	10-42
七条三坊　三町	下・新町通正面下る平野町772他	試掘	10/9	GL－1.2～1.3mにて平安末期～鎌倉の土壙、柱穴多数。発掘調査に切り換え。	10-109
七条三坊十五町	下・不明門通六条下る高槻町347，349	立会	4/6	GL－1.26m以下、流れ堆積。	10-8
七条四坊　四町	下・七条通河原町西入材木町499-2	立会	6/5	GL－0.9mにて江戸の池状堆積。	10-41
七条四坊十一町	下・土手町通正面下る船屋町400	試掘	4/16	GL－1.6m以下、平安～江戸の遺物を含む流路堆積。	10-14
七条四坊十三町	下・二宮町通七条上る下二之宮町436	立会	7/24	GL－0.55m以下、室町・江戸の遺物を含む鴨川の氾濫原。	10-70
八条一坊　五町	南・八条町509-2	立会	4/17	GL－1.23mにて時期不明の包含層。	11-16
八条一坊　八町	下・壬生通、七条～木津屋橋通	立会	5/8・17	GL－0.3mにて江戸～明治の西本願寺の旧寺域と見られる堀状遺構。	11-30
八条一坊十三町	南・八条町	立会	11/27	GL－0.45mにて平安前期の井戸、底部に横桟残存。	11-128
八条一坊十六町	下・大宮通七条下る和気町5	立会	9/7	盛土のみ。	11-90
八条二坊　八町	下・猪熊通下魚ノ棚下る樽屋町385	立会	6/14	GL－1.56mにて鎌倉の包含層。	11-46
八条二坊十四町	下・油小路通塩小路下る東側東油小路町	立会	9/28	GL－2.63m以下、中世の遺物を含む流れ堆積。	11-103
八条三坊　十町	下・塩小路通烏丸西入東塩小路町579-1	立会	11/7・11	GL－1.26m以下、流れ堆積。	12-117
八条三坊十六町	下・七条通烏丸東入真苧屋町195他	試掘	4/23	GL－0.9mにて推定七条大路路面と南側溝、土壙、柱穴多数。－1.5mにて平安前期の整地層。－2.0m以下、古墳時代の遺物を含む流れ堆積。発掘調査に切り換え。	12-19
〃	下・七条通烏丸東入真苧屋町195	試掘	7/6	GL－1.0～1.3mにて平安～江戸の土壙多数。下層で平安前期の流路状堆積。発掘調査に切り換え。	12-59
八条四坊　八町	下・高倉通七条下る材木町481	立会	6/25	GL－1.25m以下、流れ堆積。	12-51
九条一坊　六町	南・八条内田町88-1	立会	5/28	GL－0.9mにて路面、推定皇嘉門大路。	11-36
九条二坊　六町	南・西九条西蔵王町30	立会	7/9	盛土のみ。	11-63
九条二坊十一町	南・西九条蔵王町51	試掘	9/5	GL－0.6mにて鎌倉～室町の包含層、以下流れ堆積。	11-87
九条三坊　五町	南・東九条下殿田町9	試掘	9/10	GL－1.32m以下、平安の遺物を含む流れ堆積。	12-91
九条三坊　九町	南・東九条上殿田町47-1，2	立会	4/17	GL－0.85mにて平安中期の土壙。	12-17
〃	南・東九条上殿田町47-1	立会	9/17	巡回時、工事終了。	12-95
九条四坊　二町	南・東九条東山王町27　山王小学校	立会	8/29	GL－1.3mにて時期不明の包含層。	12-86
九条四坊　五町	南・東九条上御霊町14他	試掘	6/27・28	GL－0.8mにて室町の土壙、柱穴、暗渠、南半部で集石遺構。	12-53

太秦地区（UZ）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
一ノ井遺跡	右・太秦一ノ井町8-2	立会	8/3	GL－0.87mにて平安前期の東西溝。本文64・65ページ。	-2
広隆寺旧境内	右・太秦蜂岡町36右京消防署	試掘	7/16	検出できず。	-1
史跡・名勝 嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町40-3他	立会	9/17	巡回時、工事終了	-3

洛北地区（RH）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
室町殿跡	上・衣棚通今出川上る畠山町206-2	試掘	8/24	GL－1.4mにて室町の土壙、溝、柱穴。	-19
〃	上・新町通上立売下る瓢箪図子町58-9	立会	12/1	GL－2.21mにて土壙。	-26
松ヶ崎廃寺	左・松ヶ崎御所ノ内町1-1他	立会	9/21	GL－0.38mにて平安後期の土壙。	-21
植物園北遺跡	北・上賀茂松本町98	試掘	4/4	弥生末～古墳前期の竪穴住居址検出。発掘調査に切り換え。	13-1
〃	左・下鴨北野野神町31	立会	4/12	巡回時、工事終了。	13-3
〃	左・下鴨南茶ノ木町21-4	立会	5/14	GL－0.87m以下、流れ堆積。	13-6
〃	左・下鴨神殿町4-3	立会	6/18	検出できず。	13-9
〃	左・下鴨南野々神町1-2　ノートルダム女子大学	試掘	7/4	GL－0.9mにて古墳前期の住居址。発掘調査に切り換え。	13-12
〃	北・上賀茂畔勝町12-1	立会	8/2	盛土のみ。	-16
〃	左・下鴨北野々神町24	立会	8/8・10	検出できず。	13-17
〃	北・上賀茂岡本町18	立会	8/13	検出できず。	-18
相国寺旧境内	上・上立売通室町東入上立売東町43	立会	4/9	GL－0.65mにて中世の遺物を含む池状堆積。	-2
〃	上・相国寺門前町709	立会	7/17	GL－0.7mにて時期不明の土壙。	-14
〃	上・室町通上立売上る室町頭町261　室町小学校	立会	12/5	盛土のみ。	-27
大宮北ノ前瓦窯跡	北・大宮北山ノ前町37	立会	7/6	盛土のみ。	-13
醍醐ノ森瓦窯跡	北・西賀茂中川上町71	立会	4/27	盛土のみ。	-4
〃	北・西賀茂中川上町70-3.4	立会	4/27	検出できず。	-5
〃	北・西賀茂中川上町70-2	立会	9/3・4	GL－1.13mにて鎌倉～桃山の包含層、瓦多数出土。	-20
平安京跡隣接地	上・一条通御前西入上る大上之町51	立会	10/11	GL－0.26mにて江戸の包含層。	-23
北野遺跡	北・平野宮本町70	立会	6/18	検出できず。	-8
〃	北・平野八丁柳町42-1他	立会	6/22	検出できず。	-10
〃	上・今小路通御前西入紙屋川町872	立会	7/31,8/2	GL－0.88mにて時期不明の包含層。	-15
〃	北・北野紅梅町4	立会	9/27	GL－0.27mにて時期不明の包含層。	-22
〃	上・一条通御前西入三丁目西町10～14	試掘	10/31	GL－0.28mにて時期不明の柱穴。－0.42m以下、流れ堆積。	-24
〃	上・一条通御前西三丁目西町2-1	試掘	11/9	GL－0.09mにて平安の柱穴2、平安前期の南北溝。	-25
聚楽遺跡	上・元誓願寺通智恵光院西入元中之町486	立会	6/25	GL－0.6mにて室町の包含層。	-11

北白川地区（KS）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
一乗寺向畑町遺跡	左・一乗寺向畑町11	立会	11/6	検出できず。	-13
〃		試掘	12/5	GL−0.1mにて江戸の溝状遺構。	-15
京都大学構内遺跡	左・吉田二本松町18	立会	11/7	GL−0.15m以下、鎌倉〜江戸の土壙。	-14
小倉町・別当町遺跡	左・北白川別当町3-2	立会	10/15〜20	GL−0.48mにて時期不明の包含層。	-11
上終町遺跡	左・北白川東瀬内町39	立会	4/6	GL−0.75mにて時期不明の包含層。	-1
成勝寺跡	左・岡崎成勝寺町71	立会	9/12・27	−1.27mにて溝をきって平安後期〜末期の土壙。	13-08
〃	左・岡崎成勝寺町71	立会	10/9	盛土のみ。	13-10
尊勝寺跡	左・岡崎西天王町平安神宮	試掘	11/2	GL−0.78mにて平安の包含層。本文62・63・66ページ。	13-12
白河街区跡	左・和国町379	立会	4/9	GL−0.78mにて江戸の土壙。	13-2
〃	左・聖護院西町21	立会	6/11	GL−0.7mにて鎌倉〜室町の東西溝。	13-3
白河街区跡 岡崎遺跡	左・岡崎円勝寺町23-1	試掘	7/18	GL−1.55mにて江戸の湿地堆積。	13-6
〃	左・岡崎北御所町33他	立会	10/3	GL−0.25mにて古墳時代の土壙。	13-9
白河南殿跡	左・聖護院蓮華蔵町8-6	立会	6/29	検出できず。	13-5
〃		立会	12/25	GL−0.41m以下、室町〜江戸の包含層。	13-16
北白川廃寺	左・北白川山田町1他	試掘	9/3	GL−0.4mにて平安以前の東西溝、下層に縄文の包含層。発掘調査に切り換え。	-7
〃	左・北白川大堂町56	試掘	6/22	GL−0.4mにて平安の瓦多量。−1.7mにて縄文の包含層。発掘調査に切り換え。本文64ページ。	-4

洛東地区（RT）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
勧修寺境内	山・勧修寺仁王堂27-6	立会	6/7	GL−0.42mにて鎌倉〜室町の包含層。	-13
後山階陵遺跡	山・御陵沢ノ川町他	立会	7/10・13	GL−0.15mにて路面。	-18
山科本願寺跡	山・西野左義長町26	立会	10/17	GL−0.78mにて室町の土壙。	-32
大峰廟跡	山・北花山市田町地先	立会	5/23	検出できず。	-10
中臣遺跡	山・来栖野打越町地先	立会	4/18	検出できず。	13-2
〃	山・来栖野打越町8-36	立会	4/21	盛土のみ。	13-3
〃	山・東野森野町2-23	立会	5/17	盛土のみ。	13-7
〃	山・西野山中臣町69-13	立会	5/28	盛土のみ。	13-11
〃	山・勧修寺東金ヶ崎13-7	試掘	7/2	検出できず。	13-15
〃	山・西野山中臣町26-88	立会	7/4	盛土のみ。	13-16
〃	山・西野山中臣町26-88	立会	7/4	盛土のみ。	13-17

中臣遺跡	山・東野森野町2-26	立会	7/25	盛土のみ。	13-20
〃	山・勧修寺東栗栖野町2-2,2	立会	8/22	検出できず。	13-21
〃	山・栗栖野狐塚4-5	立会	8/23	検出できず。	13-23
〃	山・勧修寺東栗栖野町18-22	立会	8/24	盛土のみ。	13-24
〃	山・東野舞台町93-2	立会	9/3	GL−1.72m以下、飛鳥時代の包含層。	13-25
〃	山・東野舞台町93-2	立会	9/3	GL−1.72m以下、飛鳥時代の包含層。	13-26
〃	山・勧修寺西栗栖野町54-5,6	試掘	9/7	検出できず。	13-27
〃	山・勧修寺西栗栖野町56-8	立会	9/26	巡回時、工事終了。	13-28
〃	山・勧修寺西金ヶ崎町95	立会	10/5	GL−0.7mにて古墳時代の包含層。	13-30
〃	山・東野舞台町70-5	立会	10/15	盛土のみ。	13-31
〃	山・西野山中臣町71-24	立会	10/29	巡回時、工事終了。	13-33
鳥辺野跡	東・清閑寺山ノ内町46-2	立会	5/21	山土のみ。	-9
珍皇寺境内遺跡	東・小松町572-2	立会	6/1	盛土のみ。	-12
〃	東・小松町572-8	立会	6/11	検出できず。	-14
法住寺殿跡	東・本瓦町659	立会	5/7	検出できず。	-5
〃	東・東瓦町964	試掘	5/18	GL−1.8mにて江戸後期の湿地堆積。	-8
〃	東・三十三間堂廻り町657他	試掘	11/28	GL−1.5mにて平安末期〜鎌倉の池汀。法住寺の庭園遺構。	-35
〃	東・北斗町605	立会	12/5	盛土のみ。	-36
法性寺跡	東・泉涌寺東林町地先	立会	4/16	攪乱のみ。	-1
〃	伏・深草車阪町1-49	立会	5/7	盛土のみ。	-4
〃	東・本町十五丁目758-30〜32	立会	9/25	GL−1.03mにて時期不明の包含層。	-29
六波羅政庁跡	東・鐘鋳町414-2	立会	5/10	盛土のみ。	-6
〃	東・森下町534	立会	7/13	検出できず。	-19
〃	東・上新シ町380他	立会	8/21	盛土のみ。	-22
〃	東・法法院庵町	立会	11/16・19	検出できず。	-34
正覚寺跡	伏・深草願成町9-1	立会	12/14	盛土のみ。	-37

伏見・醍醐地区（FD）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
史跡・醍醐寺境内	伏・醍醐伽藍町19	試掘	10/11	検出できず。	-24
深草寺跡	伏・深草西伊達町1-4　深草中学校	立会	4/4	盛土のみ。	-1
日野谷寺町遺跡	伏・日野谷寺町32-1他	試掘	8/20・21	GL−0.3mにて中世の包含層。−0.8mにて池状堆積。	-15
伏見城跡	伏・桃山井伊掃部西町23-2	立会	4/11	検出できず。	15-2
〃	伏・桃山羽柴長吉東町75	立会	4/20	GL−0.85mにて江戸の土壙。	15-3
〃	伏・東大手町763	試掘	5/25	−1.58mにて江戸中期の南北溝。	15-4
〃	伏・桃山最上町46-1	立会	5/30	検出できず。	15-5
〃	伏・桃山町大蔵45	立会	6/6	検出できず。	15-6
〃	伏・桃山福島太夫北町61　呉竹養護学校	立会	6/18	盛土のみ。	15-7
〃	伏・東大手町756-1,2	立会	6/18	GL−0.46mにて大手筋の北石垣溝。	15-8
〃	伏・水野左近西町35-1	立会	7/9	GL−0.53mにて時期不明の落込み。	15-10

伏見城跡	伏・桃山町根来16-9	立会	7/27	検出できず。	15-11
〃	伏・両替町１２丁目215	立会	7/31	検出できず。	15-12
〃	伏・京町２丁目2-243	立会	7/31	検出できず。	15-13
〃	伏・深草大亀谷内藪町32-1	立会	8/14	検出できず。	15-14
〃	伏・桃山福島太夫西町６	試掘	9/７	ＧＬ－0.3mにて時期不明の南北溝。	15-16
〃	伏・桃山長岡越中南町95　長岡児童公園	立会	9/10	検出できず。	15-17
〃	伏・京町２丁目234	立会	9/10	検出できず。	15-18
〃	伏・桃山町松平筑前10-13	立会	10/18	検出できず。	15-20
〃	伏・平野町82-2他	立会	9/20	ＧＬ－0.74mにて南北方向の石垣。	15-21
〃	伏・桃山町正宗46-47	立会	9/21	検出できず。	15-22
〃	伏・京町北八丁目86-1	立会	10/１	検出できず。	15-23
〃	伏・桃山町本多上野107　桃山小学校	立会	11/９	盛土のみ。	15-25
〃	伏・片原町300	立会	11/19	検出できず。	15-26
〃	伏・京町三丁目175-1他	立会	11/27	検出できず。	15-27
〃	伏・桃山町丹下21-5他	試掘	12/14	ＧＬ－0.4mにて堀状遺構。－1.25mにて古墳時代の包含層。発掘調査に切り換え。	15-28
法界寺旧境内	伏・日野慈恵町地先	立会	7/05・13	検出できず。	-９
法性寺跡	伏・深草正覚町27	立会	10/５	ＧＬ－0.62mにて時期不明の包含層。	-19

鳥羽地区（ＴＢ）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
下鳥羽遺跡	伏・下鳥羽芹川町4-12他	試掘	7/20	ＧＬ－1.6mにて時期不明の東西溝。以下、鴨川の旧流路。	14-13
〃	伏・下鳥羽芹川町6-4	試・立	7/30,8/22	ＧＬ－1.0mにて平安・古墳時代の包含層、南北方向の平安の流路。	14-17
〃	伏・下鳥羽毛利町９他	立会	10/９	検出できず。	14-28
上鳥羽遺跡	南・上鳥羽北花名町８	立会	4/19	ＧＬ－0.24以下、湿地堆積。	-２
〃	南・上鳥羽北花名町６	試掘	4/25	ＧＬ－0.2mにて縄文・弥生の遺物を含む湿地状堆積。	-３
久我東町遺跡	伏・羽束師鴨川59-1他	立会	11/13	検出できず。	-30
鳥羽離宮跡	伏・中島河原田町4-45	立会	4/9	盛土のみ。	14-1
〃	伏・竹田浄菩提院町14-4	立会	5/８	ＧＬ－0.95m以下、流れ堆積。	14-4
〃	伏・竹田内畑町56-4他	試掘	5/28	ＧＬ－0.52m以下、弥生～江戸の包含層。－1.3mにて鳥羽離宮期の土壙状遺構。発掘調査に切り換え。	14-5
〃	伏・竹田浄菩提院町53-3	立会	5/30	盛土のみ。	14-6
〃	伏・中島宮ノ後町地先	立会	6/１	ＧＬ－1.1m以下、池状堆積。	14-7
〃	南・上鳥羽火打形町41-1,44	立会	6/４	盛土のみ。	14-9
〃	伏・中島秋山町地先	立会	6/25	検出できず。	14-10
〃	伏・竹田浄菩提院町53-2他	試掘	7/４	ＧＬ－1.7m以下、腐蝕土層。	14-11
〃	伏・竹田浄菩提院町45-2	立会	7/９	検出できず。	14-12
〃	伏・竹田内畑町95-1	立会	7/24	ＧＬ－0.73m以下、池内堆積。	14-14
〃	伏・中島中道町26-1	試掘	7/25	ＧＬ－1.34mにて湿地状堆積。－2.0m以下、古墳時代の包含層。	14-15
〃	伏・竹田浄菩提院町地先	立会	7/30	埋土のみ。	14-16

鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町77-6	試掘	8/1	GL−0.6mにて鎌倉〜江戸の遺構。−0.95mにて鳥羽離宮期の遺構面、東へ向う落込み、柱穴。	14-18
〃	伏・竹田剣川町地先	立会	8/3	埋土のみ。	14-19
〃	伏・竹田真幡木町39-4	試掘	8/22	GL−2.3mにて池状堆積。	14-20
〃	伏・竹田小屋ノ内町地先	試掘	8/23・27	GL−0.6mにて陸部の端と推定される土層。	14-21
〃	伏・中島外山町1	立会	8/24	検出できず。	4-22
〃	伏・竹田真幡木町39-4	試掘	8/31	GL−3.39mにて時期不明の包含層。	14-23
〃	伏・竹田浄菩提院町31-3	立会	9/12	検出できず。	14-24
〃	伏・竹田内畑町地先	立会	10/5	検出できず。	14-26
〃	伏・竹田田中殿町地先	立会	10/3	攪乱のみ。	14-27
木津川底遺跡	伏・淀生津町	立会	9/17	巡回時、工事終了。	14-25
淀城跡	伏・池上町147-24	立会	6/1	GL−1.5mにて淀城の整地層。	-8
〃	伏・淀本町174-62他	試掘	10/1〜27	GL−0.8mにて東西堀・石垣。本文46ページ。	-29

南・桂地区（MK）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
大藪遺跡	南・久世大藪町62　大藪小学校	立会	10/5	盛土のみ。	-5
〃	南・久世殿城町48-1　久世中学校	立会	10/9	盛土のみ。	-6
中久世遺跡	南・久世中久世町2丁目99	立会	6/27	検出できず。	-1
〃	南・久世中久世町4丁目2-5	立会	9/17	巡回時、工事終了。	-2
〃	南・久世中久世町5丁目68	立会	9/12	検出できず。	-4
〃	南・久世中久世町5丁目22	試・立	11/13・21・29	GL−0.8にて弥生時代の溝・土壙。	-7
福西古墳群	西・大枝中山町2-133,134	立会	9/6	盛土のみ。	-3

長岡京地区（NG）

遺跡名	所在地	試・立	調査日	概要	図版番号
長岡京跡	伏・淀樋爪町456-3	立会	4/5	検出できず。	-1
〃	南・久世殿城町575	試掘	4/23	GL−1.85mにて長岡京期の柱穴・土壙、推定一条第一小路北側溝。弥生〜古墳の竪穴住居址。発掘調査に切り換え。	-2
〃	伏・羽束師古川町219-1	試掘	4/27	検出できず。	-3
〃	伏・羽束師古川町329他	試掘	5/7	GL−1.22m以下、流れ堆積。−1.72mにて古墳時代の水田址。	-4
〃	南・久世大藪町464-4,465-4	立会	5/25	検出できず。	-5
〃	伏・羽束師菱川町366-1	立会	5/28	検出できず。	-6
〃	伏・羽束師菱川町地先	立会	6/7・12	GL−1.42mにて湿地堆積。	-7
〃	南・久世東土川町他	立会	6/21	検出できず。	-8
〃	南・久世築山町461-1	試掘	8/8	GL−0.4m以下、砂泥層。西端部で西に向っての落込み確認。	-9

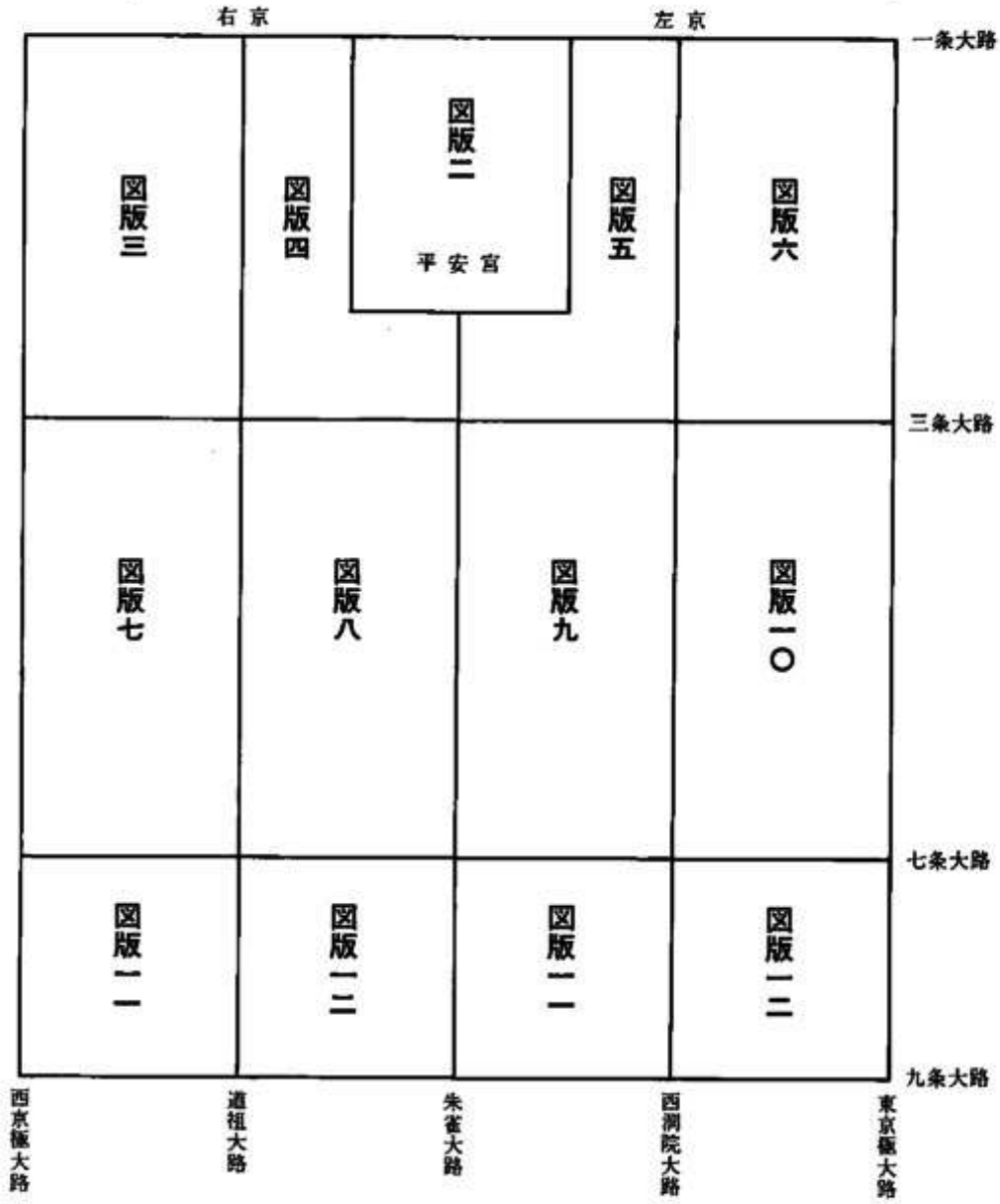
長岡京跡	伏・羽束師菱川町248	試掘	8/9	検出できず。	-10
〃	伏・淀本町231—1	立会	10/1	盛土のみ。	-11
〃	南・久世殿城町575	立会	11/26	盛土のみ。	-12
〃	南・久世築山町212-1	立会	10/16	盛土のみ。	-13
〃	南・久世殿城町575	立会	10/17	盛土のみ。	-14
〃	伏・羽束師菱川町511他	試掘	10/26	GL−0.54mにて古墳時代の包含層。以下、流路堆積。	-15
〃	伏・久我西出町14-1・2・3	試掘	11/7	GL−2.0mにて長岡京期の南北溝、柱穴。	-16
〃	伏・羽束師菱川町342-2	立会	11/27	検出できず。	-17
淀城跡	伏・淀下津町231-8	立会	12/20	GL−0.55mにて北側へ下がる落込み。	-18

（なお、図版番号の内、右の番号は調査記号と一致する）

図　　版

調査地点位置図

平安京図葉分割図

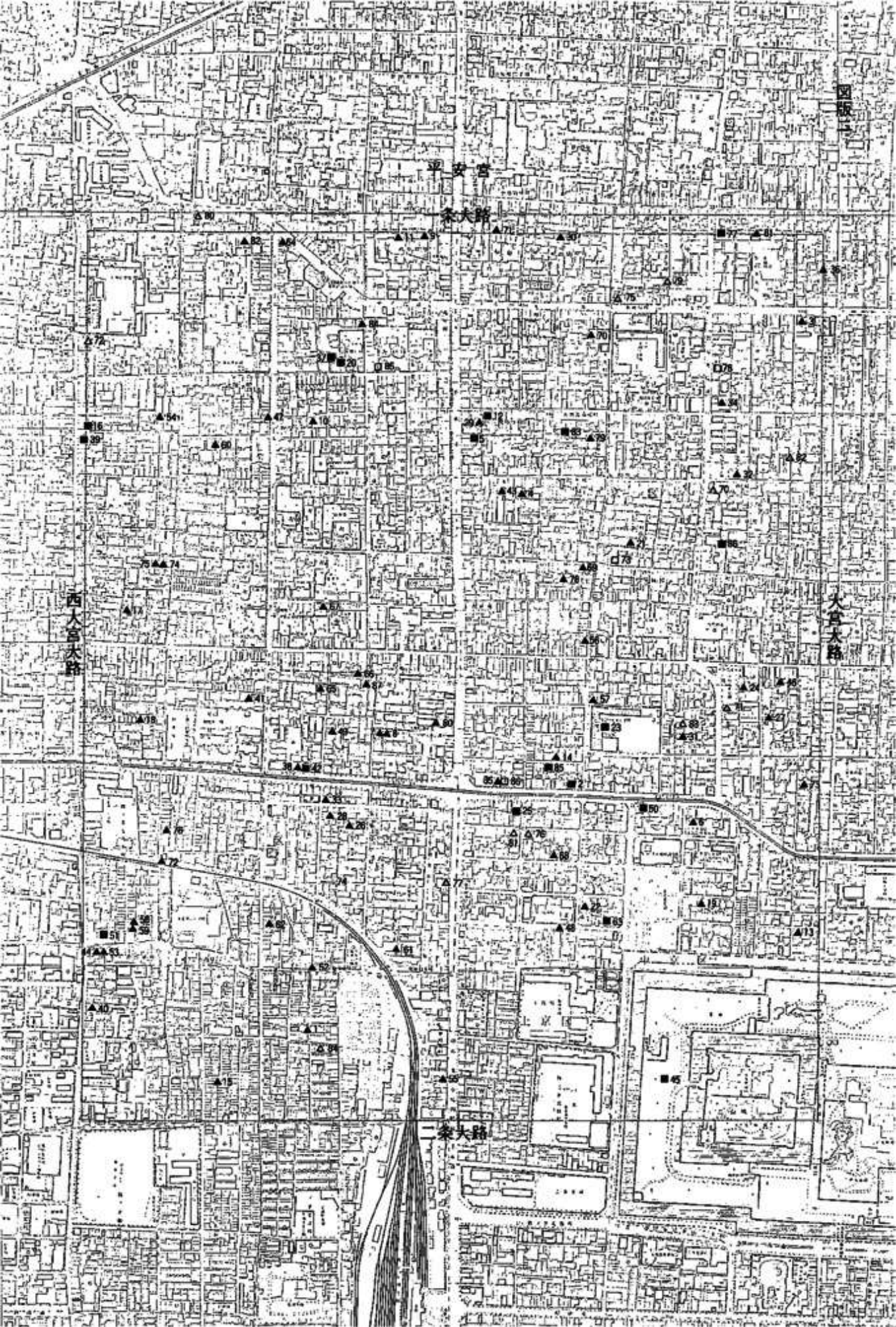


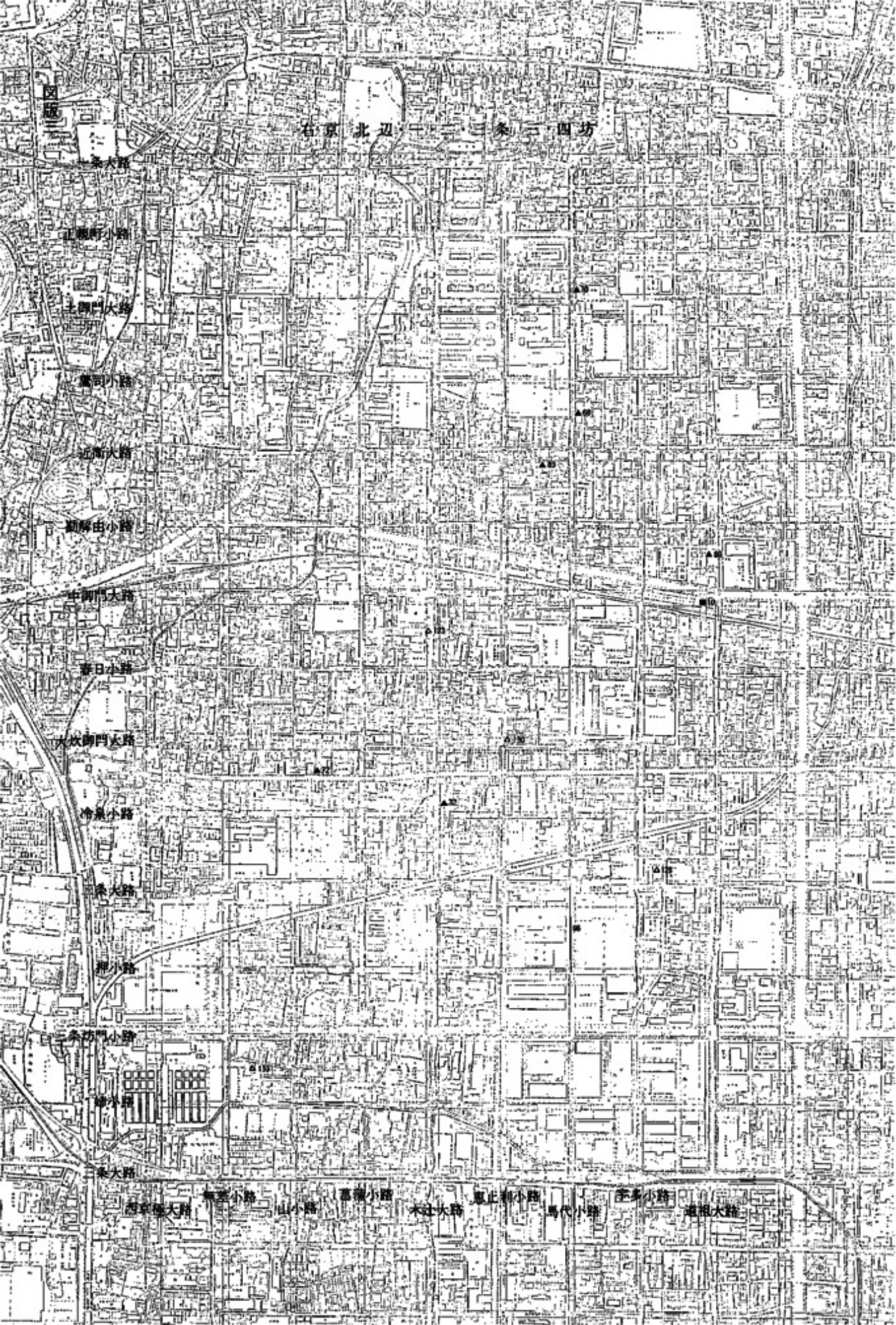
凡　例

□　元年度試掘調査地点　　■　2年度試掘調査地点

△——　元年度立会調査地点　　▲——　2年度立会調査地点

— — — — —　遺跡範囲


図版二
平安宮
一条大路
西大宮大路
大宮大路
二条大路


図版
右京北辺一二条三四坊
一条大路
正親町小路
土御門大路
堀川小路
近衛大路
新屋敷小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
西京極大路
新菜小路
山小路
高倉小路
木辺大路
東洞院小路
馬代小路
壬生小路
道祖大路

図版四

右京北辺一二三条一工坊

一条大路

正親町小路

土御門大路

櫛司小路

近衛大路

鷹司小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

道祖大路

野寺小路

西郷川小路

西樹貴小路

西大宮大路

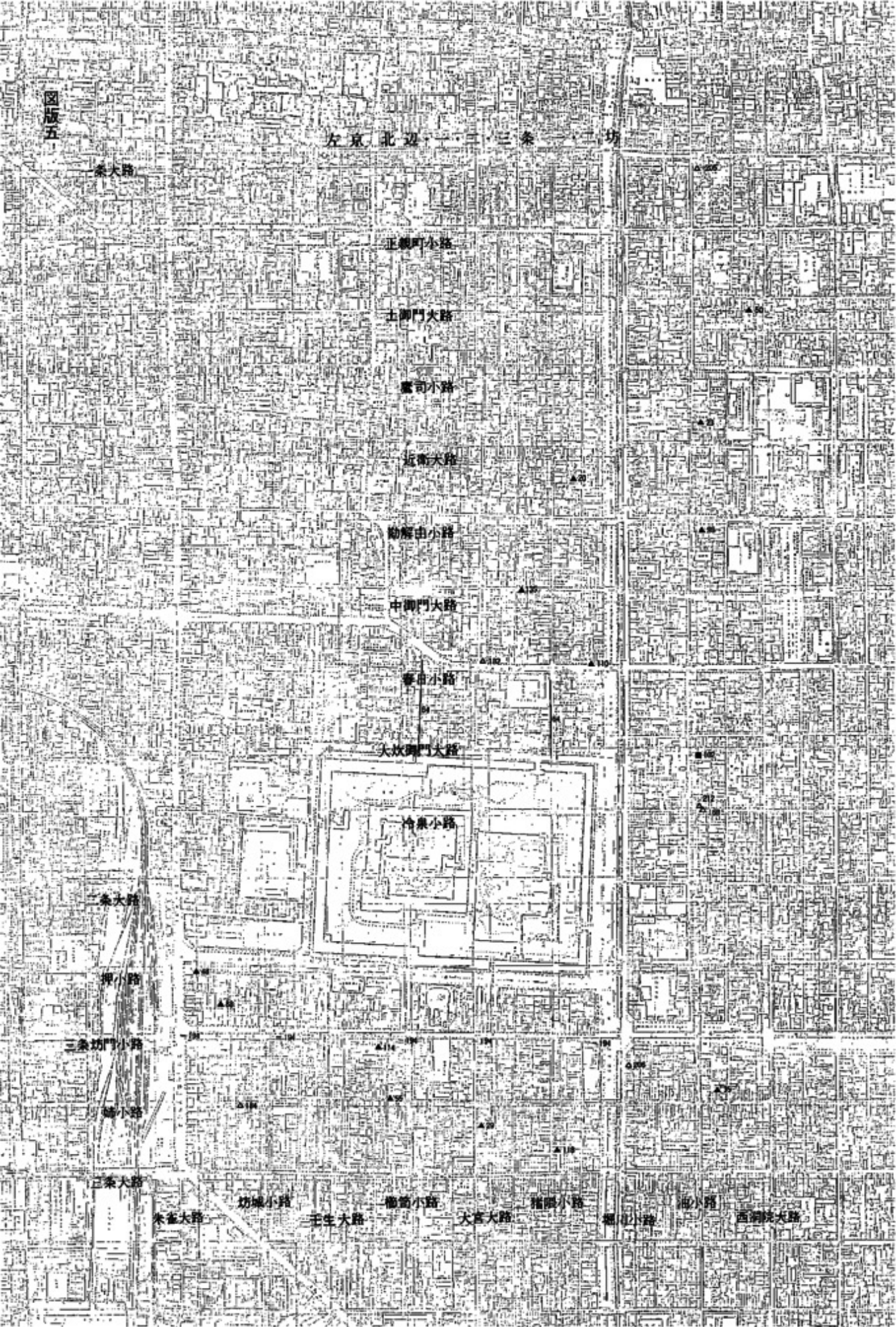
西樹智小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路

図版五


左京北辺一二三条一坊
一条大路
正親町小路
土御門大路
室司小路
近衛大路
勘解由小路
中御門大路
春日小路
大炊御門大路
冷泉小路
二条大路
押小路
三条坊門小路
姉小路
三条大路
坊城小路
櫛笥小路
猪隈小路
油小路
朱雀大路
壬生大路
大宮大路
堀川小路
西洞院大路

図版六

左京 北辺・一・二・三条 三・四坊

一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

綾小路

三条大路

西洞院大路　町尻小路　室町小路　烏丸小路　東洞院大路　高倉小路　万里小路　富小路　東京極大路

右京 四・五・六・七条 三・四坊

図版七

二条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

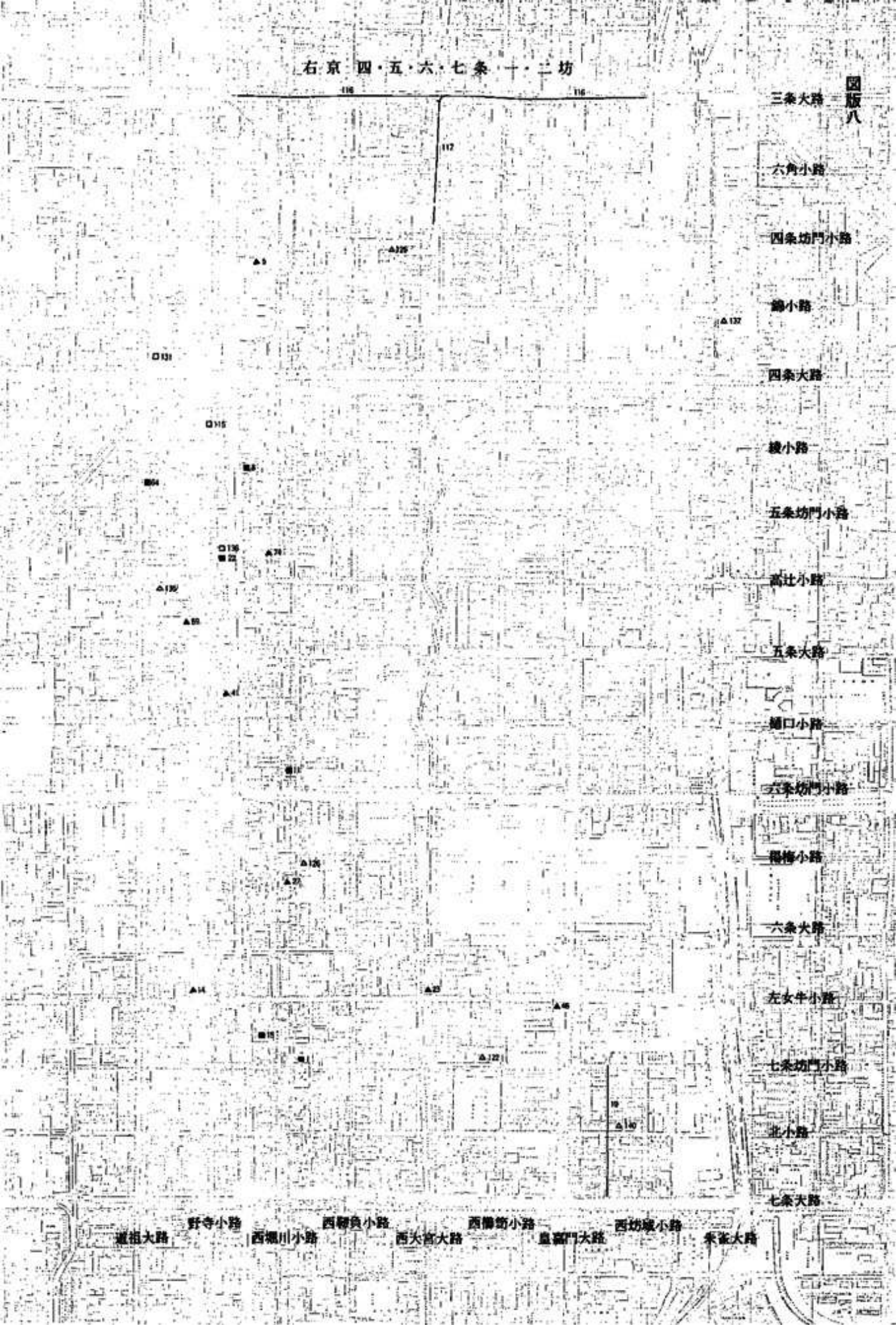
左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

西京極大路　無差小路　山小路　高蔵小路　木辻大路　東止利小路　馬代小路　宇多小路　道祖大路


右京 四・五・六・七条 一・二坊
図版八
三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西朝負小路
西大宮大路
西櫛笥小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

図版九

左京 四・五・六・七条 一・二坊

三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

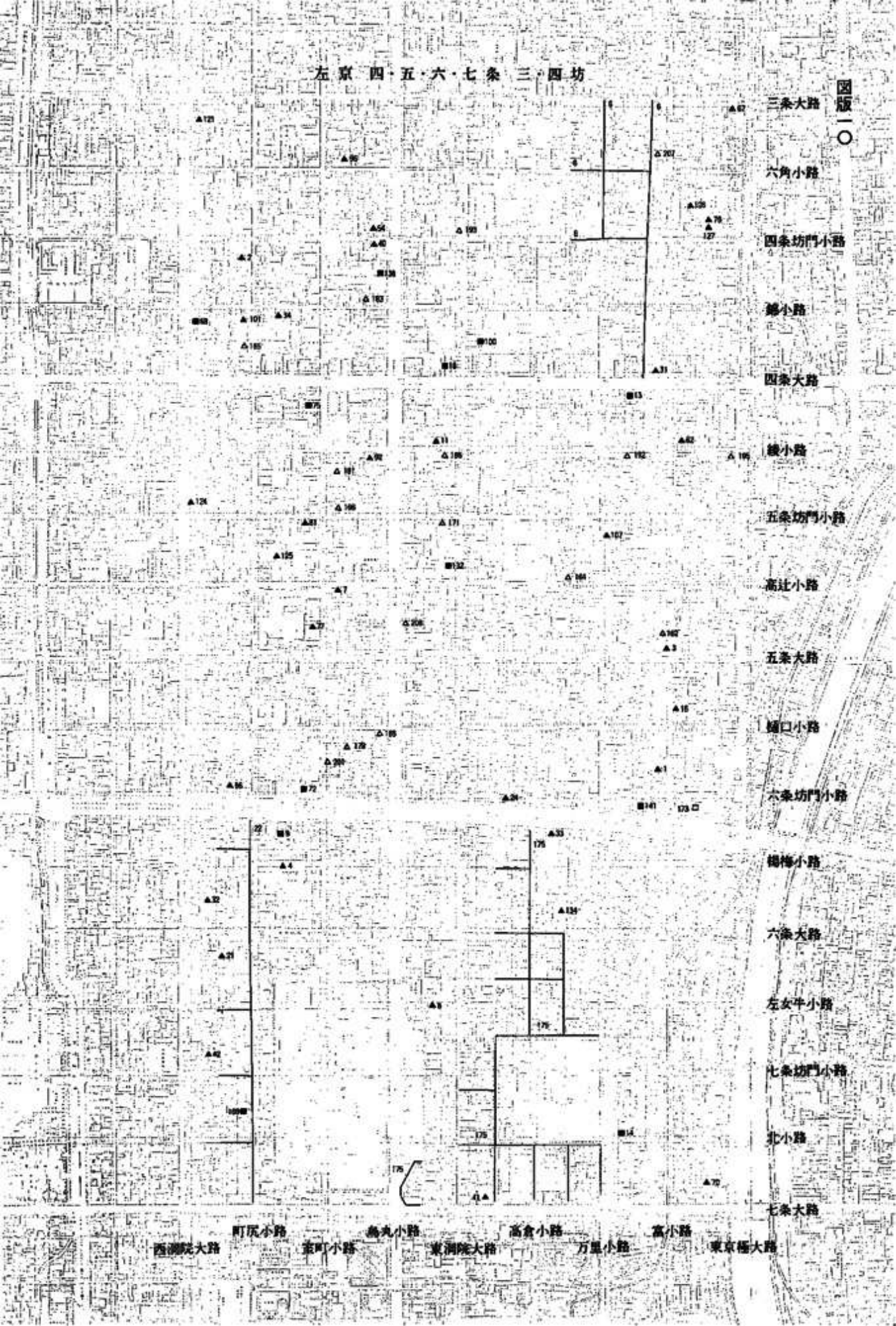
左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

朱雀大路　坊城小路　壬生大路　柳馬小路　大宮大路　猪熊小路　堀川小路　油小路　西洞院大路


左京 四・五・六・七条 三・四坊
図版一〇
三条大路
六角小路
四条坊門小路
錦小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
町尻小路
烏丸小路
高倉小路
富小路
西洞院大路
室町小路
東洞院大路
万里小路
東京極大路

図版一一

右京 八・九条 三・四坊

七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
西京極大路
無差小路
山小路
菖蒲小路
木辻大路
恵止利小路
馬代小路
宇多小路
道祖大路

左京 八・九条 一・二坊

七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
朱雀大路
坊城小路
壬生大路
樋殿小路
大宮大路
猪隈小路
堀川小路
油小路
西洞院大路

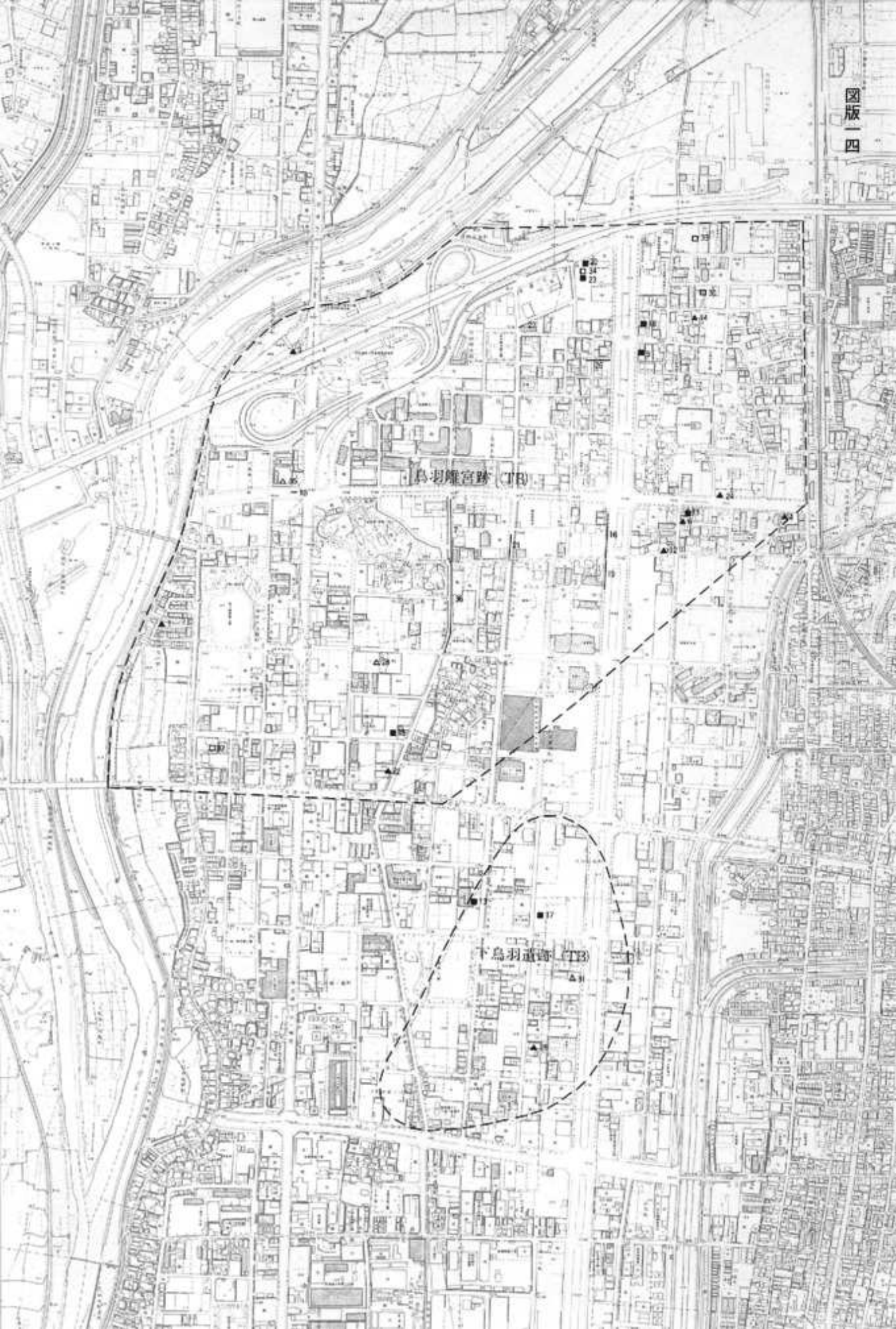
右京 八・九条 一・二坊

七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
道祖大路
野寺小路
西堀川小路
西鴨負小路
西大宮大路
西御門小路
皇嘉門大路
西坊城小路
朱雀大路

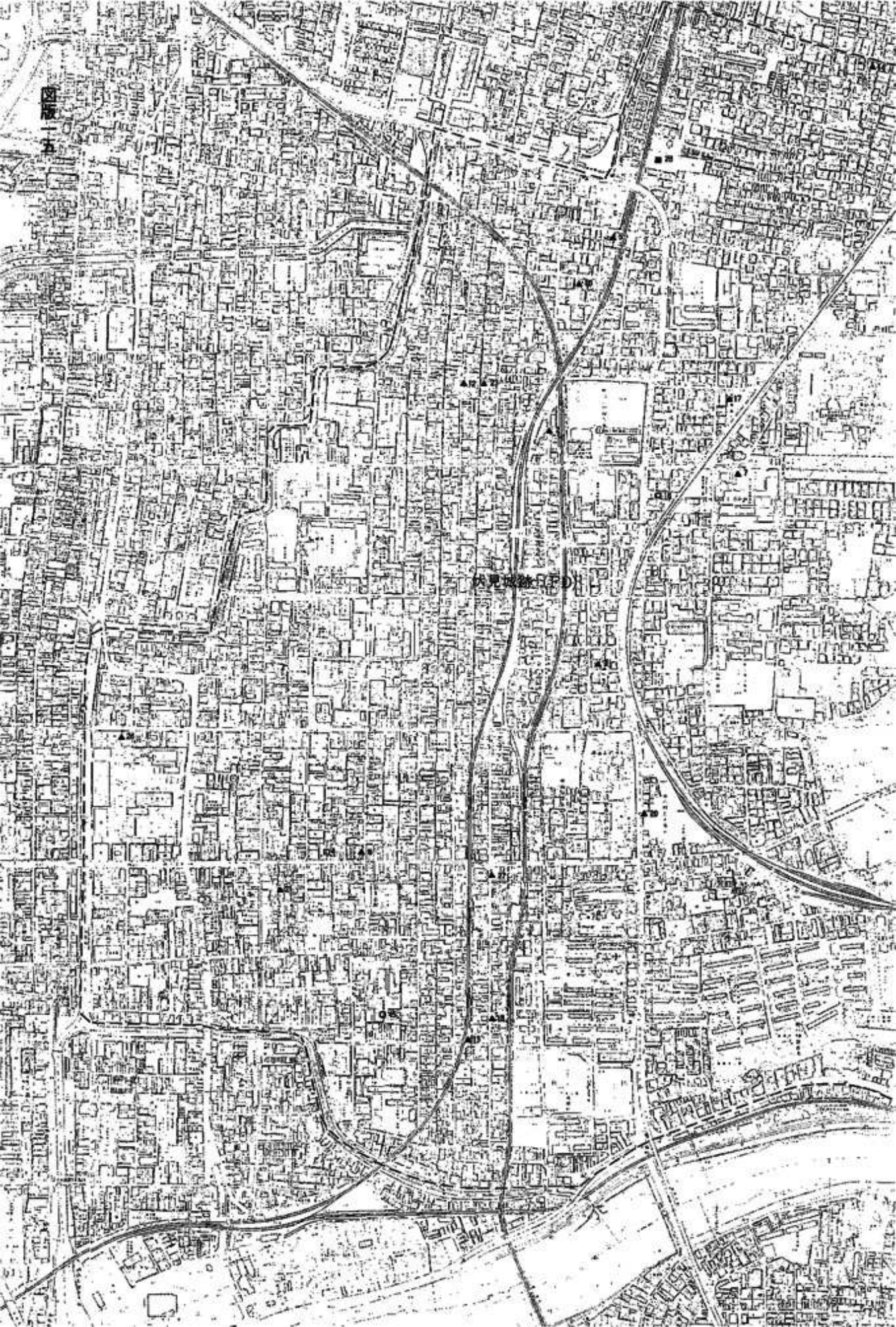
左京 八・九条 三・四坊

七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
西洞院大路
町尻小路
室町小路
烏丸小路
東洞院大路
高倉小路
万里小路
富小路
東京極大路

図版一五
植物園北遺跡（RH）
中臣遺跡（RT）
白河街区（KS）
岡崎遺跡（KS）


鳥羽離宮跡（TB）
十鳥羽遺跡（TB）

図版一五



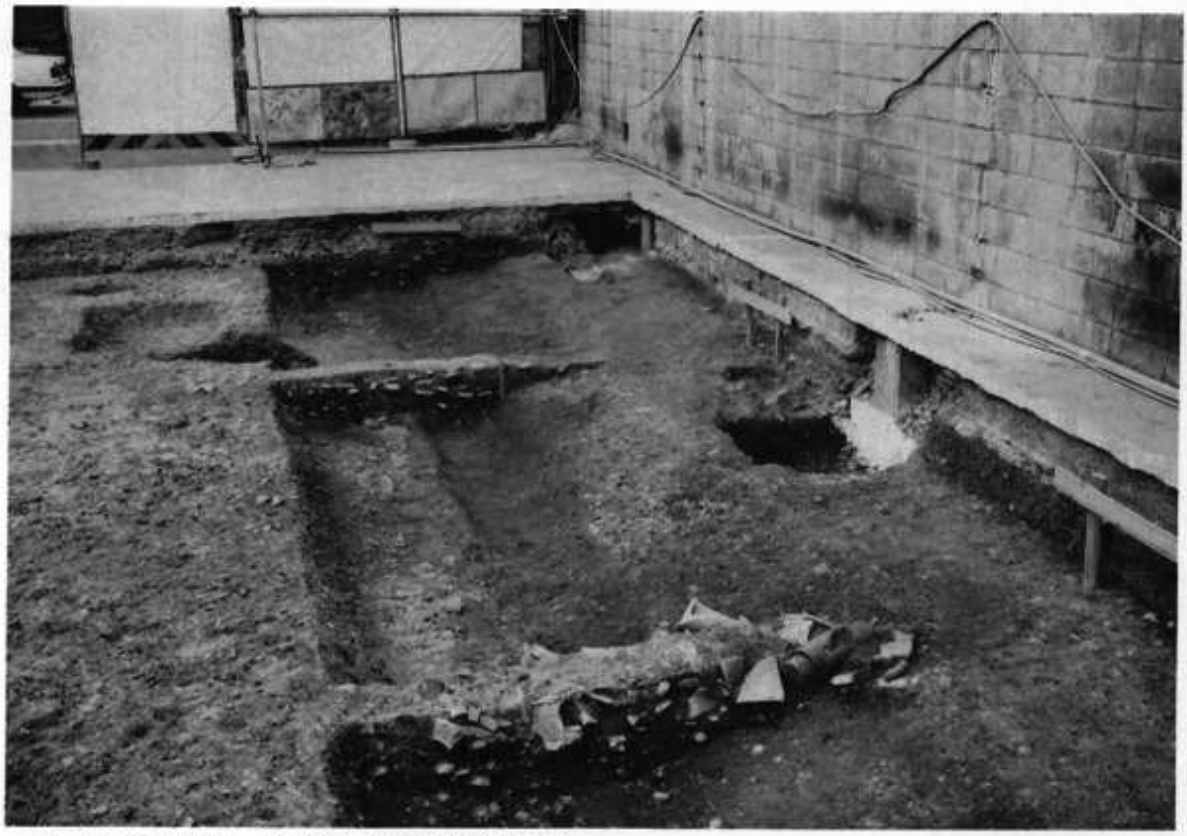
伏見城跡（FD）

1　発掘調査区（90ＨＫ-ＤＰ）平安時代遺構面全景（北西から）

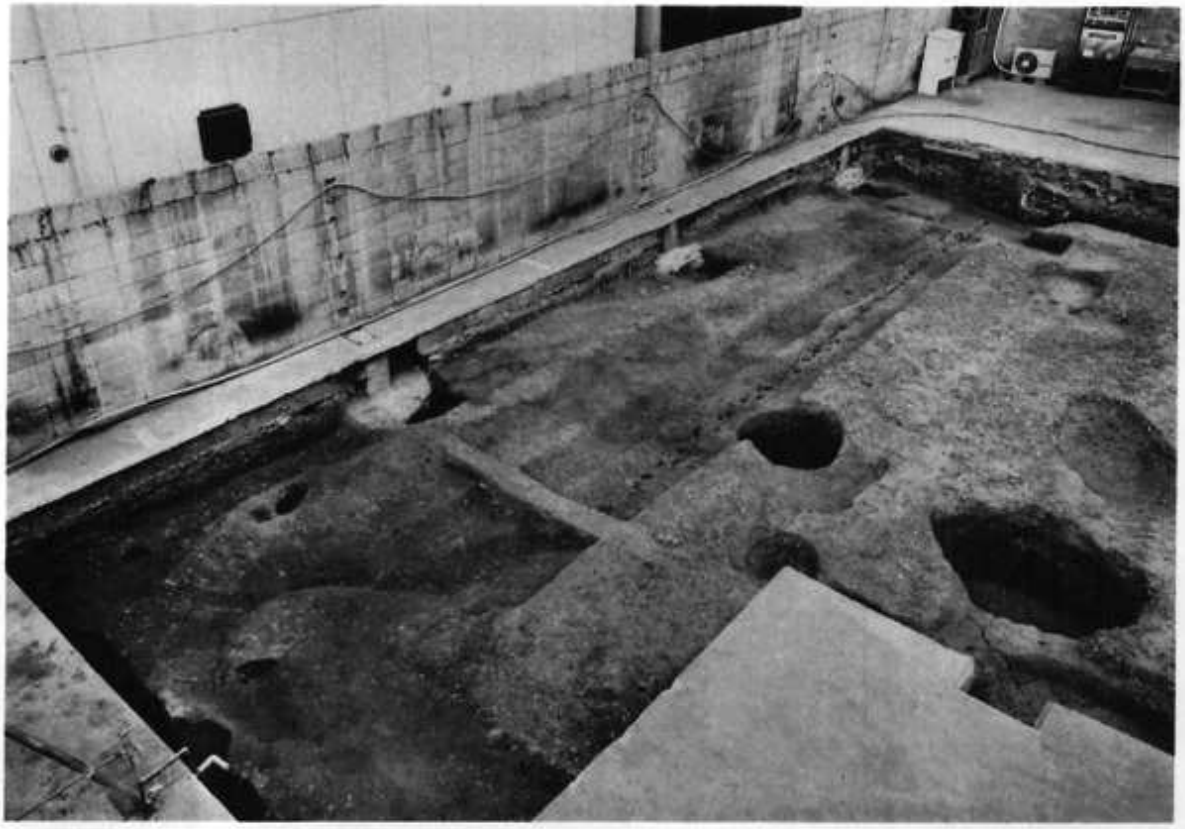
2　試掘調査区（ＨＱ25-1）・試掘調査区拡張部（ＨＱ25-2）
平安時代遺構面全景（南から）

1　SD10（東溝）瓦出土状態（南西から）

2　SD10（東溝）瓦当出土状態（北から）



1　SD10（東溝，第3期）完掘状況（南から）

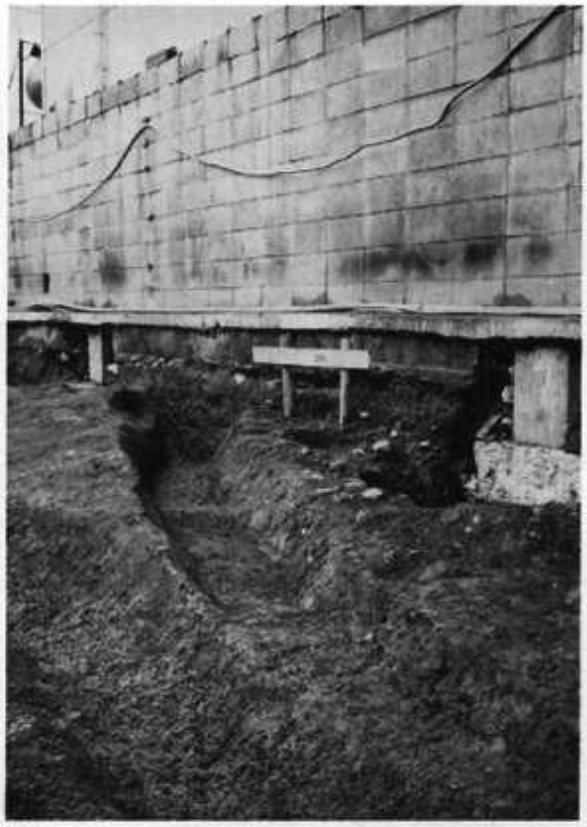


2　SD10北東コーナー部完掘状況（北西から）

1　SD10（東溝）北部杭穴
検出状況（南から）

2　試掘調査区SD10（北溝）
検出状況（南から）

3　SX39（朝堂院回廊内側コーナー部推定地）



4　SD36完掘状況（南から）

図版二〇　遺跡　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

1　遺跡全景（南から）

2　土器出土状況（南から）

No.1 地点断面（北から）

No.2 地点断面（北から）

No.3 地点断面（西から）

No.4 地点断面（東から）

図版二二　遺跡　淀城跡（TB29）

1　遺跡全景（南から）

2　石垣（南から）

1A

1B

3a

2a

4

5

10

11

軒丸瓦

6

7a

7b

軒平瓦

8a

9

12

13

14

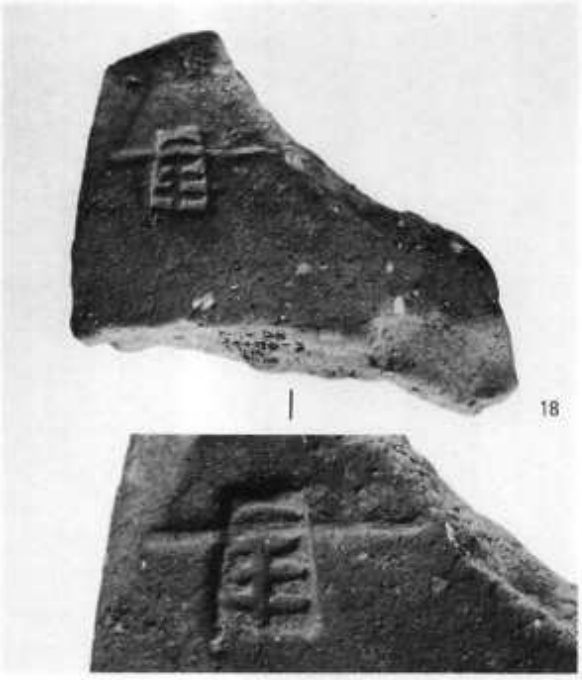
15

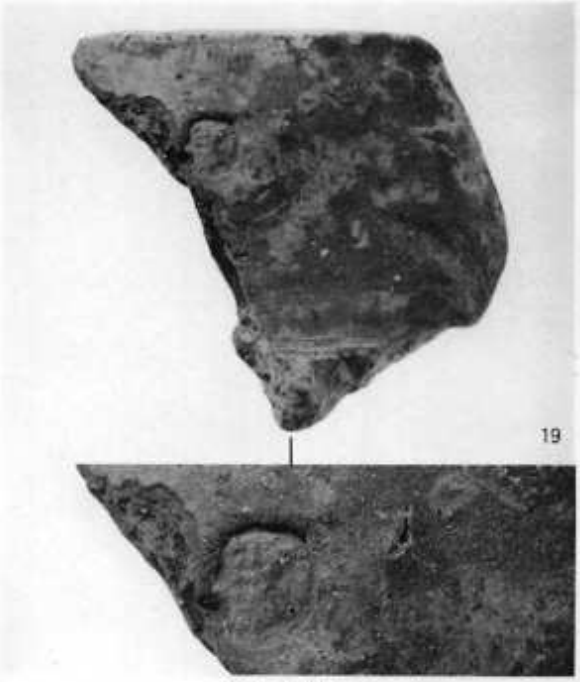
16

17

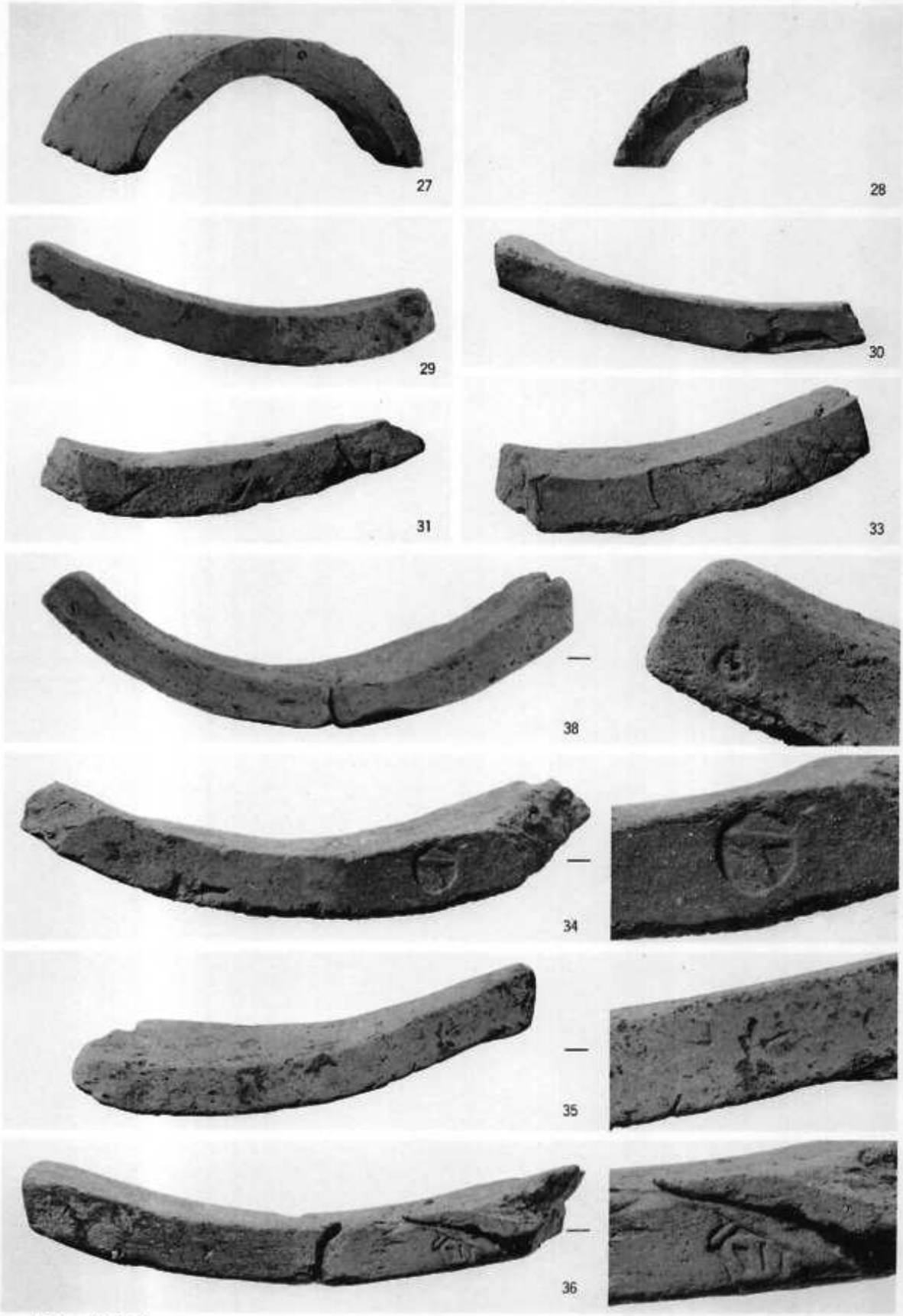
軒平瓦

図版二六　遺物　平安宮朝堂院跡（HQ25）

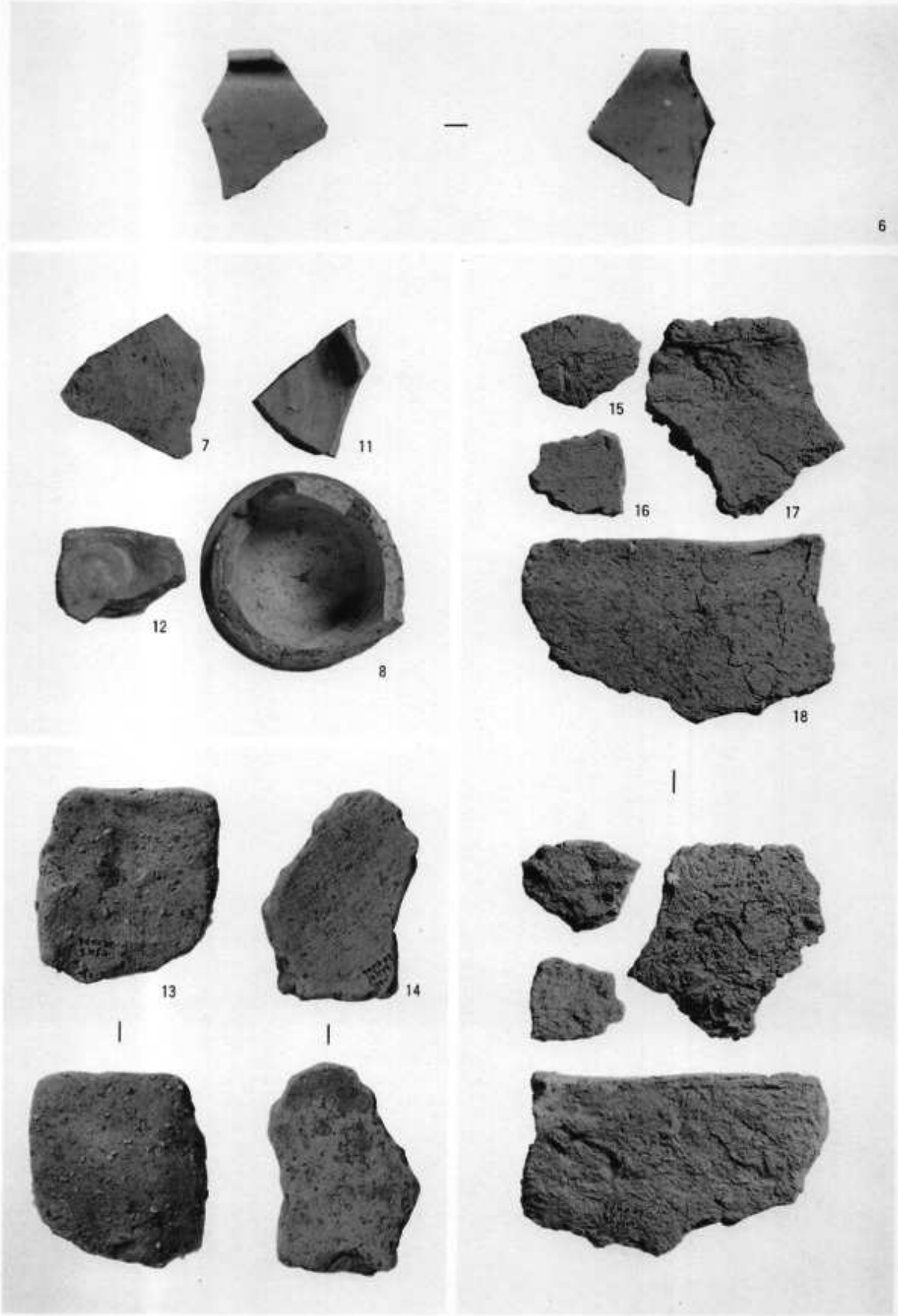




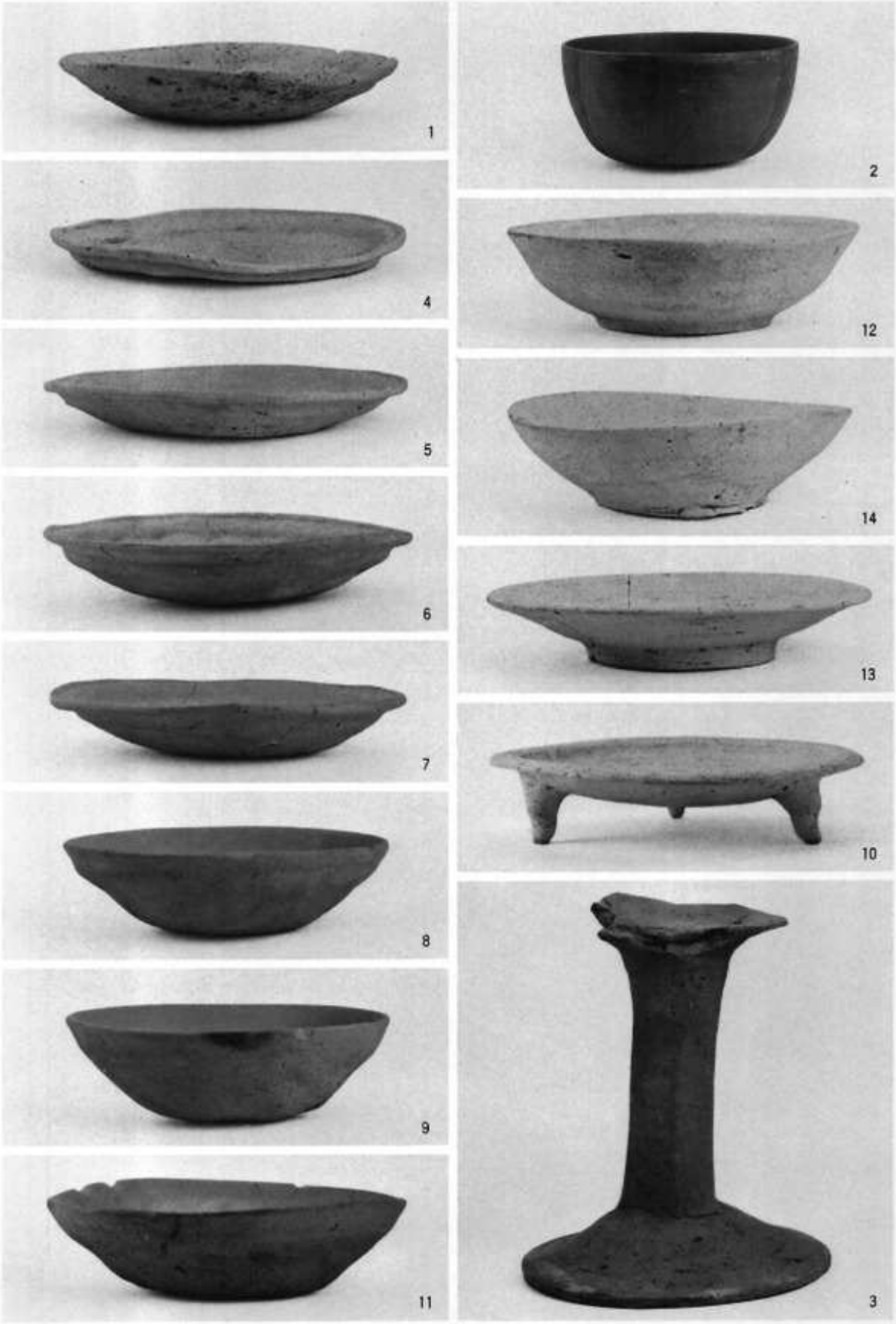
刻印瓦



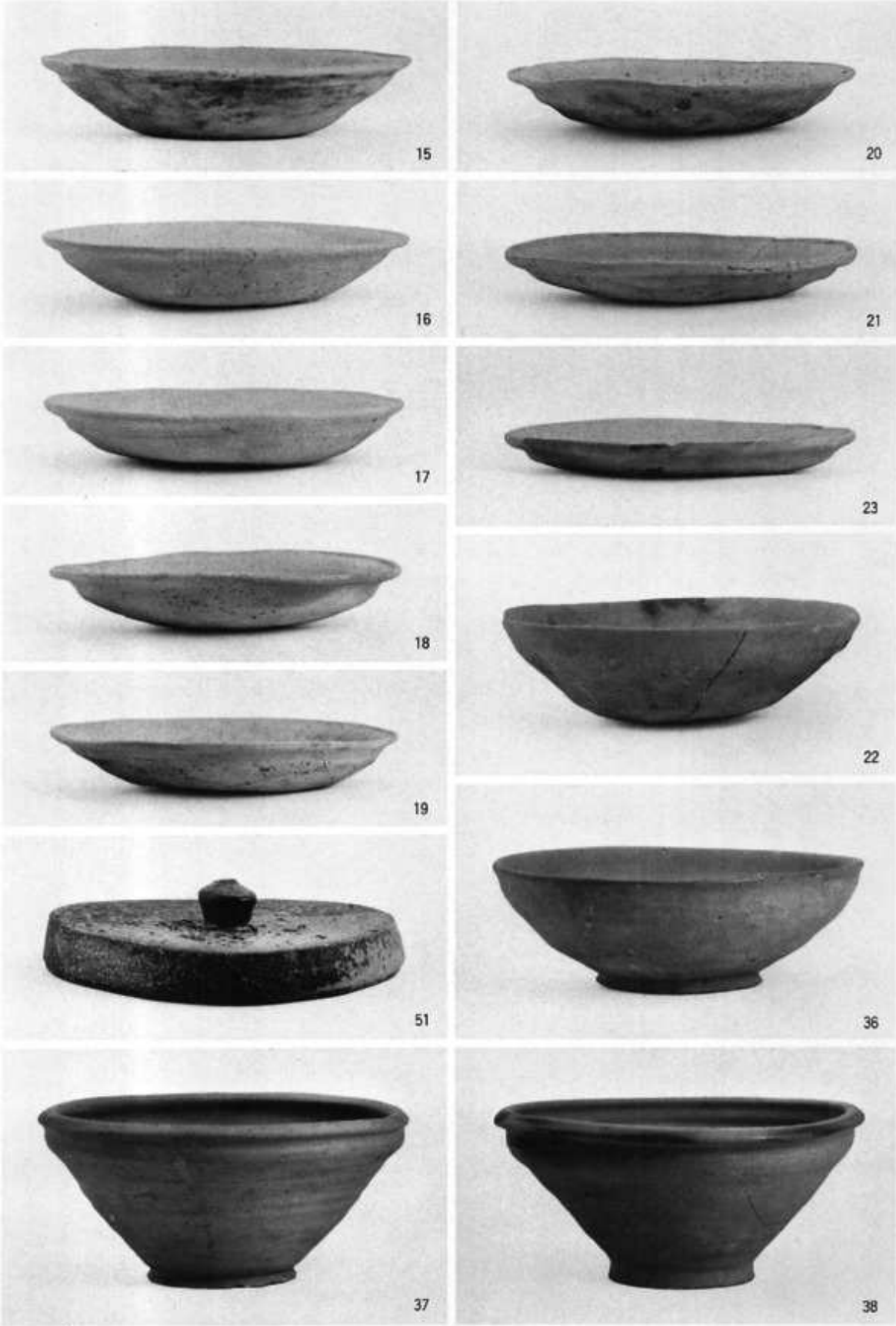
刻印・線刻瓦



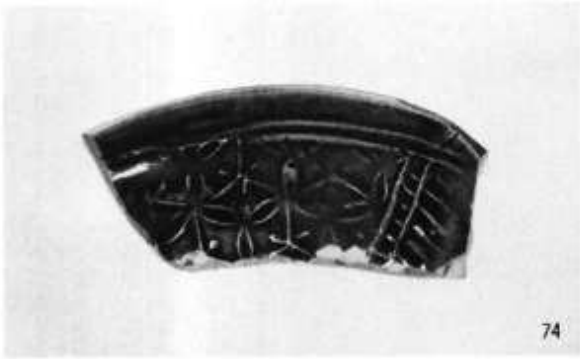
ＳＤ10出土遺物（6・15～18）、ＳＤ36出土遺物（7・8）、その他の遺構・包含層出土遺物（11～14）

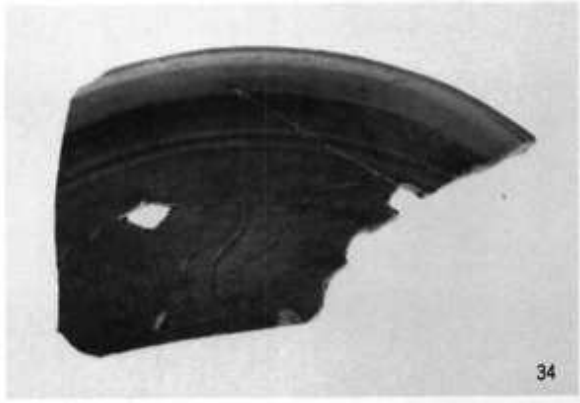


土師器・黒色土器・白色土器（ＳＫ01出土）



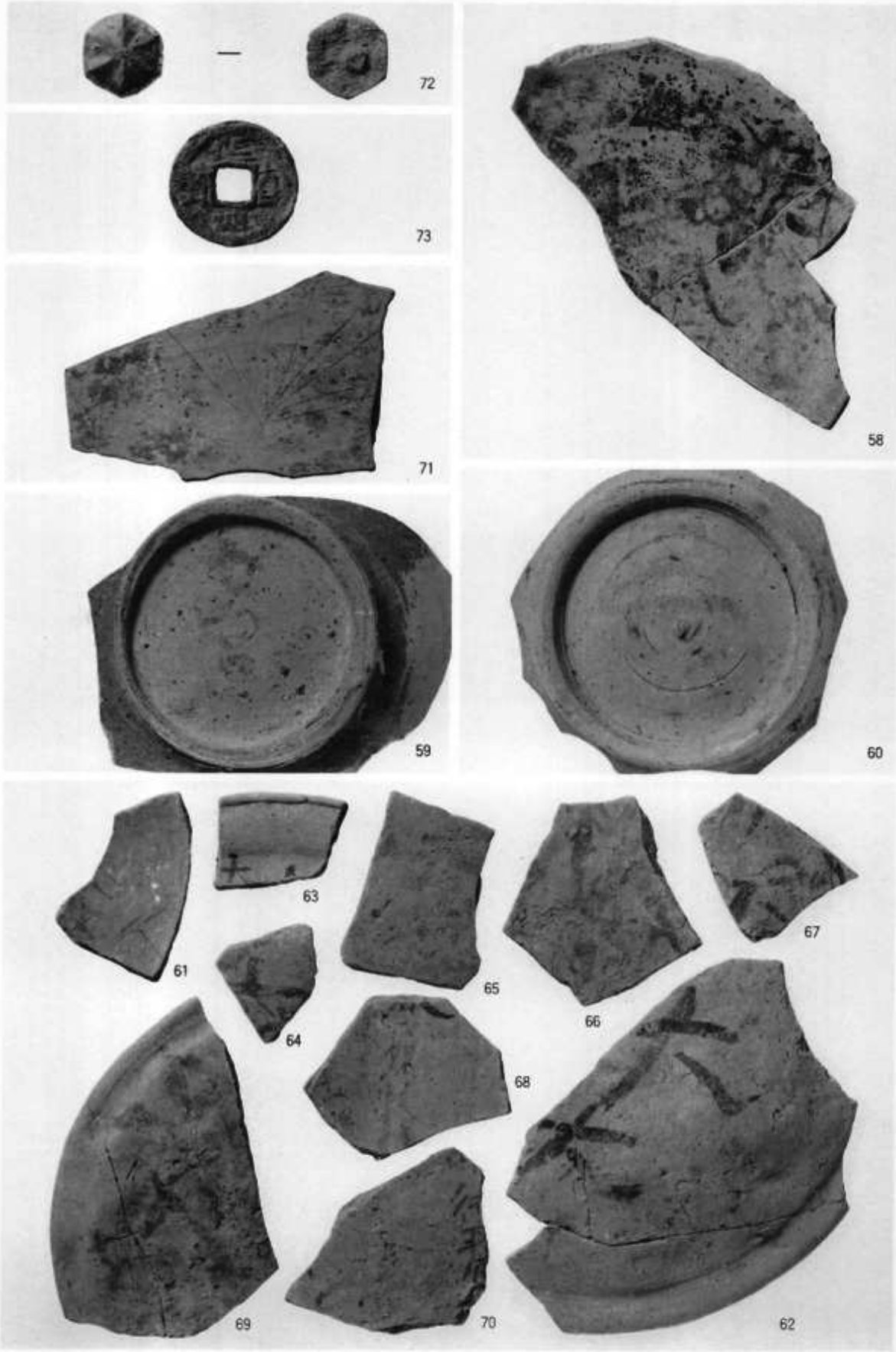
土師器・須恵器（SK07出土）





白色土器・輸入陶器・緑釉陶器（ＳＫ07出土）

図版三二　遺物　平安宮内裏跡（元年度ＨＱ73）



墨書土器・緑刻土器・金属器・銭貨

56

57

58

61

59

62

60

軒丸瓦

図版三四　遺物　平安宮内裏跡（元年度HQ73）

63

64

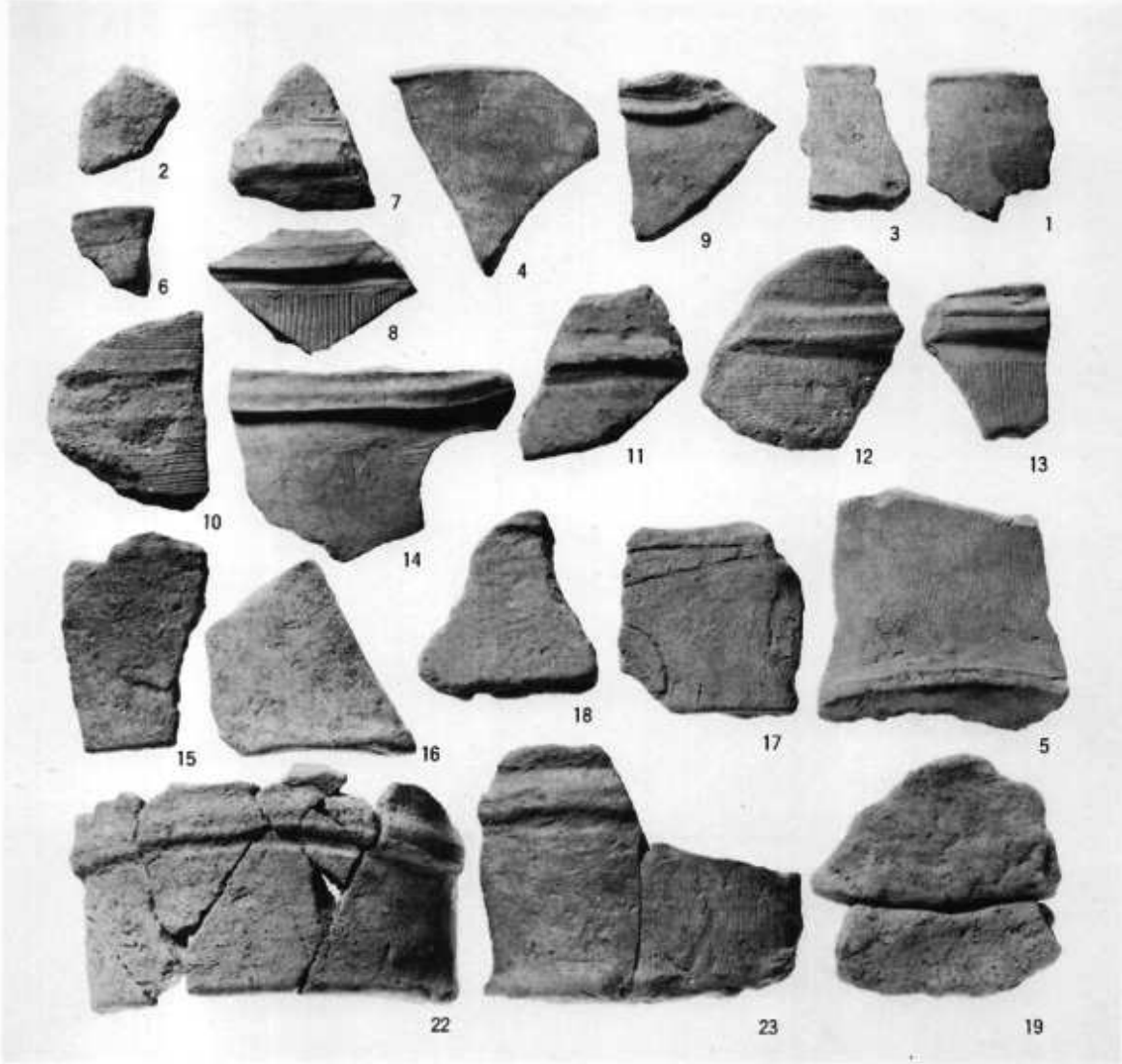
65

66

67

軒平瓦

図版三五　遺物　穀塚古墳（元年度MK11）



埴輪・土師器・須恵器

1

2

3

6

4

9

8

土師器・陶器・軒丸瓦・軒平瓦

24

25

26

27

29

30

31

32

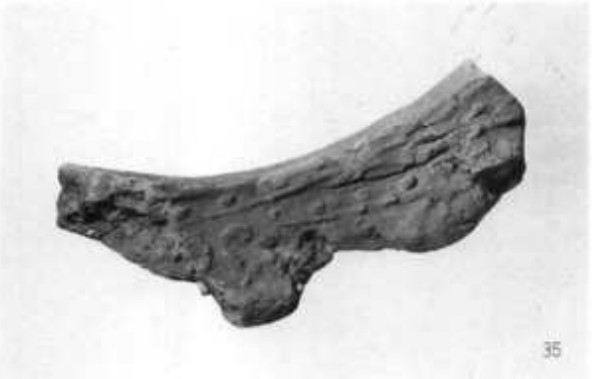
軒丸瓦・軒平瓦

33

36

34

37


35

38

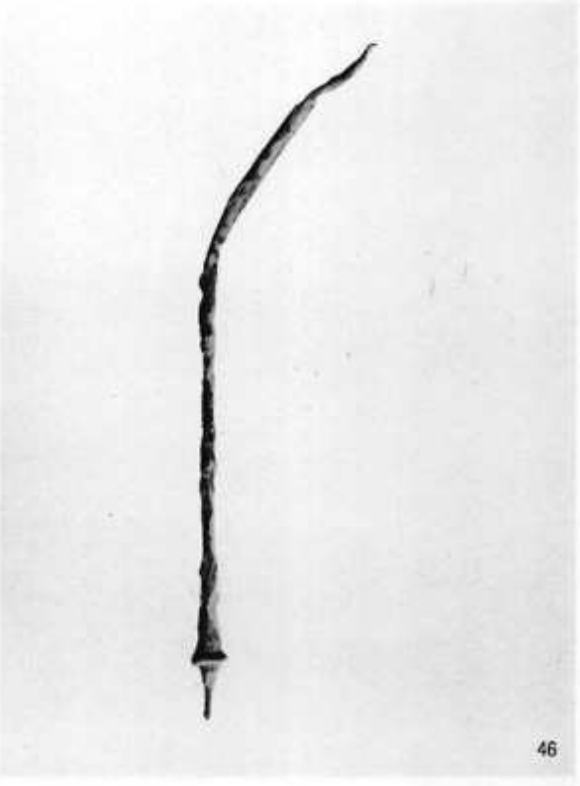
39

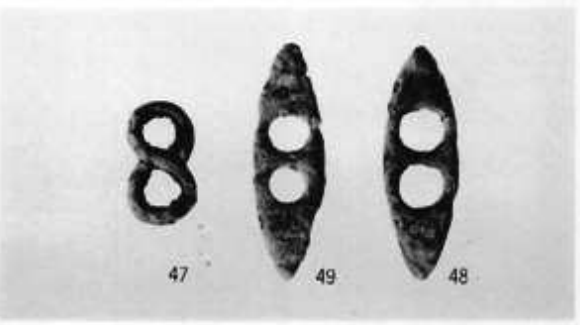
40

41

42

軒平瓦





文字瓦・鬼瓦・墨書土器・金属器

20

15

21

14

11

17

18

13

19

23

瓦器

京都市内遺跡試掘立会調査概報

平成２年度

発行日　平成３年３月30日

発　行　京都市文化観光局

住　所　京都市左京区岡崎最勝寺町13　京都会館内

編　集　財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入る元伊佐町256-1
ＴＥＬ(075)415-0521

印　刷　真陽社